

Oracle8i for Windows

リリース・ノート

リリース 8.1.7

2001 年 7 月

部品番号: J02297-03

- 注意:** このリリース・ノートに記載されている内容は、Windows 対応 Enterprise Edition、Workgroup Server、Personal Edition for WindowsNT および Client で共通です。
- 注意:** Oracle8i Personal Edition をご使用になる場合、このリリース・ノートを読む前に必ず『Oracle8i Personal Edition for Windows NT and Windows 98 共通リリース・ノート』を参照してください。
- 注意:** Oracle 製品をインストールまたは使用する前に、このリリース・ノートを参照してください。
- 注意:** 今回のリリースにて「Windows NT」と記載されている内容は、特に指定がない限り Windows NT 4.0 と Windows 2000 の両方に該当します。

ORACLE®

Copyright © 2000, Oracle Corporation
All Right Reserved

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Net8、Oracle8i、Oracle Database Configuration Assistant、Oracle *interMedia*、Oracle *interMediaText*、Oracle Names、PL/SQL、Pro*C/C++、Pro*COBOL、SQL*Forms、SQL*Loader および SQL*Plus は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

目次

はじめに.....	11
リリース・ノートの構成について	11
英語オンライン・ドキュメントの扱いについて	11
Oracle JServer の名称について	11
最新情報の入手について	11
第 1 部	12
リリース 8.1.7 製品コンポーネントリスト	13
Oracle8i Enterprise Edition for Windows NT CD-ROM (J03355-01)	13
Oracle8i Workgroup Server for Windows NT CD-ROM (J03700-01)	21
Oracle8i Personal Edition for Windows NT CD-ROM (J03925-01)	29
Oracle8i Client for Windows CD-ROM (J03356-01)	37
第 1 章 日本語環境での使用上の注意.....	40
ディスクリット・トランザクションについて.....	42
CMP の deployejb 時の言語設定について	42
Net8 OpenAPI のサポートについて	42
CORBA / Enterprise JavaBeans のインストール時の注意事項	42
Oracle Enterprise Login Assistant のヘルプについて.....	43
Oracle Wallet Manager のヘルプについて	43
Oracle Database Configuration Assistant (DBCA) について	44
共通の注意事項	44
データ・ファイルのサイズについて	44
各オプションを使用する際の注意事項	45
Oracle8i JVM (JServer) を使用する場合	45
SGA のサイズのついて	45
Oracle <i>interMedia</i> を使用する場合	46
Java 対応データベースの初期化	47
手動インストール.....	47

NET8 トレース・アシスタントについて	47
エラー・メッセージについて	47
<i>interMedia</i> 関連	48
<i>interMedia</i> Text をリリース 8.1.6 からリリース 8.1.7 に移行する手順	48
INSO フィルタでサポートするファイルの制限事項	48
JDBC サンプル・プログラムの実行	49
demo.zip の展開	49
サンプル・プログラムのコンパイルと実行	49
OCI サンプル・プログラムの実行	50
cdemodp_lip.c	50
cdemoucbl.c	50
ociaqdemo00.c	50
cdemorid.c	50
Oracle Enterprise Manager の既知の問題について	51
コンソールに関する問題	51
グループパネル	51
ジョブ・システムとイベント・システム	51
Oracle Management Server の状態表示	51
DBA Management Pack に関する問題	52
統合アプリケーションに関する問題	52
<i>interMedia</i> Text Manager に関する問題	52
Oracle Enterprise Manager Web Site について	53
Oracle Workflow の既知の問題について	53
Oracle Internet Messaging について	53
対応する Web Listener	53
バックグラウンド・エンジンの起動	54
Oracle Workflow のスキーマの構築	54
Workflow Builder の既知の問題について	55
Workflow Builder のフォントの設定に関して	55
レジストリ名および所在	55
Net8 Configuration Assistant オンラインヘルプ	56
Windows 95 の TCP/IP サポートに関して	56

R8.1.6 のドキュメントについて	57
エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ管理について	57
Oracle Internet Filesystem について	57
Citrix Metaframe (ICA クライアント) について	57
Pro*COBOL のサポートコンパイラについて	58
Oracle Objects for OLE、Oracle ODBC Driver、 Oracle Provider for OLE DB の 最新版について	58
日本語環境での Oracle Objects for OLE 8.1.7.3.11 について	58
Oracle HTTP Server について	58
OpenSSL の制限事項	58
mod_plsql キャッシュのエラー	58
Apache JServ 手動での起動方法	59
Apache モジュール	59
Oracle help For Java の既知の問題について	62
「Pro*COBOL for WindowsNT プリコンパイラ・スタート・ガイド」の訂正	62
Pentium4 搭載マシンで使用する場合の注意事項	62
cl ファイルを使って起動する設定ツール一覧 (カッコ内は、対応する cl ファイル)	64
第 2 部	65
第 2 章 Oracle8i for Windows リリース・ノート	66
新機能	67
Legato Storage Manager	67
Oracle Internet File System Oracle Internet File System (IFS) リリース 1.1 は、 次のものに同梱されるようになりました。	67
CD-ROM に含まれていない製品およびサポートが終了した機能	67
ドキュメント	67
追加された README	67
改版された Windows 版ドキュメント	67
追加された Windows 版ドキュメント	68
廃止された Windows 版ドキュメント	68
リリース 8.1.6 ドキュメントの訂正	68
Windows 2000 および Windows 98	70

Windows 2000 のサポート	70
Windows 2000 ユーザー	71
DNS ドメイン名	71
Windows 2000 Multi-language Edition	71
Windows 95 および Windows 98 ユーザー	72
Windows 95 での Oracle Objects for OLE データ・コントロールの登録.....	72
インストールの問題点	73
確認されている問題点、制限および解決策	73
削除	75
Oracle Intelligent Agent.....	76
再配布可能システム・ファイル	76
Windows 95 または Windows 98 での Oracle Home Selector の使用	77
Oracle8i Management and Integration のカスタム・インストール	77
Web ベースのインストール	79
Oracle Workflow Mailer のインストール	80
確認されているアップグレードの問題点	81
Required Support Files の互換性	81
システム・トリガーの使用可能および使用禁止の設定	81
Heterogeneous Services Agent Control Utility	82
エラーORA-00604 を無視: アップグレード時.....	82
8.1.5 から 8.1.6 へ、8.1.6 から 8.1.7 へのアップグレード	82
サーバー側コンポーネントの部分アップグレード.....	83
システム管理製品	84
Oracle Database Configuration Assistant.....	84
OEM_MONITOR データベース・ロール.....	84
Enterprise Manager コンソール	84
Windows での Oracle8i ネットワーク、ディレクトリおよびセキュリティの問題.....	85
確認されている問題点、制限および解決策	85
Windows 固有の認証（ネイティブ認証）	86
Active Directory	87
確認されている問題点、制限および解決策	87
Windows 2000 での使用.....	87

Oracle8i 8.1.7 データベースおよび Active Directory	88
Oracle Internet Directory	88
Windows NT での Secure Sockets Layer (SSL)	88
Enterprise JavaBeans	89
Oracle Administration Assistant for Windows NT	89
Microsoft Windows Terminal Server (TSE)	89
Microsoft Windows Terminal Server の概要	89
サポートされる Windows Terminal Server	90
Windows Terminal Server でサポートされない Oracle 製品および機能	90
Terminal Server でのリスナーの開始	91
Oracle Parallel Server	91
ロー・デバイスおよび SYSTEM 表領域の作成	91
Oracle Database Configuration Assistant	92
プリコンパイラ	93
確認されている問題点、制限および解決策	93
Oracle コール・インタフェース	93
Pro*C/C++プリコンパイラ	93
Oracle XA Library	94
Microsoft Transaction Server (MTS)	94
オラクル社の Microsoft Transaction Server に関するドキュメントの訂正	94
Oracle Service for Microsoft Transaction Server リソース DLL	95
Oracle Performance Monitor for Windows NT	95
ORADIM	95
Oracle8i 初期化パラメータ	96
Oracle8i による Very Large Memory (VLM) 構成のサポート	96
Oracle HTTP Server	99
Oracle HTTP Server の起動および停止	99
サーバーが稼働中であることの確認	99
デフォルトの Initial Static Page およびその他のステータス・ページ	100
ログ・ファイルのチェック	100
インストールの最後に Oracle HTTP Server を起動	101
サイレント・インストール後に Oracle HTTP Server を起動	101

JDBC ドライバのデフォルトの動作	102
Oracle Migration Workbench.....	102
インストールの問題点	102
Oracle_Home ディレクトリへのインストール	103
Windows 95/98 から Migration Workbench を起動する場合の問題.....	103
Sybase のソース・マスター・データベースのロード	104
Oracle Migration Workbench のインストール	104
Oracle Migration Workbench の起動	104
Oracle Migration Workbench リリース・ノートの位置.....	105
Modal Dialog からヘルプを起動する際の制限	105
確認されている問題点、制限および解決策	105
VOLSIZE パラメータをサポートしないエクスポート・ユーティリティ.....	105
Oracle サービスを実行するためのユーザー権限	106
Windows NT 4.0 SP6a を使用している Dell GX110 コンピュータが 自動的に再起動	106
SYSTEM としてログオンし 開始モード：自動 に設定した Windows 2000 上の Oracle データベース・サービス	106
第 3 章 Oracle Servlet Engine	107
はじめに.....	107
パラメータ・ファイルの変更.....	108
ケース 1.....	108
ケース 2.....	108
第 4 章 Oracle Objects for OLE (OO4O) R8.1.7.3.11 リリース・ノート.....	111
インストール上の注意	112
システム要件.....	112
一般情報および依存コンポーネント	113
新機能	113
サンプル・ファイル	113
Long/Long Raw 型から BLOB、CLOB または BFILE 型への移行の推奨.....	114
スタート・ガイド	114
C++サンプル・アプリケーションの構築	115
インストールのレイアウト	115

再配布可能ファイル	115
確認されている問題	116
Oracle In-Process Server	116
可変幅キャラクタ・セットでの CLOB の使用	116
長さが不明な場合の LOB 書込みでのポーリングの使用	117
OraParameter 値が空の文字列ではなく NULL のバリエーションを返す	117
接頭辞"Db"から始まるメソッドをドキュメントから削除	117
RAW にバインドされた OraParameter および OraParamArray での バイト配列のサポート	117
OraAQ オブジェクトの MonitorStart メソッドは、DCOM のない 旧バージョンの Windows 95 ではサポートされない	118
NCHAR または NVARCHAR2 データ型による ORA-12704 の発生	118
型ライブラリの変更	118
ORADYN_ORAMODE のダイナセットを持つ LOB 列	118
Lob、Object、REF、コレクションの使用済書込み	119
Windows 95 でのフリー・スレッド化	119
OpenDatabase の ORADB_NOWAIT オプション	119
LONG/LONG RAW 列の ChunkSize	119
MoveTo、MoveRel、Movexxxxn の動作	119
Find メソッド	120
Oracle データ・コントロール	120
カスタム・コントロール・サポート	120
Microsoft Visual Basic の標準コントロール	121
静的テキスト・コントロール	121
Picture ボックスおよび Image コントロール	121
Microsoft OLE コンテナ・コントロール	121
Microsoft Data Bound リストボックス・コントロール	121
Microsoft Data Bound コンボボックス・コントロール	121
Microsoft Data Bound グリッド・コントロール	122
MSGRID の SelBookmarks プロパティは ORADC.Recordset.Bookmark では機能しない	123
Sheridan Data Widgets	123

Sheridan Data Bound コンボ・コントロール.....	123
Sheridan Data Bound ドロップダウン・コントロール	123
Sheridan Data Bound グリッド・コントロール.....	124
Sheridan Enhanced データ・コントロール	124
FarPoint Data Bound グリッド・コントロール.....	125
Oracle クラス・ライブラリ.....	125
OSShutdown()実行後のプログラム終了時のアクセス違反	126
RAW データ型の追加サポート.....	127
ORACLM32.LIB とリンクしようとするエラーが発生する	127
ApartmentThreaded（デフォルト）オプション付きの OStartup.....	128
エラー: CoInitializeEx()が OLE32.DLL で見つかりません。	128
VC++でのデータ・コントロールの使用.....	128
IIS/ASP.....	129
IIS 4.0.....	129
ASP での Long/Long Raw 列の読み込み	129
このリリースで改善された問題の概要	130
第 5 章 Oracle Provider for OLE DB 8.1.7.0.0	131
重要なインストール情報.....	131
Microsoft Visual Basic 6.0 の注意.....	131
Microsoft Visual C++ 6.0 の注意.....	131
新機能および 8.1.6.1.0 からの改善点.....	132
Unicode サポート	132
ストアド・プロシージャに対する LOB パラメータ	132
SQL 文に対する NCHAR パラメータ	132
コマンドのカスタム・プロパティ	133
複数行セット.....	133
行セットを返すパッケージ化されていないストアド・プロシージャまたは ファンクション	133
ADOX サポート	134
ヒント、制限および確認されている問題.....	134
第 6 章 Oracle8 ODBC Driver リリース 8.1.7.0.0.....	137
説明	137

新機能	137
ODBC 8.1.7.0.0	137
ODBC 8.1.5.4.0	138
ODBC 8.1.5.3.0	138
機能性	138
必要なハードウェア	139
必要なソフトウェア	139
サーバーに必要なソフトウェア	139
リリース・ノート	139
インストール後の処理	139
新機能	139
データ変換	140
SQLDescribeParam	141
Oracle8 ODBC Driver の既知のソフトウェア問題	141

はじめに

※ 米国ではホームページ、ホワイトペーパー等で Oracle8i Release 3 と呼ばれていますが、国内ではこれまでの呼び方との整合性を保つため、「Release 3」とは呼ばずに、「リリース 8.1.7」あるいは「R8.1.7」と呼びます。

リリース・ノート構成について

本リリース・ノートの第 2 章以降は英語ドキュメントの翻訳版です。日本固有の情報については、第 1 章を参照してください。

英語オンライン・ドキュメントの扱いについて

CD 媒体上の英語のドキュメントと同一のドキュメントが日本語で提供されている場合は、日本語版を参照してください。

Oracle JServer の名称について

リリース 8.1.7 より Oracle JServer の名称が変更になりました。新しくは「Oracle8i JVM」となります。Oracle8i 関連マニュアルおよび CD-ROM 製品で Oracle JServer の名称が混在して表示される場合がありますが同じ製品を示しておりますので、注意してください。

最新情報の入手について

日本オラクルでは、インターネット開発者向けのあらゆる技術リソースを、24 時間 365 日提供するコミュニティ・サイト OTN-J (Oracle Technology Network Japan) を運営しています。OTN-J では、最新の技術情報、オンライン・マニュアル、ソフトウェア・コンポーネントなどを、無料で入手できます。

<http://otn.oracle.co.jp/>

第 1 部

リリース 8.1.7 製品コンポーネントリスト

Oracle8i Enterprise Edition for Windows NT CD-ROM (J03355-01)

Oracle8i Enterprise Edition	8.1.7.0.0	
Oracle8i Server	8.1.7.0.0	
Oracle HTTP Server	1.3.12.0.1a	
Oracle HTTP Server Extensions	8.1.7.0.0	
Apache Module for Oracle Servlet Engine	8.1.7.0.0	
Oracle Mod PL/SQL Gateway	3.0.0.8.0	
BC4J Runtime	3.2.1	
Apache Configuration for Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	
Oracle Product Options	8.1.7.0.0	
Oracle Time Series	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle Visual Information Retrieval	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle Spatial	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle COM Automation Feature	8.1.7.0.0	
Oracle Advanced Security	8.1.7.0.0	
Oracle <i>interMedia</i>	8.1.7.0.0	
Advanced Replication	8.1.7.0.0	
Oracle Partitioning	8.1.7.0.0	
Oracle Parallel Server	8.1.7.0.0	
Net8 Products	8.1.7.0.0	
Net8 Client	8.1.7.0.0	
Net8 Server	8.1.7.0.0	
Oracle Names	8.1.7.0.0	
Oracle Connection Manager	8.1.7.0.0	

Oracle SNMP Agent	8.1.7.0.0	
Oracle Protocol Support	8.1.7.0.0	*(2)
Oracle Utilities	8.1.7.0.0	
Oracle Performance Monitor for Windows NT	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle Database Utilities	8.1.7.0.0	
SQL*Plus	8.1.7.0.0	
Oracle Java Products	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Drivers	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.2	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.1	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.2	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.1	8.1.7.0.0	
Oracle SQLJ	8.1.7.0.0	
Oracle Java Tools	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Products	8.1.7.0.0	
Oracle Intelligent Agent	8.1.7.0.0	
Oracle Agent Extensions	8.1.7.0.0	
Oracle Applications Extensions	8.1.7.0.0	
Oracle HTTP Server Extensions	8.1.7.0.0	
Oracle eBusiness Management Extensions	8.1.7.0.0	
Oracle Forms Extensions	8.1.7.0.0	
Microsoft SQLServer(TM) Extensions	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle Management Server	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Client	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Integrated Applications	2.2.0.0.0	
Oracle <i>inter</i> Media Text Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Spatial Index Advisor	2.2.0	*(1)

Oracle Directory Manager	2.1.1.0.0	
Oracle Forms Server Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Security Manager	2.0.0.1.0	
Net8 Integration	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Management Pack	2.2.0.0.0	
Oracle Schema Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Storage Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Security Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Instance Manager	2.2.0.0.0	
SQL*Plus Worksheet	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Studio	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Events	2.2.0.0.0	
Oracle Diagnostic Pack Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for SAP R/3 Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for Oracle Applications Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Enterprise Manager Web Site	2.2.0.0.0	
Oracle HTTP Server	1.3.12.0.1a	
Oracle HTTP Server Extensions	8.1.7.0.0	
Apache Module for Oracle Servlet Engine	8.1.7.0.0	
Oracle Mod PL/SQL Gateway	3.0.0.8.0	
BC4J Runtime	3.2.1	
Apache Configuration for Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Quick Tours	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Paging Server	2.2.0.0.0	
Oracle Configuration Assistants	8.1.7.0.0	
Oracle Data Migration Assistant	8.1.7.0.0	
Oracle Database Configuration Assistant	8.1.7.0.0	

Development Tools	8.1.7.0.0	
Oracle Call Interface (OCI)	8.1.7.0.0	
Object Type Translator	8.1.7.0.0	
Oracle Objects for OLE	8.1.7.3.11	
Oracle ODBC Driver	8.1.7.0.0	
Oracle Provider for OLE DB	8.1.7.0.0	
Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	*(3)
Oracle XML SQL Utility	2.0.0.0.0	
Oracle Installation Products	8.1.7.0.0	
Oracle Universal Installer	1.7.1.9.0	
Oracle Migration Workbench	1.3.0.0.0	*(1)
MS SQL Server 6.5 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
MS SQL Server 7.0 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
Sybase Adaptive Server 11 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
Oracle Services for Microsoft Transaction Server	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle Administration Assistant for Windows NT	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle8i Windows Documentation	8.1.7.0.0	
Generic Connectivity	8.1.7.0.0	*(1)
Legato Storage Manager	5.7	*(5)
Oracle8i Client	8.1.7.0.0	
Net8 Products	8.1.7.0.0	
Net8 Client	8.1.7.0.0	
Oracle Protocol Support	8.1.7.0.0	*(2)
Oracle Utilities	8.1.7.0.0	
Oracle Performance Monitor for Windows NT	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle Database Utilities	8.1.7.0.0	
SQL*Plus	8.1.7.0.0	
Oracle Java Products	8.1.7.0.0	

Oracle JDBC Drivers	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.2	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.1	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.2	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.1	8.1.7.0.0	
Oracle SQLJ	8.1.7.0.0	
Oracle Java Tools	8.1.7.0.0	
Oracle Programmer	8.1.7.0.0	
Development Tools	8.1.7.0.0	
Oracle Call Interface (OCI)	8.1.7.0.0	
Object Type Translator	8.1.7.0.0	
Oracle Objects for OLE	8.1.7.3.11	
Oracle ODBC Driver	8.1.7.0.0	
Oracle Provider for OLE DB	8.1.7.0.0	
Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	*(3)
Pro*C/C++	8.1.7.0.0	
Pro*COBOL	8.1.7.0.0	
Pro*COBOL	1.8.52.0.0	
Oracle Enterprise Manager Products	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Client	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Integrated Applications	2.2.0.0.0	
Oracle <i>interMedia</i> Text Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Spatial Index Advisor	2.2.0	*(1)
Oracle Directory Manager	2.1.1.0.0	
Oracle Forms Server Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Security Manager	2.0.0.1.0	
Net8 Integration	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	

Oracle DBA Management Pack	2.2.0.0.0	
Oracle Schema Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Storage Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Security Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Instance Manager	2.2.0.0.0	
SQL*Plus Worksheet	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Studio	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Events	2.2.0.0.0	
Oracle Diagnostic Pack Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for SAP R/3 Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for Oracle Applications Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Enterprise Manager Quick Tours	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Paging Server	2.2.0.0.0	
Oracle Advanced Security	8.1.7.0.0	
Oracle Installation Products	8.1.7.0.0	
Oracle Universal Installer	1.7.1.9.0	
Oracle Migration Workbench	1.3.0.0.0	*(1)
MS SQL Server 6.5 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
MS SQL Server 7.0 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
Sybase Adaptive Server 11 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
Oracle Services for Microsoft Transaction Server	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle <i>interMedia</i> Client Option	8.1.7.0.0	
Oracle Visual Information Retrieval Client	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle Internet Directory Client	2.1.1.0.0	
Oracle Workflow Client	2.5.2	
Oracle Workflow Builder	2.5.2.16.14	
Oracle Workflow Mailer	2.5.2.0	
Oracle8i Windows Documentation	8.1.7.0.0	

Oracle8i Management and Integration	8.1.7.0.0	
Oracle Management Server	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Client	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Integrated Applications	2.2.0.0.0	
Oracle <i>inter</i> Media Text Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Spatial Index Advisor	2.2.0	*(1)
Oracle Directory Manager	2.1.1.0.0	
Oracle Forms Server Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Security Manager	2.0.0.1.0	
Net8 Integration	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Management Pack	2.2.0.0.0	
Oracle Schema Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Storage Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Security Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Instance Manager	2.2.0.0.0	
SQL*Plus Worksheet	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Studio	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Events	2.2.0.0.0	
Oracle Diagnostic Pack Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for SAP R/3 Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for Oracle Applications Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Enterprise Manager Web Site	2.2.0.0.0	
Oracle HTTP Server	1.3.12.0.1a	
Oracle HTTP Server Extensions	8.1.7.0.0	
Apache Module for Oracle Servlet Engine	8.1.7.0.0	
Oracle Mod PL/SQL Gateway	3.0.0.8.0	

BC4J Runtime	3.2.1	
Apache Configuration for Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Quick Tours	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Paging Server	2.2.0.0.0	
Oracle Internet Directory	2.1.1.0.0	
Oracle Integration Server	8.1.7.0.0	
Oracle8i Server	8.1.7.0.0	
Oracle Partitioning	8.1.7.0.0	
Oracle Advanced Security	8.1.7.0.0	
Oracle Workflow	2.5.2	
Oracle Message Broker	2.0.1.0.1a	*(1)
Advanced Replication	8.1.7.0.0	
Oracle Applications InterConnect	3.1.3	*(1)
Oracle8i Windows Documentation	8.1.7.0.0	

備考 コンポーネントは製品メディアに含まれる製品コンポーネント一覧を記載したもので、製品ライセンスとは対応していません。

- *(1) 日本ではサポートされていません。
- *(2) LU6.2 プロトコルはこのバージョンではサポートされません。
- *(3) XML Developer's kit for C/C++は日本ではサポートされていません
- *(4) Windows NT/2000 でのみインストール可能です。
- *(5) Oracle Parallel Server を使用した環境ではサポートされていません。

Oracle8i Workgroup Server for Windows NT CD-ROM (J03700-01)

Oracle8i	8.1.7.0.0	
Oracle8i Server	8.1.7.0.0	
Oracle HTTP Server	1.3.12.0.1a	
Oracle HTTP Server Extensions	8.1.7.0.0	
Apache Module for Oracle Servlet Engine	8.1.7.0.0	
Oracle Mod PL/SQL Gateway	3.0.0.8.0	
BC4J Runtime	3.2.1	
Apache Configuration for Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	
Oracle Product Options	8.1.7.0.0	
Oracle COM Automation Feature	8.1.7.0.0	
Oracle <i>interMedia</i>	8.1.7.0.0	
Advanced Replication	8.1.7.0.0	
Net8 Products	8.1.7.0.0	
Net8 Client	8.1.7.0.0	
Net8 Server	8.1.7.0.0	
Oracle Names	8.1.7.0.0	
Oracle Connection Manager	8.1.7.0.0	
Oracle SNMP Agent	8.1.7.0.0	
Oracle Protocol Support	8.1.7.0.0	*(2)
Oracle Utilities	8.1.7.0.0	
Oracle Performance Monitor for Windows NT	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle Database Utilities	8.1.7.0.0	
SQL*Plus	8.1.7.0.0	
Oracle Java Products	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Drivers	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.2	8.1.7.0.0	

Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.1	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.2	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.1	8.1.7.0.0	
Oracle SQLJ	8.1.7.0.0	
Oracle Java Tools	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Products	8.1.7.0.0	
Oracle Intelligent Agent	8.1.7.0.0	
Oracle Agent Extensions	8.1.7.0.0	
Oracle Applications Extensions	8.1.7.0.0	
Oracle HTTP Server Extensions	8.1.7.0.0	
Oracle eBusiness Management Extensions	8.1.7.0.0	
Oracle Forms Extensions	8.1.7.0.0	
Microsoft SQLServer(TM) Extensions	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle Management Server	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Client	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Integrated Applications	2.2.0.0.0	
Oracle <i>interMedia</i> Text Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Spatial Index Advisor	2.2.0	*(1)
Oracle Directory Manager	2.1.1.0.0	
Oracle Forms Server Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Security Manager	2.0.0.1.0	
Net8 Integration	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Management Pack	2.2.0.0.0	
Oracle Schema Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Storage Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Security Manager	2.2.0.0.0	

Oracle Instance Manager	2.2.0.0.0	
SQL*Plus Worksheet	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Studio	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Events	2.2.0.0.0	
Oracle Diagnostic Pack Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for SAP R/3 Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for Oracle Applications Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Enterprise Manager Web Site	2.2.0.0.0	
Oracle HTTP Server	1.3.12.0.1a	
Oracle HTTP Server Extensions	8.1.7.0.0	
Apache Module for Oracle Servlet Engine	8.1.7.0.0	
Oracle Mod PL/SQL Gateway	3.0.0.8.0	
BC4J Runtime	3.2.1	
Apache Configuration for Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Quick Tours	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Paging Server	2.2.0.0.0	
Oracle Configuration Assistants	8.1.7.0.0	
Oracle Data Migration Assistant	8.1.7.0.0	
Oracle Database Configuration Assistant	8.1.7.0.0	
Development Tools	8.1.7.0.0	
Oracle Call Interface (OCI)	8.1.7.0.0	
Object Type Translator	8.1.7.0.0	
Oracle Objects for OLE	8.1.7.3.11	
Oracle ODBC Driver	8.1.7.0.0	
Oracle Provider for OLE DB	8.1.7.0.0	
Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	*(3)
Oracle XML SQL Utility	2.0.0.0.0	
Oracle Installation Products	8.1.7.0.0	

Oracle Universal Installer	1.7.1.9.0	
Oracle Migration Workbench	1.3.0.0.0	*(1)
MS SQL Server 6.5 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
MS SQL Server 7.0 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
Sybase Adaptive Server 11 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
Oracle Services for Microsoft Transaction Server	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle Administration Assistant for Windows NT	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle8i Windows Documentation	8.1.7.0.0	
Generic Connectivity	8.1.7.0.0	*(1)
Legato Storage Manager	5.7	
Oracle8i Client	8.1.7.0.0	
Net8 Products	8.1.7.0.0	
Net8 Client	8.1.7.0.0	
Oracle Protocol Support	8.1.7.0.0	*(2)
Oracle Utilities	8.1.7.0.0	
Oracle Performance Monitor for Windows NT	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle Database Utilities	8.1.7.0.0	
SQL*Plus	8.1.7.0.0	
Oracle Java Products	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Drivers	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.2	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.1	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.2	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.1	8.1.7.0.0	
Oracle SQLJ	8.1.7.0.0	
Oracle Java Tools	8.1.7.0.0	
Oracle Programmer	8.1.7.0.0	
Development Tools	8.1.7.0.0	

Oracle Call Interface (OCI)	8.1.7.0.0	
Object Type Translator	8.1.7.0.0	
Oracle Objects for OLE	8.1.7.3.11	
Oracle ODBC Driver	8.1.7.0.0	
Oracle Provider for OLE DB	8.1.7.0.0	
Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	*(3)
Pro*C/C++	8.1.7.0.0	
Pro*COBOL	8.1.7.0.0	
Pro*COBOL	1.8.52.0.0	
Oracle Enterprise Manager Products	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Client	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Integrated Applications	2.2.0.0.0	
Oracle <i>inter</i> Media Text Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Spatial Index Advisor	2.2.0	*(1)
Oracle Directory Manager	2.1.1.0.0	
Oracle Forms Server Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Security Manager	2.0.0.1.0	
Net8 Integration	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Management Pack	2.2.0.0.0	
Oracle Schema Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Storage Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Security Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Instance Manager	2.2.0.0.0	
SQL*Plus Worksheet	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Studio	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Events	2.2.0.0.0	
Oracle Diagnostic Pack Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)

Oracle Management Pack for SAP R/3 Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for Oracle Applications Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Enterprise Manager Quick Tours	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Paging Server	2.2.0.0.0	
Oracle Installation Products	8.1.7.0.0	
Oracle Universal Installer	1.7.1.9.0	
Oracle Migration Workbench	1.3.0.0.0	*(1)
MS SQL Server 6.5 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
MS SQL Server 7.0 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
Sybase Adaptive Server 11 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
Oracle Services for Microsoft Transaction Server	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle <i>interMedia</i> Client Option	8.1.7.0.0	
Oracle Internet Directory Client	2.1.1.0.0	
Oracle Workflow Client	2.5.2	*(1)
Oracle Workflow Builder	2.5.2.16.14	*(1)
Oracle Workflow Mailer	2.5.2.0	*(1)
Oracle8i Windows Documentation	8.1.7.0.0	
Oracle8i Management and Integration	8.1.7.0.0	
Oracle Management Server	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Client	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Integrated Applications	2.2.0.0.0	
Oracle <i>interMedia</i> Text Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Spatial Index Advisor	2.2.0	*(1)
Oracle Directory Manager	2.1.1.0.0	
Oracle Forms Server Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Security Manager	2.0.0.1.0	
Net8 Integration	8.1.7.0.0	

Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Management Pack	2.2.0.0.0	
Oracle Schema Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Storage Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Security Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Instance Manager	2.2.0.0.0	
SQL*Plus Worksheet	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Studio	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Events	2.2.0.0.0	
Oracle Diagnostic Pack Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for SAP R/3 Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for Oracle Applications Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Enterprise Manager Web Site	2.2.0.0.0	
Oracle HTTP Server	1.3.12.0.1a	
Oracle HTTP Server Extensions	8.1.7.0.0	
Apache Module for Oracle Servlet Engine	8.1.7.0.0	
Oracle Mod PL/SQL Gateway	3.0.0.8.0	
BC4J Runtime	3.2.1	
Apache Configuration for Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Quick Tours	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Paging Server	2.2.0.0.0	
Oracle Internet Directory	2.1.1.0.0	
Oracle Integration Server	8.1.7.0.0	
Oracle8i Server	8.1.7.0.0	
Oracle Workflow	2.5.2	*(1)
Oracle Message Broker	2.0.1.0.1a	*(1)
Advanced Replication	8.1.7.0.0	
Oracle Applications InterConnect	3.1.3	*(1)

備考 コンポーネントは製品メディアに含まれる製品コンポーネント一覧を記載したもので、製品ライセンスとは対応していません。
また、Workgroup Server では、Oracle Advanced Security、Oracle Parallel Server、Oracle Partitioning、Oracle Spatial、Oracle Time Series、Oracle Visual Information Retrieval、Oracle Visual Information Retrieval Client はサポートされません。

- * (1) 日本ではサポートされていません。
- * (2) LU6.2 プロトコルはこのバージョンではサポートされません。
- * (3) XML Developer's kit for C/C++ は日本ではサポートされていません
- * (4) Windows NT/2000 でのみインストール可能です。

Oracle8i Personal Edition for Windows NT CD-ROM (J03925-01)

Oracle8i Personal Edition	8.1.7.0.0	
Oracle8i Server	8.1.7.0.0	
Oracle HTTP Server	1.3.12.0.1a	
Oracle HTTP Server Extensions	8.1.7.0.0	
Apache Module for Oracle Servlet Engine	8.1.7.0.0	
Oracle Mod PL/SQL Gateway	3.0.0.8.0	
BC4J Runtime	3.2.1	
Apache Configuration for Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	
Oracle Product Options	8.1.7.0.0	
Oracle Time Series	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle Visual Information Retrieval	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle Spatial	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle COM Automation Feature	8.1.7.0.0	
Oracle Advanced Security	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle <i>interMedia</i>	8.1.7.0.0	
Advanced Replication	8.1.7.0.0	
Oracle Partitioning	8.1.7.0.0	*(1)
Net8 Products	8.1.7.0.0	
Net8 Client	8.1.7.0.0	
Net8 Server	8.1.7.0.0	
Oracle Names	8.1.7.0.0	
Oracle Connection Manager	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle SNMP Agent	8.1.7.0.0	
Oracle Protocol Support	8.1.7.0.0	*(2)
Oracle Utilities	8.1.7.0.0	
Oracle Performance Monitor for Windows NT	8.1.7.0.0	*(4)

Oracle Database Utilities	8.1.7.0.0	
SQL*Plus	8.1.7.0.0	
Oracle Java Products	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Drivers	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.2	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.1	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.2	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.1	8.1.7.0.0	
Oracle SQLJ	8.1.7.0.0	
Oracle Java Tools	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Products	8.1.7.0.0	
Oracle Intelligent Agent	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle Agent Extensions	8.1.7.0.0	
Oracle Applications Extensions	8.1.7.0.0	
Oracle HTTP Server Extensions	8.1.7.0.0	
Oracle eBusiness Management Extensions	8.1.7.0.0	
Oracle Forms Extensions	8.1.7.0.0	
Microsoft SQLServer(TM) Extensions	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle Management Server	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Client	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Integrated Applications	2.2.0.0.0	
Oracle <i>inter</i> Media Text Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Spatial Index Advisor	2.2.0	*(1)
Oracle Directory Manager	2.1.1.0.0	
Oracle Forms Server Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Security Manager	2.0.0.1.0	
Net8 Integration	8.1.7.0.0	

Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Management Pack	2.2.0.0.0	
Oracle Schema Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Storage Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Security Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Instance Manager	2.2.0.0.0	
SQL*Plus Worksheet	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Studio	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Events	2.2.0.0.0	
Oracle Diagnostic Pack Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for SAP R/3 Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for Oracle Applications Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Enterprise Manager Web Site	2.2.0.0.0	
Oracle HTTP Server	1.3.12.0.1a	
Oracle HTTP Server Extensions	8.1.7.0.0	
Apache Module for Oracle Servlet Engine	8.1.7.0.0	
Oracle Mod PL/SQL Gateway	3.0.0.8.0	
BC4J Runtime	3.2.1	
Apache Configuration for Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Quick Tours	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Paging Server	2.2.0.0.0	
Oracle Configuration Assistants	8.1.7.0.0	
Oracle Data Migration Assistant	8.1.7.0.0	
Oracle Database Configuration Assistant	8.1.7.0.0	
Development Tools	8.1.7.0.0	
Oracle Call Interface (OCI)	8.1.7.0.0	
Object Type Translator	8.1.7.0.0	
Oracle Objects for OLE	8.1.7.3.11	

Oracle ODBC Driver	8.1.7.0.0	
Oracle Provider for OLE DB	8.1.7.0.0	
Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	*(3)
Oracle XML SQL Utility	2.0.0.0.0	
Oracle Installation Products	8.1.7.0.0	
Oracle Universal Installer	1.7.1.9.0	
Oracle Migration Workbench	1.3.0.0.0	*(1)
MS SQL Server 6.5 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
MS SQL Server 7.0 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
Sybase Adaptive Server 11 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
Oracle Services for Microsoft Transaction Server	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle Administration Assistant for Windows NT	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle8i Windows Documentation	8.1.7.0.0	
Generic Connectivity	8.1.7.0.0	*(1)
Legato Storage Manager	5.7	
Oracle8i Client	8.1.7.0.0	
Net8 Products	8.1.7.0.0	
Net8 Client	8.1.7.0.0	
Oracle Protocol Support	8.1.7.0.0	*(2)
Oracle Utilities	8.1.7.0.0	
Oracle Performance Monitor for Windows NT	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle Database Utilities	8.1.7.0.0	
SQL*Plus	8.1.7.0.0	
Oracle Java Products	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Drivers	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.2	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.1	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.2	8.1.7.0.0	

Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.1	8.1.7.0.0	
Oracle SQLJ	8.1.7.0.0	
Oracle Java Tools	8.1.7.0.0	
Oracle Programmer	8.1.7.0.0	
Development Tools	8.1.7.0.0	
Oracle Call Interface (OCI)	8.1.7.0.0	
Object Type Translator	8.1.7.0.0	
Oracle Objects for OLE	8.1.7.3.11	
Oracle ODBC Driver	8.1.7.0.0	
Oracle Provider for OLE DB	8.1.7.0.0	
Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	*(3)
Pro*C/C++	8.1.7.0.0	
Pro*COBOL	8.1.7.0.0	
Pro*COBOL	1.8.52.0.0	
Oracle Enterprise Manager Products	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Client	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Integrated Applications	2.2.0.0.0	
Oracle <i>interMedia</i> Text Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Spatial Index Advisor	2.2.0	*(1)
Oracle Directory Manager	2.1.1.0.0	
Oracle Forms Server Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Security Manager	2.0.0.1.0	
Net8 Integration	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Management Pack	2.2.0.0.0	
Oracle Schema Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Storage Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Security Manager	2.2.0.0.0	

Oracle Instance Manager	2.2.0.0.0	
SQL*Plus Worksheet	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Studio	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Events	2.2.0.0.0	
Oracle Diagnostic Pack Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for SAP R/3 Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for Oracle Applications Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Enterprise Manager Quick Tours	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Paging Server	2.2.0.0.0	
Oracle Advanced Security	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle Installation Products	8.1.7.0.0	
Oracle Universal Installer	1.7.1.9.0	
Oracle Migration Workbench	1.3.0.0.0	*(1)
MS SQL Server 6.5 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
MS SQL Server 7.0 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
Sybase Adaptive Server 11 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
Oracle Services for Microsoft Transaction Server	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle <i>interMedia</i> Client Option	8.1.7.0.0	
Oracle Visual Information Retrieval Client	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle Internet Directory Client	2.1.1.0.0	
Oracle Workflow Client	2.5.2	*(1)
Oracle Workflow Builder	2.5.2.16.14	*(1)
Oracle Workflow Mailer	2.5.2.0	*(1)
Oracle8i Windows Documentation	8.1.7.0.0	
Oracle8i Management and Integration	8.1.7.0.0	
Oracle Management Server	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Client	2.2.0.0.0	

Oracle Enterprise Manager Integrated Applications	2.2.0.0.0	
Oracle <i>inter</i> Media Text Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Spatial Index Advisor	2.2.0	*(1)
Oracle Directory Manager	2.1.1.0.0	
Oracle Forms Server Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Security Manager	2.0.0.1.0	
Net8 Integration	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Management Pack	2.2.0.0.0	
Oracle Schema Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Storage Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Security Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Instance Manager	2.2.0.0.0	
SQL*Plus Worksheet	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Studio	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Events	2.2.0.0.0	
Oracle Diagnostic Pack Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for SAP R/3 Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for Oracle Applications Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Enterprise Manager Web Site	2.2.0.0.0	
Oracle HTTP Server	1.3.12.0.1a	
Oracle HTTP Server Extensions	8.1.7.0.0	
Apache Module for Oracle Servlet Engine	8.1.7.0.0	
Oracle Mod PL/SQL Gateway	3.0.0.8.0	
BC4J Runtime	3.2.1	
Apache Configuration for Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Quick Tours	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Paging Server	2.2.0.0.0	

Oracle Internet Directory	2.1.1.0.0	
Oracle Integration Server	8.1.7.0.0	
Oracle8i Server	8.1.7.0.0	
Oracle Partitioning	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle Advanced Security	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle Workflow	2.5.2	*(1)
Oracle Message Broker	2.0.1.0.1a	*(1)
Advanced Replication	8.1.7.0.0	
Oracle Applications InterConnect	3.1.3	*(1)
Oracle8i Windows Documentation	8.1.7.0.0	

備考 コンポーネントは製品メディアに含まれる製品コンポーネント一覧を記載したもので、製品ライセンスとは対応していません。

*(1) 日本ではサポートされていません。

*(2) LU6.2 プロトコルはこのバージョンではサポートされません。

*(3) XML Developer's kit for C/C++は日本ではサポートされていません

*(4) Windows NT/2000 でのみインストール可能です。

Oracle8i Client for Windows CD-ROM (J03356-01)

Oracle8i Client	8.1.7.0.0	
Net8 Products	8.1.7.0.0	
Net8 Client	8.1.7.0.0	
Oracle Protocol Support	8.1.7.0.0	*(2)
Oracle Utilities	8.1.7.0.0	
Oracle Performance Monitor for Windows NT	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle Database Utilities	8.1.7.0.0	
SQL*Plus	8.1.7.0.0	
Oracle Java Products	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Drivers	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.2	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.1	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.2	8.1.7.0.0	
Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.1	8.1.7.0.0	
Oracle SQLJ	8.1.7.0.0	
Oracle Java Tools	8.1.7.0.0	
Oracle Programmer	8.1.7.0.0	
Development Tools	8.1.7.0.0	
Oracle Call Interface (OCI)	8.1.7.0.0	
Object Type Translator	8.1.7.0.0	
Oracle Objects for OLE	8.1.7.3.11	
Oracle ODBC Driver	8.1.7.0.0	
Oracle Provider for OLE DB	8.1.7.0.0	
Oracle XML Developer's Kit	8.1.7.0.0	*(3)
Pro*C/C++	8.1.7.0.0	
Pro*COBOL	8.1.7.0.0	

Pro*COBOL	1.8.52.0.0	
Oracle Enterprise Manager Products	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Client	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Integrated Applications	2.2.0.0.0	
Oracle <i>inter</i> Media Text Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Spatial Index Advisor	2.2.0	*(1)
Oracle Directory Manager	2.1.1.0.0	
Oracle Forms Server Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Security Manager	2.0.0.1.0	
Net8 Integration	8.1.7.0.0	
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Management Pack	2.2.0.0.0	
Oracle Schema Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Storage Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Security Manager	2.2.0.0.0	
Oracle Instance Manager	2.2.0.0.0	
SQL*Plus Worksheet	2.2.0.0.0	
Oracle DBA Studio	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Events	2.2.0.0.0	
Oracle Diagnostic Pack Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for SAP R/3 Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Management Pack for Oracle Applications Advanced Events	2.2.0.0.0	*(1)
Oracle Enterprise Manager Quick Tours	2.2.0.0.0	
Oracle Enterprise Manager Paging Server	2.2.0.0.0	
Oracle Advanced Security	8.1.7.0.0	
Oracle Installation Products	8.1.7.0.0	
Oracle Universal Installer	1.7.1.9.0	
Oracle Migration Workbench	1.3.0.0.0	*(1)

MS SQL Server 6.5 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
MS SQL Server 7.0 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
Sybase Adaptive Server 11 Plugin	1.3.0.0.0	*(1)
Oracle Services for Microsoft Transaction Server	8.1.7.0.0	*(4)
Oracle interMedia Client Option	8.1.7.0.0	
Oracle Visual Information Retrieval Client	8.1.7.0.0	*(1)
Oracle Internet Directory Client	2.1.1.0.0	
Oracle Workflow Client	2.5.2	
Oracle Workflow Builder	2.5.2.16.14	
Oracle Workflow Mailer	2.5.2.0	
Oracle8i Windows Documentation	8.1.7.0.0	

備考 コンポーネントは製品メディアに含まれる製品コンポーネント一覧を記載したもので、製品ライセンスとは対応していません。

*(1) 日本ではサポートされていません。

*(2) LU6.2 プロトコルはこのバージョンではサポートされません。

*(3) XML Developer's kit for C/C++は日本ではサポートされていません

*(4) Windows NT/2000 でのみインストール可能です。

第 1 章 日本語環境での使用上の注意

この章では、次の項目について説明します。

- ディスクリット・トランザクションについて
- CMP の deployejb 時の言語設定について
- Net8 OpenAPI のサポートについて
- CORBA / Enterprise JavaBeans のインストール時の注意事項
- Oracle Enterprise Login Assistant のヘルプについて
- Oracle Wallet Manager のヘルプについて
- Oracle Database Configuration Assistant (DBCA) について
- Java 対応データベースの初期化
- NET8 トレース・アシスタントについて
- エラー・メッセージについて
- *interMedia* 関連
- JDBC サンプル・プログラムの実行
- OCI サンプル・プログラムの実行
- Oracle Enterprise Manager の既知の問題について
- Oracle Workflow の既知の問題について
- Workflow Builder の既知の問題について
- Net8 Configuration Assistant オンラインヘルプ
- Windows 95 の TCP/IP サポートに関して
- R8.1.6 のドキュメントについて
- エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ管理について
- Oracle Internet Filesystem について
- Citrix Metaframe (ICA クライアント) について
- Pro*COBOL のサポートコンパイラについて
- Oracle Objects for OLE、Oracle ODBC Driver、Oracle Provider for OLE DB の最新版について

- 日本語環境での Oracle Objects for OLE 8.1.7.3.11 について
- Oracle HTTP Server について
- Oracle help For Java の既知の問題について
- 「Pro*COBOL for WindowsNT プリコンパイラ・スタート・ガイド」の訂正
- Pentium4 搭載マシンで使用する場合の注意事項

ディスクリート・トランザクションについて

Oracle8i リリース 8.1.x では、ディスクリート・トランザクション（離散トランザクション）は使用できません。

CMP の deployejb 時の言語設定について

CMP の deployejb 時にコントロールパネルから「地域」を実行し、地域のプロパティを日本語から英語(US)へ変更してください。CMP の deployejb 時に地域のプロパティを英語(US)に設定しない場合、内部的に生成している SQLJ コードのコンパイルに失敗します。

Net8 OpenAPI のサポートについて

Net8 OpenAPI はサポート対象外です。

CORBA / Enterprise JavaBeans のインストール時の注意事項

Oracle8i 用のサーバー側の CORBA アプリケーションや Enterprise JavaBeans アプリケーションを使用する場合、インストール時に次の点に注意してください。

Oracle Universal Installer の「インストール・タイプ」の画面で「カスタム」を選択した場合、「使用可能な製品コンポーネント」の画面で、必要なプロダクトに加え「Oracle Enterprise Manager Product 8.1.7.0.0」を選択してください。

Oracle Enterprise Login Assistant のヘルプについて

Oracle Enterprise Login Assistant (%ORACLE_HOME%\bin\ellogin) で、ヘルプが英語で表示される不具合があります。

日本語のヘルプを表示するには、次の手順でファイルを修正してください。

1. %ORACLE_HOME%\bin\ellogin.cl をコピーします。

```
> copy %ORACLE_HOME%\bin\ellogin.cl %ORACLE_HOME%\bin\ellogin.sav
```

2. %ORACLE_HOME%\bin\ellogin.cl を次のように修正します。

```
Command=( "C:\Program Files\Oracle\jre\1.1.7\bin\jre" -classpath "C:\Program Files\Oracle\jre\1.1.7\lib\rt.jar;C:\Program Files\Oracle\jre\1.1.7\lib\i18n.jar;D:\Oracle\ora81\jlib\ewt-3_3_6.jar;D:\Oracle\ora81\jlib\ewtcompat-opt-3_3_6.zip;D:\Oracle\ora81\jlib\share-1_0_8.jar;D:\Oracle\ora81\jlib\swingall-1_1_1.jar;D:\Oracle\ora81\jlib\help-3_1_8.jar;D:\Oracle\ora81\jlib\ice-4_06_6.jar;D:\Oracle\ora81\network\jlib\sysmanmaf.jar;D:\Oracle\ora81\owm\jlib\owm-2_1.jar;D:\Oracle\ora81\owm\jlib\help\ellogin\help_ja_JP_sjis" oracle.security.admin.lio.lia.LiaApp oracle.security.admin.lio.lia.LiaApp)
```

Oracle Wallet Manager のヘルプについて

Oracle Wallet Manager で、ヘルプが英語で表示される不具合があります。

日本語のヘルプを表示するには、次の手順でファイルを修正してください。

1. %ORACLE_HOME%\bin\owm.cl をコピーします。

```
> copy %ORACLE_HOME%\bin\owm.cl %ORACLE_HOME%\bin\owm.sav
```

2. %ORACLE_HOME%\bin\owm.cl を次のように修正します。

```
Command=( "C:\Program Files\Oracle\jre\1.1.7\bin\jre" -classpath "C:\Program Files\Oracle\jre\1.1.7\lib\rt.jar;C:\Program Files\Oracle\jre\1.1.7\lib\i18n.jar;D:\Oracle\ora81\jlib\ewt-3_3_6.jar;D:\Oracle\ora81\jlib\ewtcompat-opt-3_3_6.zip;D:\Oracle\ora81\jlib\share-1_0_8.jar;D:\Oracle\ora81\jlib\swingall-1_1_1.jar;D:\Oracle\ora81\jlib\help-3_1_8.jar;D:\Oracle\ora81\jlib\ice-4_06_6.jar;D:\Oracle\ora81\network\jlib\sysmanmaf.jar;D:\Oracle\ora81\owm\jlib\owm-2_1.jar;D:\Oracle\ora81\owm\jlib\help\owm\help_ja_JP_sjis" oracle.security.admin.wltmgr.owma.OwmaApp oracle.security.admin.wltmgr.owma.OwmaApp)
```

Oracle Database Configuration Assistant (DBCA) について

共通の注意事項

データ・ファイルのサイズについて

データ・ファイルの設定画面で System、Rollback および Temp の表領域が通常より大きく設定される場合は、環境に応じたサイズに再設定してください。Rollback 用の表領域には、最低 75MB を割り当て (Oracle8i JVM (JServer) を選択した場合)、「自動拡張」を「ON (デフォルト)」に設定してください。その他のデータ・ファイルについても「自動拡張」の設定を「ON (デフォルト)」に設定することをお勧めします。また、DBCA 終了後に各データ・ファイルの AutoExtend を実際の環境に応じて変更してください。

「Oracle Database Configuration Assistant : データ・ファイルの設定」画面



データ・ファイルの設定画面：画面上部のタブをクリックし、各データ・ファイルのサイズを調整してください。

各オプションを使用する際の注意事項

Oracle8i JVM (JServer) を使用する場合

DBCA にて Oracle8i JVM (JServer) オプションを選択する場合は、次の点に注意してください。

「Oracle Database Configuration Assistant : オプション選択」画面



SGA のサイズについて

SGA 関連の設定画面で `shared_pool_size`、`db_block_buffers` が通常より大きく設定される場合があります。Oracle8i JVM (JServer) をデータベースにインストールする際には、OS のプロセス用に多くのメモリを必要としますので、SGA 関連のパラメータ値は小さめに調整し、インストール後に実際の環境に応じて値を再設定してください。

「Oracle Database Configuration Assistant : SGA 関連の設定」画面



The screenshot shows the 'Oracle Database Configuration Assistant' window. On the left is a 3D illustration of a person pushing a cart with several purple database cylinders. The main area contains a list of SGA parameters with their current values in input fields. At the bottom are buttons for '取消' (Cancel), 'ヘルプ' (Help), '< 戻る(B)' (Back), and '次へ(N) >' (Next).

Parameter	Value
共有プール・サイズ(バイト):	52428800
ラージ・プール・サイズ(バイト):	15728640
ブロック・バッファ数:	2648
ログ・バッファ・サイズ(バイト):	32768
プロセスの最大数:	150
ブロック・サイズ(バイト):	8192

Oracle8i JVM (JServer) をインストールする場合、shared_pool_size は最低 50MB 必要となりますので注意してください。

Oracle *interMedia* を使用する場合

interMedia をインストールするには、Oracle8i JVM (JServer) のインストールが必須となります。また、インストール時の注意点は Oracle8i JVM (JServer) を使用する場合と同様です。

Java 対応データベースの初期化

手動インストール

Oracle8i インストール・オプションで Oracle8i JVM をインストールしていない場合、Oracle Database Congiguration Assistant が出力するデータベース作成スクリプト(<指定したファイル名>.bat) を実行することで、既存のデータベースに Oracle8i JVM を追加できます。

Oracle Database Congiguration Assistant でデータベース作成スクリプトを作成するには、データベースを作成する際に「データベースの即時作成」ではなく「情報をバッチ・ファイルに保存」を選択することによりデータベース作成スクリプト作成することができます。次の点に注意して作成してください。

- 作成するデータベースの種類に「カスタム」を選択
- データベースを構成するオプションに「Oracle JServer」を選択

NET8 トレース・アシスタントについて

trcasst コマンドは TNS-04206 が発生するため、使用することができません。

エラー・メッセージについて

日本語メッセージに誤訳があります。

エラー番号	誤	正
ORA-28231	あいまい化ツールキットにデータが渡されていません。	DBMS_OBFUSCATION_TOOLKIT パッケージにデータが渡されていません。
ORA-28232	あいまい化ツールキットの入力の長さが無効です。	DBMS_OBFUSCATION_TOOLKIT パッケージの入力の長さが無効です。

interMedia 関連

interMedia Text をリリース 8.1.6 からリリース 8.1.7 に移行する手順

interMedia Text をリリース 8.1.6 からリリース 8.1.7 に移行するには、次の手順で作業を実行します。

Database Migration Assistant などを用いて、データベースのアップグレード作業後、次の手順を実行してください。SQL*Plus を実行して次のスクリプトおよび SQL を実行してください。

1. SYS ユーザーで接続し、次のスクリプトを実行します。

```
%ORACLE_HOME%\ctx\admin\upgrade\s0801070.sql
```

2. CTXSYS ユーザーで接続し、次のスクリプトを実行します。

```
%ORACLE_HOME%\ctx\admin\upgrade\u0801070.sql
%ORACLE_HOME%\ctx\admin\dr0typec.pkh
%ORACLE_HOME%\ctx\admin\dr0pkh.sql
%ORACLE_HOME%\ctx\admin\dr0plb.sql
%ORACLE_HOME%\ctx\admin\dr0type.plb
%ORACLE_HOME%\ctx\admin\dr0typec.plb
%ORACLE_HOME%\ctx\admin\dr0itypc.sql
```

3. CTXSYS ユーザーのオブジェクトで STATUS が INVALID のものがないかを確認します。INVALID のものがあれば、そのオブジェクトを再コンパイルします。STATUS を確認するために次の SQL を実行します。

```
SQL> select object_name,object_type
2   from user_objects
3  where status = 'INVALID';
```

INSO フィルタでサポートするファイルの制限事項

INSO フィルタで、日本語 PDF ファイルは使用できません。

JDBC サンプル・プログラムの実行

demo.zip の展開

%ORACLE_HOME%\jdbc\demo\demo.zip を、ZIP 形式を扱えるツールを用いて展開します。展開後作成される各サブディレクトリの説明・対応 JDK バージョン等の情報が、Samples-Readme.txt に書かれていますので、お読みください。

JDBC のサンプル・プログラムを実行するには、次の例を参考にコマンドプロンプトからコンパイル・実行してください。

※demo.zip を %ORACLE_HOME%\jdbc\demo フォルダに展開した場合を想定して説明します。

サンプル・プログラムのコンパイルと実行

コマンドプロンプトから作業を実施します。

1. CLASSPATH 環境変数の設定

set コマンドで、一時的に CLASSPATH 環境変数を設定します。ここで設定した値は、コマンドプロンプトを閉じるまで有効となります。

%ORACLE_HOME%は、お使いの環境に合わせて読み替えて設定してください。

(JDK1.1 の場合)

```
> set CLASSPATH=.;%ORACLE_HOME%\jdbc\lib\classes111.zip;%ORACLE_HOME%\jdbc\lib\jndi.zip;%ORACLE_HOME%\jdbc\lib\jta.zip
```

(JDK1.2 の場合)

```
> set CLASSPATH=.;%ORACLE_HOME%\jdbc\lib\classes12.zip;%ORACLE_HOME%\jdbc\lib\jndi.zip;%ORACLE_HOME%\jdbc\lib\jta.zip
```

例:

```
> set CLASSPATH=.;E:\oracle\ora817\jdbc\lib\classes12.zip;E:\oracle\ora817\jdbc\lib\jndi.zip;E:\oracle\ora817\jdbc\lib\jta.zip
```

2. サンプル・プログラムのディレクトリに移動

カレントディレクトリを移動します。

例:

```
> cd E:\oracle\ora817\jdbc\demo\samples\oci8\basic-samples
```

3. サンプル・プログラムのコンパイル

実行したい `java` ファイルをコンパイルします。

例:

```
> javac -g Employee.java
```

4. サンプル・プログラムの実行

コンパイルしたプログラムを実行します。必要な引数も指定します。例えば引数に `JDBC` 接続文字列を取るプログラムの場合、`JDBC_URL` に接続文字列を渡します。

例:

```
> java -DJDBC_URL=jdbc:oracle:oci8:@orcl Employee
```

OCI サンプル・プログラムの実行

cdemodp_lip.c

`%ORACLE_HOME%\oci\samples\demo_rdbms.mk` は存在しません。
`make.bat` を使用してコンパイル/リンクを行なってください。

cdemoucbl.c

`%ORACLE_HOME%\oci\samples\ociucb.mk` は存在しません。
`ociucb.bat` を使用してコンパイル/リンクを行なってください。

ociaqdemo00.c

`%ORACLE_HOME%\oci\samples\aqdemo00.sql` は存在しません。
`%ORACLE_HOME%\rdbms\demo\aqdemo00.sql` を使用してください。

cdemorid.c

`%ORACLE_HOME%\oci\samples\cdemorid.sql` は存在しません。
`%ORACLE_HOME%\rdbms\demo\cdemorid.sql` を使用してください。

Oracle Enterprise Manager の既知の問題について

次の項目について説明します。

- コンソールに関する問題
- DBA Management Pack に関する問題
- 統合アプリケーションに関する問題
- Oracle Enterprise Manager Web Site について

コンソールに関する問題

グループパネル

グループ作成時、背景に GIF ファイルを指定しても、スクロールバーが表示されない場合があります。OEM コンソールを再起動することで、正しくスクロールバーが表示されます。

Parallel Server Instance にイベントを設定して、ナビゲータ・ツリーからグループパネルにドラッグ・アンド・ドロップすると、グループパネルで「アイコン大」を使用していると不具合があります。「アイコン小」を使用してください。

ジョブ・システムとイベント・システム

ジョブを使用して、Oracle Intelligent Agent 8.1.6 が稼働している Windows NT ノード上のデータベースを停止する場合、データベースが正しく停止したか否かに関わらず、完了ステータスが「失敗」で返ってきます。

TCL ジョブの入力／出力データに日本語等のマルチバイト文字を伴う場合は、文字コード変換を行わないと、ジョブが正常に動作しない場合があります。必ず、`convertin` および `convertout` 関数にて、明示的に文字コード変換を行ってください。

Oracle Management Server の状態表示

コマンドプロンプトで `oemctrl status oms <スーパー管理者名></パスワード>` を実行しても、VXA-2009 エラーが発生し状態表示が行えない場合があります。

DBA Management Pack に関する問題

コンソールおよび DBA Studio からデータベースを起動した場合、日本語環境では起動時刻やセッション情報が文字化けする場合があります。データベースとの接続を切断し、再度接続することで、正常に表示されます。

Oracle Management Server 経由で、データベースを起動することはできません。DBA Studio をスタンドアロンで起動し、データベースを起動してください。

表データ・エディタで、DATE 型の列に条件指定を行なっても、エラー VTOS-4845 が発生するか、フィルタ機能が正しく動作しません。DATE 型の列に条件を指定して行を絞り込む場合は、フリー SQL モードを使用して WHERE 句に条件を指定してください。

表領域の作成時には、デフォルトでエクステンツ管理に「ローカル管理」が選択されていますが、この指定が SQL 文に反映されない場合があります。ローカル管理表領域を作成するには一度「ディクショナリ管理」を選択し、再度「ローカル管理」を選択してください。ローカル管理表領域を作成する場合は、SQL 表示ボタンを押し、生成された SQL 文に「EXTENT MANAGEMENT LOCAL」が含まれていることを確認してから実行／作成することをお勧めします。

マテリアライズド・ビュー作成ダイアログ・ボックスでジョブ発行ボタンを押した場合、エラーが発生し正しくジョブが発行されません。

統合アプリケーションに関する問題

interMedia Text Manager に関する問題

interMedia Text Manager を使用して、INDEX_SET プリファレンスを作成することはできません。

interMedia Text Manager を使用して、MULTI_STOPLIST を使用したテキスト索引の作成はできません。MULTI_STOPLIST を使用してテキスト索引を作成する場合、コマンドラインから作成してください。

interMedia Text Manager から ConText Server を起動すると、正常に起動したか否かに関わらず「Job failed: Error Output from job xxx lost.」というメッセージが表示されます。OEM Console のジョブ履歴にも、ConText Server 起動ジョブが失敗のステータスで記録されます。

Oracle Enterprise Manager Web Site について

Oracle Enterprise Manager Web Site の日本語ファイルの 1 つに一部不具合があります。サーバー上で次の方法で回避することをお奨めします。

%ORACLE_HOME%はお使いの環境に合わせて読み替えてください。

```
> cd %ORACLE_HOME%\oem_webstage  
> copy EMWebSite.html EMWebSite.bak  
> copy EMWebSite_us.html EMWebSite.html
```

※上書きするかどうかの質問には「y」で答えてください

Oracle Workflow の既知の問題について

オンライン・ヘルプに関して

Oracle Workflow 2.5.2 のオンライン・ヘルプは、Web および Workflow Builder 共に日本語化されていません。

文書管理システムとの統合

文書管理 API を含む文書管理システムとの統合機能はサポート対象外です。

Oracle Internet Messaging について

Oracle Workflow Option インストレーション補足に Oracle Internet Messaging の記述がありますが、この製品は日本では販売およびサポートしていません。

対応する Web Listener

Oracle Workflow 2.5.2 は次の Web Listener との組み合わせでサポートされます。

- Oracle8i R8.1.7 に同梱の Oracle HTTP Server
- Oracle9i Application Server R1.0.2

バックグラウンド・エンジンの起動

バックグラウンド・エンジンを起動するために wfbkq.sql スクリプトを実行する際には、予め Oracle Workflow のデータベース・オブジェクト管理ユーザー (owf_mgr 等) に DBMS_LOCK パッケージに対する EXECUTE 権限を付与する必要があります。

例:

```
SQL> connect sys/<password> (ご使用の環境の SYS ユーザーのパスワード)
SQL> grant execute on dbms_lock to owf_mgr;
```

Oracle Workflow のスキーマの構築

Oracle Workflow を使用するためには、Oracle Workflow のインストール後に次の手順で Oracle Workflow のスキーマを構築する必要があります。

```
inst252 owf_mgr owf_mgr <Workflow のホーム> <SYS のパスワード> <system のパスワード> install
```

注：owf_mgr はデフォルトでインストールされる Oracle Workflow のスキーマです。環境にあわせてスキーマを指定してください。

Workflow Builder の既知の問題について

Workflow Builder のフォントの設定に関して

日本語環境で Workflow Builder を使用するためには、Workflow Builder を起動して、メニューから「表示」→「フォント」を選択しご利用になりたい日本語フォントを設定する必要があります。

次のレジストリがご利用の Windows 環境に設定されていない場合は Workflow Builder でフォント・プロパティ・ウィンドウが表示されません。

レジストリ名および所在

レジストリ名（キー名）：

`{0BE35200-8F91-11CE-9DE3-00AA004BB851}`

設定内容例:

`{0BE35200-8F91-11CE-9DE3-00AA004BB851} = フォント プロパティ ページ`

`InprocServer32 = C:¥WINNT¥System32¥MFC40.dll`

所在:

`HKEY_LOCAL_MACHINE → Software → Classes → CLSID`

Workflow Builder でフォント・プロパティ・ウィンドウが表示されない場合は次の手順で設定をしてください。

1. Windows がインストールされているディレクトリーを `C:¥winnt` と仮定します。次の記載で `C:¥winnt` と記載されている部分はご利用の Windows 環境にあわせて変更してください。
2. `C:¥winnt¥system32` 以下に、`mfc40.dll` または、`mfc42.dll` があることを確認します。
3. スタート・メニューから、「ファイル名を指定して実行…」を選択し、次のコマンドを実行します。

`regsvr32 /s C:¥winnt¥system32¥mfc40.dll`

`mfc42.dll` が存在する場合は、

`regsvr32 /s C:¥winnt¥system32¥mfc42.dll`

Net8 Configuration Assistant オンラインヘルプ

インストール時に動作する Net8 構成画面からは、日本語のヘルプが表示されません。インストール終了後の Net8 Configuration Assistant 画面で日本語ヘルプが表示されるようになります。

Windows 95 の TCP/IP サポートに関して

Oracle TCP/IP Protocol Support for Windows 95/98 は、Windows Sockets 2 インタフェースを使用します。したがって、Windows 95 に Oracle8i リリース 8.1.7 をインストールする前に Windows Socket 2 Update for Windows 95 をインストールする必要があります。これは、Microsoft 社の次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.microsoft.com/windows95/downloads/>

Windows Socket 2 Update for Windows 95 は、CD-ROM ルートの¥WINSOCK2 ディレクトリにある WS2SETUP.EXE をダブルクリックしてインストールすることも可能です。

ただし、Windows Socket 2 Update for Windows 95 の日本語版は存在しないため、TCP/IP のプロパティ・ダイアログが一部英語表記になります。マイクロソフト株式会社の次の Web サイトからダイヤルアップ ネットワーク 1.3 アップグレードをダウンロードし、インストールしてください。

http://www.asia.microsoft.com/japan/windows/dunl_3/

日本語 Windows 95 に Windows Socket 2 Update for Windows 95 を適用した環境で、TCP/IP に関するマイクロソフト株式会社のサポートを受けるためには、ダイヤルアップ ネットワーク 1.3 アップグレードを必ず適用してください。

なお、Oracle8 リリース 8.0.3 および 8.0.4 に含まれる Oracle TCP/IP Protocol Adapter は Windows Sockets 2 インタフェースに対応していないため、リリース 8.0.3/8.0.4 のインストールされているシステムに Windows Socket 2 Update for Windows 95 を適用する場合は、リリース 8.0.5 にアップグレードする必要があります。

R8.1.6 のドキュメントについて

ドキュメント CD-ROM で提供されている次の R8.1.6 用ドキュメントは R8.1.7 と共通です。ドキュメント内で R8.1.6 と記述されている部分は、R8.1.7 にもあてはまります。

- Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド リリース 8.1.6 (J01318-01)
- Oracle8i Client for Windows 管理者ガイド リリース 8.1.6 (J01321-01)
- Oracle8i Parallel Server for Windows NT 管理者ガイド リリース 8.1.6 (J01327-01)
- Oracle コール・インタフェース for Windows スタート・ガイド リリース 8.1.6 (J01324-01)
- Pro*C/C++ for Windows プリコンパイラ・スタート・ガイド リリース 8.1.6 (J01325-01)
- Pro*COBOL for Windows プリコンパイラ・スタート・ガイド リリース 8.1.6/1.8.51 (J01326-01)
- Oracle COM Automation 開発者ガイド リリース 8.1.6 (J01329-01)
- Oracle8 と Microsoft Transaction Server の連携 リリース 8.1.6 (J01331-01)

エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ管理について

今回のリリースの Oracle Advanced Security では、エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ管理でサポートされる LDAP 準拠のディレクトリ・サービスは Oracle Internet Directory のみです。

Oracle Internet Filesystem について

今回のリリースでは、Oracle Internet Filesystem は日本では提供されていません。

Citrix Metaframe (ICA クライアント) について

Windows NT ターミナル・サーバーまたは Windows 2000 ターミナル・サービスをサポートするオラクル製品は、Citrix Metaframe 環境でもご使用いただけます。

ただし、この場合のサポートはターミナル・サーバー(ターミナル・サービス)環境と Metaframe 環境の互換性の範囲に限定されます。Metaframe 固有の問題については対応できませんのでご注意ください。

Pro*COBOL のサポートコンパイラについて

Pro*COBOL のドキュメントには、MF-COBOL 対応版のみのサポート要件が書かれています。NEC、日立、富士通 COBOL 対応版の各 Pro*COBOL のサポート要件に関しては各販売先にご確認ください。

Oracle Objects for OLE、Oracle ODBC Driver、Oracle Provider for OLE DB の最新版について

Oracle Objects for OLE、Oracle ODBC Driver、Oracle Provider for OLE DB の最新版パッチは、日本オラクルの OTN-J のサイト (<http://otn.oracle.co.jp/>) から提供されます。

日本語環境での Oracle Objects for OLE 8.1.7.3.11 について

- Oracle Objects for OLE Code Wizard は日本語に対応していません。
- getRows メソッドはマルチバイト文字をサポートしません。

Oracle HTTP Server について

OpenSSL の制限事項

現在、Apache Software Foundation では、Windows NT における OpenSSL を製品レベルの品質のソフトウェアとはみなしていません。このため、オラクル社では、Windows NT における OpenSSL をサポートしていません。お客様は、本番環境でのソフトウェア・アプリケーションの配置に OpenSSL を使用しないでください。

また、このようにして配布されたアプリケーションについては、オラクル社では責任を負いません。

mod_plsql キャッシュのエラー

mod_plsql キャッシュが適切に稼動していない場合、
%ORACLE_HOME%\Apache\modplsql\cfg\cache.cfg にある 2 つの cache_di 項目の最後のスラッシュを削除してください。

Apache JServ 手動での起動方法

障害のため ApacheJServ.exe より Apache JServ を起動できません。Apache JServ を手動で起動する場合は、ApacheJServ.jar を使用してください。

例:

```
> set classpath=%ORACLE_HOME%\¥Apache¥Jserv¥ApacheJServ.jar;%ORACLE_H
OME%\¥Apache¥Jsdk¥lib¥jsdk.jar
> javaw org.apache.jserv.JServ %ORACLE_HOME%\¥Apache¥Jserv¥conf¥jserv.
properties
```

%ORACLE_HOME%はお使いの環境に合わせて読み替えてください。

Apache モジュール

Oracle9i Application Server の一部として Apache Web Server で提供されている機能を拡張するために、オラクル社は、Apache Web Server に対する拡張部分 ("Apache モジュール") を配布する場合があります。オラクル社によって配布されている Apache モジュールは、このリリース・ノートでは、Oracle Apache モジュールとして参照します。オラクル社は、Oracle8i for Windows R8.1.7 では次の Oracle Apache モジュールをサポートしています。

Oracle Apache モジュール	説明
mod_ssl	SSL サポート。
mod_perl	Perl で Apache モジュールを作成するためのサポート。
mod_jserv	サーブレット・エンジンとの通信。
mod_plsql	PL/SQL サポート。
mod_ose	Oracle Servlet Engine (OSE) のステートフル Java と PL/SQL サーブレットに URL を委譲する。
http_core	中核の Apache 機能。
mod_access	ホスト・ベースのアクセス制御。クライアントのホスト名または IP アドレスに基づいたアクセス制御を提供します。
mod_actions	ファイルタイプ/メソッド・ベースのスクリプトの実行。メディア・タイプまたは要求メソッドに基づいた CGI スクリプト用に提供します。
mod_alias	別名およびリダイレクト。ドキュメント・ツリー上のホスト・ファイルシステムの異なる部分のマッピングおよび URL のリダイレクト用に提供します。

Oracle Apache モジュール	説明
mod_auth	テキスト・ファイルを使用したユーザー認証。
mod_auth_anon	無名ユーザー認証、FTP 形式。
mod_autoindex	自動ディレクトリ・リスティング。
mod_cgi	CGI スクリプトの実行。MIME タイプ・アプリケーション/x-httpd-cgi のファイル进行处理します。
mod_digest	MD5 の認証。MD5 Digest 認証を使用する、ユーザー認証用に提供します。
mod_dir	基本ディレクトリ処理。後書きスラッシュのリダイレクトおよびディレクトリ索引ファイル用に提供します。
mod_env	環境を CGI スクリプトにパスするもの。環境変数を CGI/SSI スクリプトに渡すために提供します。
mod_expires	Expires:ヘッダーのリソースへの適用。ユーザー指定の基準に従って、Expires ヘッダーを生成するために提供します。
mod_headers	任意の HTTP ヘッダーをリソースに追加する。ヘッダーは、マージ、置換または削除することができます。
mod_include	サーバーで解析されるドキュメント。サーバー解析 HTML ドキュメント用に提供します。
mod_log_config	mod_log_common に置き換えられるユーザーによる構成可能なロギング。Common Log Format またはユーザー指定フォーマットを使用した、サーバーに対するロギング要求用に、提供します。
mod_mime	ファイル拡張子を使用するドキュメント・タイプの決定。
mod_mime_magic	マジック番号を使用するドキュメント・タイプの決定。コンテンツの数バイトを見てファイルの MIME タイプを決定するために使用されます。
mod_negotiation	コンテンツ・ネゴシエーション。
libproxy (mod_proxy)	キャッシング・プロキシ機能。HTTP 1.0 キャッシング・プロキシ・サーバー用に提供します。
mod_rewrite	正規表現を使用する URL とファイル名の強力なマッピング。稼動中に要求 URL を書き換えるためにルール・ベースの書き換えエンジンを提供します。
mod_setenvif	クライアント情報に基づいて環境変数を設定する。要求の IP アドレス、ヘッダー、環境変数などから環境変数を設定し、ユー

Oracle Apache モジュール	説明
	属性に基づいて環境変数を設定する機能用に提供します。
mod_so	実行時のモジュールのローディング・サポート。起動時あるいは再起動時に、実行可能プログラムとモジュールをサーバーにローディングするために提供します。
mod_speling	URL の微妙な入力ミスを自動的に修正する。ユーザーが入力した URL の複数のスペルミス、大文字使用を無視したり、スペルミスを 1 つまで容認するなどして、修正をします。
mod_status	サーバーのステータス表示。現行サーバーの統計を読みやすい形で示す HTML ページで表示して、サーバー管理者がサーバーの稼動状況を確認できるようにします。
mod_userdir	ユーザーのホーム・ディレクトリ。ユーザー固有のディレクトリ用に提供します。
mod_usertrack	Cookies を使用したユーザー追跡。

Oracle9i Application Server に含まれる、その他の Oracle Apache モジュールは、保証やサポートのない、そのままの状態を提供されています。Apache Software Foundation またはお客さまを含む、オラクル社以外からの Apache モジュールは、オラクル社ではサポートしていません。

さらに、オラクル社は Oracle Apache モジュールのみを含む Apache の構成で再現できる問題に対してのみ、技術的なサポートを提供します。

Oracle help For Java の既知の問題について

ヘルプ・ナビゲータなどの Oracle help For Java 画面で、ドロップダウン・メニューに誤ったショートカット・キーが表示され、正常に動作しません。マウスまたは方向キーを使用して選択してください。

「Pro*COBOL for WindowsNT プリコンパイラ・スタート・ガイド」の訂正

2-8 ページ「サンプル・プログラムの作成」の記述に誤りがあります。

《誤》

リリース 8.1.6 の場合、バッチ・ファイルは
ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥precomp¥demo¥procob にあります。リリース 1.8.51
の場合、ファイルは ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥precomp¥demo¥procob2 にあり
ます。

《正》

リリース 1.8.51 の場合、バッチ・ファイルは
ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥precomp¥demo¥procob にあります。リリース 8.1.6 の
場合、ファイルは ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥precomp¥demo¥procob2 にありま
す。

Pentium4 搭載マシンで使用する場合の注意事項

CPU に Pentium4 を搭載したマシンでは Oracle Universal Installer (OUI) が起動せず、インストールを行うことができません。また、同梱の Java ツールも動作しないものがあります。

【原因と対応】

この問題は、Pentium4 の CPU を搭載したマシンにおける、Java JIT ライブラリの不具合が原因で発生します。次の手順により JIT コンパイラを使用しないようにすることで、回避できます。

1. Oracle8i の CD-ROM から、install ディレクトリを HDD 上にコピーしてください。
2. <install ディレクトリをコピーした Dir>¥oraparam.ini を編集して、次のパラメータを変更してください。
oraparam.ini ファイルの読み取り専用属性は事前に解除しておく必要があります。

- a. JRE_LOCATION パラメータの値を、CD-ROM のあるドライブからのフルパス指定に変更してください。（次の設定は、Windows にて、8.1.6 の CD が D ドライブにある場合の例です）

```
JRE_LOCATION=D:/stage/Components/oracle.swd.jre/1.1.7.24/1/DataFiles/Expanded/jre
```

- b. OUI_LOCATION パラメータの値を、CD-ROM のあるドライブからのフルパス指定に変更してください。（次の設定は、Windows にて、8.1.6 の CD が D ドライブにある場合の例です）

```
OUI_LOCATION=D:/stage/Components/oracle.swd.oui/1.7.0.19.0/1/DataFiles/Expanded
```

- c. JRE_MEMORY_OPTIONS の値に"-nojit"を追加してください。

```
JRE_MEMORY_OPTIONS=-nojit -mx48m
```

3. HDD 上にコピーしたインストーラ（Windows の場合は <install ディレクトリをコピーした Dir>%win32%setup.exe）を実行して、インストールを開始してください。
4. インストールを開始したらすぐに、その時点で起動している jre あるいは jrew のプロセス ID (PID) をメモしてください。（後の作業で必要となります）
5. インストーラが起動すると、「ファイルの場所 (Location)」の設定にて、「ソース」として、products.jar ファイルの位置を指定する箇所があります。ここにデフォルトで指定されているパスには、products.jar が存在しませんので、手動で修正してください。次のディレクトリを指定してください。

<CD-ROM ドライブのパス>%stage%products.jar

例えば、Windows にて、CD-ROM ドライブが D ドライブにある場合は、

```
D:%stage%products.jar
```

と指定します。

6. インストール後、Database Configuration Assistant および Net8 Configuration Assistant を起動しようとしても、こちらは、先ほど設定した "-nojit" オプションの追加が効かないため、起動できずに固まってしまいます。
- その場合は、4. のときと比べて新たに発生した（4.のときにメモされていない PID の）jre/jrew のプロセスを強制終了してください。その際に、OUI には、設定ツールが正常終了しなかった旨のメッセージがでますが、インストール自体はこの時点で既に終了しているので、問題はありません。

以上の手順にて、インストールを行うことができます。

なお、インストール後の設定のために、Database Configuration Assistant や Net8 Configuration Assistant を立ちあげる場合には、起動前に次の作業を行ってください。

【Database Configuration Assistant】

%ORACLE_HOME%\%assistants%\dbca\DBAssist.cl を編集し、次のようにして、実行時のコマンドに "-nojit" コマンドをつけてください。

```
Command=("C:\Program Files\Oracle\jre\1.1.7\bin\jrew" -nojit -classpath...
```

【Net8 Configuration Assistant】

%ORACLE_HOME%\%network%\tools\%netca.cl を編集し、次のようにして、実行コマンドに "-nojit" オプションをつけてください。

```
Command=("C:\Program Files\Oracle\jre\1.1.7\bin\jrew" -nojit -classpath...
```

なお、次の設定ツールにつきましては、上記と同様の作業を、それぞれのツールに対応する .cl ファイルに行っていただくことにより、起動できるようになります。

cl ファイルを使って起動する設定ツール一覧（カッコ内は、対応する cl ファイル）

Net8 Configuration Assistant (%ORACLE_HOME%\%network%\tools\%netca.cl)
Net8 Assistant (%ORACLE_HOME%\%network%\tools\%netasst.cl)
Net8 Easy Config (%ORACLE_HOME%\%network%\tools\%netec.cl)
Enterprise Login Assistant (%ORACLE_HOME%\%bin%\elogin.cl)
Wallet Manager (%ORACLE_HOME%\%bin%\owm.cl)
Database Configuration Assistant (%ORACLE_HOME%\%assistants%\dbca\DBAssist.cl)
Oracle Data Migration Assistant (%ORACLE_HOME%\%assistants%\dbma\%dbmig.cl)
INTYPE File Assistant (%ORACLE_HOME%\%assistants%\ifa\ifa.cl)
Oracle Directory Manager (%ORACLE_HOME%\%ldap%\oidadmin\oidadmin.cl)

第 2 部

第 2 章 Oracle8i for Windows リリース・ノート

原典情報: Oracle8i Release Notes Release 3 (8.1.7) for Windows NT (A85305-01)

このリリースノートは、Oracle8i Enterprise Edition for Windows NT、Oracle8i Workgroup Server for Windows NT、Oracle8i Personal Edition for Windows NT および Oracle8i Client for Windows のドキュメント・セットに含まれていない重要な最新情報を提供します。
このドキュメントの内容は、次のとおりです。

- 新機能
- CD-ROM に含まれていない製品およびサポートが終了した機能
- ドキュメント
- Windows 2000 および Windows 98
- インストールの問題点
- 確認されているアップグレードの問題点
- システム管理製品
- Windows での Oracle8i ネットワーク、ディレクトリおよびセキュリティの問題
- Active Directory
- Microsoft Windows Terminal Server (TSE)
- Oracle Parallel Server
- プリコンパイラ
- Oracle XA Library
- Microsoft Transaction Server (MTS)
- Oracle Performance Monitor for Windows NT
- ORADIM
- Oracle8i 初期化パラメータ
- Oracle8i による Very Large Memory (VLM) 構成のサポート
- Oracle HTTP Server
- JDBC ドライバのデフォルトの動作
- Oracle Migration Workbench
- 確認されている問題点、制限および解決策

新機能

Legato Storage Manager

Legato Storage Manager (LSM) リリース 5.7 は、Windows 2000 での認定を受けています。

Oracle Internet File System (iFS) リリース 1.1 は、次のものに同梱されるようになりました。

- Oracle9i Application Server for Windows リリース 1.0.2 バンドル

CD-ROM に含まれていない製品およびサポートが終了した機能

- Oracle Web Publishing Assistant および Oracle AppWizard for Microsoft Visual C++ は、リリース 8.1.7 CD-ROM には含まれていません。これらの製品のサポートは終了しました。
- Oracle リリース 8.1.7 ソフトウェアは、Microsoft 社の Systems Management Server (SMS) に対してテストされていません。配布用の SMS パッケージの作成は中止されました。

ドキュメント

追加された README

追加された製品 README ファイルが、%ORACLE_HOME%ディレクトリの下の製品サブディレクトリまたは¥RELNOTES ディレクトリにあります。

改版された Windows 版ドキュメント

次のドキュメントは、このリリースで改版されました。

- リリース・ノート
- インストレーション・ガイド
- 『Oracle Provider for OLE DB ユーザーズ・ガイド』
- 「Oracle Objects for OLE C++ クラス・ライブラリ・ヘルプ」
- 「Oracle Objects for OLE ヘルプ」

追加された Windows 版ドキュメント

次のドキュメントはこのリリースで追加されたもので、Legato for Windows に固有です。

- 『Legato Storage Manager for Windows NT 管理者ガイド』
- 『Legato Storage Manager for Windows NT コマンド・リファレンス』

廃止された Windows 版ドキュメント

次のドキュメントはこのリリースで廃止されました。

- 『Oracle Web Publishing Assistant for Windows NT スタート・ガイド』
- 『Oracle AppWizard for Microsoft Visual C++ ユーザーズ・ガイド』

リリース 8.1.6 ドキュメントの訂正

『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』または『Oracle8i Client for Windows 管理者ガイド』

interMedia サポートのインストールに関するエラーがあります。このエラーは、第 5 章「インストール後の構成作業」、「CTXSYS ユーザー名と *interMedia Text* のデータ・ディクショナリ表を作成する方法:」のタスク 4 にあります。

4. 次のように DR0INST.SQL スクリプトを実行して、Oracle *interMedia Text* のデータ・ディクショナリ表を作成し、移入します。

```
SQL> @%ORACLE_HOME%\CTX\ADMIN\DR0INST.SQL  
%ORACLE_HOME%\CTX\LIB\ORACTXX8.DLL;
```

DLL への正しいディレクトリ・パスは、次のとおりです。

```
%ORACLE_HOME%\BIN\ORACTXX8.DLL
```

実際には上記はフルパスで指定する必要があります。

例: %ORACLE_HOME% が D:\oracle\ora81 の場合:

```
SQL> @D:\oracle\ora81\CTX\ADMIN\DR0INST.SQL D:\oracle\ora81\BIN\ORACTXX8.DLL
```

『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』または『Oracle8i Client for Windows 管理者ガイド』

これらのドキュメントの 3-7 ページの「1 つの Oracle ホームをサポートする製品」に、コンピュータ 1 台につき 1 回しかインストールできない製品のリストが記載されていますが、このリストは最新ではありません。単一 Oracle ホーム製品の最新のリストは、コンポーネント CD-ROM の¥DOC ディレクトリにある Windows 版インストール・ガイドの第 3 章を参照してください。

『Oracle COM Automation 開発者ガイド リリース 8.1.6』

マルチスレッド外部コールアウトのサポートに関するエラーがあります。マルチスレッド外部コールアウトのサポートは終了したため、1-6 ページの次の箇条書き項目を削除する必要があります。

- アーキテクチャ・モデル 2

EXTPROC は、複数のスレッドを作成できる NT プロセスとして動作します。Oracle データベースに複数のセッションが接続される場合、Oracle により作成される EXTPROC プロセスは 1 つだけです。各データベース・セッションを処理する別々の EXTPROC プロセスが作成されるわけではありません。この 1 つの EXTPROC が、各データベース・セッションごとにスレッドを 1 つ作成します。

Windows 2000 および Windows 98

この項では、次の項目について説明します。

- Windows 2000 のサポート
- Windows 2000 ユーザー
- Windows 2000 Multi-language Edition
- Windows 95 および Windows 98 ユーザー

Windows 2000 のサポート

Windows NT 版の Oracle8i リリース 8.1.7 は Windows 2000 での認定を受けていますが、次の例外があります。

- Oracle Object Link Manager は、Windows 2000 ではサポートされません。
- ¥OPS_PREINSTALL ディレクトリにある次の Oracle Parallel Server コマンドライン・ツールは、Windows 2000 ではサポートされません。
 - LETTERDELETE.EXE
 - DELETEDISK.EXE
 - LOGPARTFORMAT.EXE

これらのツールは、Windows 2000 では機能せず、実行してもエラーはレポートされません。ディスクのパーティション化には、Microsoft 社の「コンピュータの管理」ツールを使用してください。

また、論理パーティションを多数作成すると、ディスク管理ツールの再起動および起動にかかる時間が非常に長くなる場合があります。

注意: リリース 8.1.6 では、¥OPS_PREINSTALL ディレクトリの CRLOGDR.EXE は Windows2000 でサポートされていませんでした。リリース 8.1.7 ではサポートされますが、/d (表示) オプションの出力が Windows NT 4.0 の場合と異なります。

Windows 2000 ユーザー

DNS ドメイン名

Windows 2000 コンピュータが DNS ドメイン名で識別されない場合、次のエラー・メッセージを受け取ります。

```
Calling query w32RegQueries1.7.0.17.0 RegGetValue
Key = HKEY_LOCAL_MACHINE
SubKey = SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters
Value = Domain
Query Exception:GetValueKeyNotFoundException
Query Exception Class:class oracle.sysman.oii.oii1.Oii1QueryException
...
```

次の手順を実行してください。

1. 「コントロール パネル」→「システム」→「ネットワーク ID」→「詳細」→「プライマリ DNS」を選択します。
2. ドメイン名を、たとえば US.ORACLE.COM のように入力します。

Windows 2000 Multi-language Edition

Oracle8i ソフトウェアは、Windows 2000 Multi-language Edition でサポートされています。

Windows 95 および Windows 98 ユーザー

Windows 95 での Oracle Objects for OLE データ・コントロールの登録

一部の Windows 95 システムでは、Oracle Objects for OLE のデータ・コントロールがオペレーティング・システムに正しく登録されていません。これは、旧バージョンの MFC ランタイム・モジュール (MFC42.DLL) がインストールされているシステムで起こります。このモジュールは Oracle Universal Installer によりアップグレードされますが、モジュールが使用中の場合、再起動するまでアップグレードされません。

Oracle Objects for OLE に必要なバージョン (6.00.8447.0) よりも古い MFC ランタイム・モジュールがインストールされている場合、再起動後にアップグレード済の MFC ランタイム・モジュールを使用して、Oracle Objects for OLE データ・コントロールをオペレーティング・システムに登録します。

これには、コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
> REGSVR32 %ORACLE_HOME%\BIN\ORADC.OCX
```

%ORACLE_HOME%は Oracle Objects for OLE のインストール時に指定した Oracle ホーム・ディレクトリです。

実際には上記はフルパスで指定する必要があります。

例: %ORACLE_HOME% が D:\oracle\ora81 の場合:

```
> REGSVR32 D:\oracle\ora81\BIN\ORADC.OCX
```


インストールの問題点

この項では、次の項目について説明します。

- 確認されている問題点、制限および解決策
- 削除
- Oracle Intelligent Agent
- 再配布可能システム・ファイル
- Windows 95 または Windows 98 での Oracle Home Selector の使用
- Oracle8i Management and Integration のカスタム・インストール
- Web ベースのインストール
- Oracle Workflow Mailer のインストール

確認されている問題点、制限および解決策

- 既存の Oracle Enterprise Manager リリース 2.1.x の Oracle ホームに対する Oracle Enterprise Manager リリース 2.2（およびそのコンポーネント）のインストールは、サポートされていません。Oracle Enterprise Manager リリース 2.2 は、新しい Oracle ホームにインストールする必要があります。
- Oracle Universal Installer for Windows リリース 8.1.7 では、ユーザー・インタフェースおよびヘルプ・コンテンツが英語以外に 24 か国語で提供されていますが、フィンランド語のヘルプ・コンテンツは一部英語で表示されます。
- Java Runtime Environment (JRE) の問題により、Windows 2000 のオペレーティング・システム・ロケールがヒンディ語、タミル語、マラティ語、サンスクリット、コンカニ語、アルメニア語またはグルジア語の場合は、現在 Oracle Universal Installer およびその他の Java ベースのツールが動作しません。

Windows 2000 コンピュータでのオペレーティング・システム・ロケールが前述のいずれかの場合は、Oracle8i リリース 8.1.7 をインストールする前に、次の手順に従って一時的に英語に変更してください。オペレーティング・システム・ロケールは、Oracle8i リリース 8.1.7 のインストール完了後に、または Oracle の Java ベース・ツールを使い終わった後に、元の値に戻すことができます。

Windows 2000 でオペレーティング・システム・ロケールを変更するには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」を選択します。

2. 「地域のオプション」をダブルクリックします。
3. 「入力ロケール」を「英語 (...)」に変更します。
4. 「OK」を選択します。

この問題は Oracle8i for Windows NT リリース 8.1.7 にも存在しますが、Windows NT では前述のロケールがサポートされていないため、問題は発生しません。

- Windows NT クライアントの Novell ドライブに CD-ROM をマウントして Oracle Universal Installer を実行すると、次のエラーが発生する場合があります。

Java Runtime Environment が <location> に見つからなかったため Oracle Universal Installer を実行できません。

Novell サーバーは長いファイル名をサポートしていないため、JRE_LOCATION のディレクトリ・パスの位置が認識されていません (8 文字を超える名前のディレクトリもあります)。したがって、この構成はサポートされません。CD-ROM をローカルにマウントするか、Windows NT Server にマウントしてください。

- 処理速度の低いコンピュータ上では、Oracle Universal Installer のロード時に画面がちらつくことがあります。インストールに影響はありません。
- Windows NT 4.0 SP5 と ATI 社のディスプレイ・ドライバを組み合わせたシステムで、Oracle Universal Installer のウィンドウを画面で頻繁に移動させるとメモリー・ダンプが発生することがあります。ディスプレイの解像度を低く設定すると、この現象の発生頻度が減る場合があります。この問題はディスプレイ・ドライバの競合であり、現時点で Windows NT のパッチはありません。
- Oracle Universal Installer の「インベントリ」ウィンドウから表示される「ヘルプ」ウィンドウは、2 度目にアクセスしたときからスクロールやサイズ変更ができなくなることがあります。回避策は、「インベントリ」ウィンドウを閉じることです。これで「ヘルプ」ウィンドウがアクセス可能になります。「ヘルプ」ウィンドウのサイズを変更してから閉じてください。次に「インベントリ」ウィンドウから「ヘルプ」ウィンドウを呼び出したときには、そのサイズで表示されます。これは、Java Development Kit (JDK) 1.1.8 が原因の不具合です。

- Oracle8i をデュアル・ブート・システムにインストールした場合、ソフトウェアは両方のオペレーティング・システムの同一の物理領域を使用します。したがって、削除など、片方のオペレーティング・システム上で実行された作業は、もう片方のオペレーティング・システムにも影響します。

この現象は、次の手順を実行して回避できます。

1. Oracle8i リリース 8.1.7 を最初の環境にインストールします。
 2. 2 つ目の環境にインストールする前に、Oracle Universal Installer からインベントリを作成する位置を尋ねられた際にデフォルト以外の位置を指定します。2 つ目の環境インベントリは最初のインベントリからは独立したものになり、両方のシステム上に別個に製品をインストールまたは削除できます。
- リリース 8.1.6 または 8.1.7 のインストール後にリリース 8.1.5 をインストールしないでください。インストールした場合は、必須の Java Runtime Environment (JRE) 1.1.7.30 が削除されるため、機能的に不完全になります。この問題点は、このようなインストールで Oracle ホーム以外にインストールされたすべての製品にも該当します。リリース 8.1.5 のインストール後に、リリース 8.1.6 または 8.1.7 をインストールする場合には、この問題は発生しません。
 - βバージョンの Oracle Provider for OLE DB がインストールされている場合は、その製品を削除してから、リリースの新しいバージョンを再インストールしてください。

削除

Oracle JVM を、Oracle8i リリース 8.1.7 でインストールされた他の製品とは別に削除することはできません。

Oracle JVM を削除すると、Oracle JVM に依存している Oracle8i およびその他の製品が Oracle Universal Installer により削除されます。

Oracle Intelligent Agent

リリース 8.1.7 では、ユーザーは基本の Oracle Intelligent Agent から、Oracle Intelligent Agent の拡張機能（Oracle Application Extensions、Oracle HTTP Server Extensions、Oracle E-Business Management Extensions、Oracle Forms Extensions、Microsoft SQL Server Extensions など）をインストール時に個別に選択できます。拡張機能は Oracle Intelligent Agent に依存しているため、拡張機能をインストールすると基本の Oracle Intelligent Agent もインストールされます。

既存の Oracle Intelligent Agent および Data Gatherer サービスが実行中でなければ、Oracle Intelligent Agent および Data Gatherer サービスは、インストール後に自動的に開始されます。したがって、Oracle Intelligent Agent の起動時に、データベースやリスナーなどの既存のサービスが検出されます。Oracle Intelligent Agent より後にインストールされたデータベースやリスナーなどのサービスを検出するには、Oracle Intelligent Agent サービスを停止してから再開する必要があります。

再配布可能システム・ファイル

Oracle8i のインストール時に、Oracle ソフトウェアの正しい動作に必要な再配布可能システム・ファイルがいくつかインストールされることがあります。これらのファイルは他のアプリケーションによって共有されており、通常はコンピュータで使用中です。

Oracle で必要とされるバージョンより古いシステム・ファイルがあった場合、Oracle Universal Installer はそのファイルをアップグレードしようとします。アップグレード対象のシステム・ファイルがコンピュータ上にすでに存在し、読取り専用指定されていると、アップグレード中にエラーが発生します。

この場合、Oracle Universal Installer では、該当のファイルをシステムにコピーする際に問題が発生したというエラーが表示されます。このようなエラーが発生したときには、問題のシステム・ファイルが書込み可能かどうか、または *SYSTEMFILE.OLD* という名前の同様のファイルがコンピュータ上に存在するかどうかを確認してください。

Oracle Universal Installer が置き換えようとしているシステム・ファイルが読取り専用の場合、書込み可能になるようにファイルの属性を変更し、Oracle Universal Installer ウィンドウで「再試行」をクリックして、システム・ファイルをアップグレードしてください。

Windows 95 または Windows 98 での Oracle Home Selector の使用

Oracle Home Selector で、PATH 環境変数のエントリを希望のとおりに入れ替えられないことがあります。この問題は、PATH がファイル AUTOEXEC.BAT の複数の場所に定義されている場合に発生します。たとえば、AUTOEXEC.BAT に次の行が存在する場合を考えてみます。

```
PATH C:¥windows
```

```
PATH D:¥oracle¥ora817;D:¥oracle¥ora816;%PATH%
```

Oracle Home Selector を使用して、PATH の D:¥ORACLE¥ORA817 と D:¥ORACLE¥ORA816 の順序を入れ替えようとすると、失敗します。

この制限を回避するには、PATH がファイル内の 1 つの場所で定義されるように AUTOEXEC.BAT を変更します。上の例では、AUTOEXEC.BAT を次のように変更します。

```
PATH D:¥oracle¥ora817;D:¥oracle¥ora816;C:¥windows
```

こうすると、Oracle Home Selector を使用して、PATH 内の Oracle ホームの順序を入れ替えることができます。

Oracle8i Management and Integration のカスタム・インストール

Oracle8i Management and Integration のカスタム・インストール時に、同じインストール・セッションで Oracle Internet Directory (OiD) と Oracle Workflow をインストールおよび構成することはできません。カスタム・インストールで OiD と Oracle Workflow の両方をインストールする場合は、インストール後に OiD の Configuration Assistant が起動され、データベース内の OiD は構成されますが、Oracle Workflow の自動構成は行われません。

注意: Oracle Workflow が自動的に構成されるのは、Oracle Workflow をインストールした後、同じインストール・セッションで新しいデータベースの作成も行った場合のみです。Oracle Workflow をインストールしたときに、Oracle ホームにデータベースがすでに存在する場合は、インストール後に Oracle Workflow を手動で構成する必要があります。

インストール・セッション後に Oracle Workflow を手動で構成するには、次の手順を実行します。

1. インストール終了後に Oracle Universal Installer を終了します。
2. Oracle Workflow 構成スクリプトを実行します。これを行うには、%ORACLE_HOME%\WF\INSTALL ディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
> inst252.bat wf_acct wf_pwd wf_home sys_pwd system_pwd INSTALL
```

文字列の意味は、次のとおりです。

wf_acct は、ワークフロー・アカウントです。OWF_MGR を使用します。

wf_pwd は、ワークフロー・アカウントの *password@db* です。OWF_MGR を使用します。

wf_home は、ワークフローの最上位ディレクトリ（たとえば、%ORACLE_HOME%\wf）です。

sys_pwd は、SYS アカウントの *password@db*（たとえば、change_on_install@wfdb）です。

system_pwd は、SYSTEM アカウントの *password@db*（たとえば、manager@wfdb）です。

Web ベースのインストール

Oracle8i リリース 8.1.7 は、HTTP を使用してインストールできます。手順は、次のとおりです。

1. 8.1.7 リリースのメディアからファイルを使用できるように、Web サーバーを構成します。
2. Web ベースのインストールを行うコンピューターに、Oracle Universal Installer をインストールします。
3. Oracle Universal Installer を起動します。
4. Oracle Universal Installer の「ファイルの場所」ダイアログで、Web サーバーによって示された、ファイル PRODUCTS.JAR を指し示す URL を入力します。次に、例を示します。

`http://acme.us.oracle.com/817/stage/products.jar`

このような Web ベースのインストールを Oracle 製品がインストールされていないコンピュータで実行すると、インストール中に 2 種類のエラーが発生することがあります。これらのエラーは、Oracle Administration Assistant for Windows NT および Oracle Intelligent Agent のインストール時に発生します。どちらのエラーも、Oracle Universal Installer が指定した URL からライブラリをダウンロードするときに発生します。エラー・メッセージは、次のとおりです。

- 最初のエラー:
エラーが発生しました。
- 2 番目のエラー:
ライブラリの読み込み中にエラーが発生しました。:NtServicesQueries

この 2 つのエラーを回避するには、次の手順を実行します。

1. どちらの場合も、エラーが発生したときに、すべてのコンポーネントのインストールを中止するか、その特定のコンポーネントのインストールを中止するかを選択できます。その特定のコンポーネントのインストールのみを中止することを選択し、続行します。
2. インストール完了後に、Oracle Universal Installer を再起動します。
3. 最初のインストールでを使用したものと同じ URL を使用して、Oracle8i Enterprise Edition (Oracle8i Standard Edition または Oracle8i Personal Edition) のカスタム・インストールを実行します。

4. Oracle Universal Installer の「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウで、Oracle Intelligent Agent (Oracle Enterprise Manager Products の下にあります) および Oracle Administration Assistant for Windows NT のインストールを選択します。選択されている他のコンポーネントは、すべて選択解除できます。

これで、2 つのコンポーネントのインストールが正常に行われます。

Oracle Workflow Mailer のインストール

Oracle Workflow Mailer のインストール時に、ファイル WFMLR.EXE が誤って %ORACLE_HOME% ディレクトリにインストールされます。Oracle Workflow Mailer を使用する前に、このファイルをディレクトリ %ORACLE_HOME%\BIN にコピーしてください。

確認されているアップグレードの問題点

この項では、次の項目について説明します。

- Required Support Files の互換性
- システム・トリガーの使用可能および使用禁止の設定
- Heterogeneous Services Agent Control Utility
- エラーORA-00604 を無視: アップグレード時
- 8.1.5 から 8.1.6 へ、8.1.6 から 8.1.7 へのアップグレード
- サーバー側コンポーネントの部分アップグレード

Required Support Files の互換性

Oracle8i リリース 8.1.7 では、8.1.6 のクライアント側ライブラリに加えて、8.1.7 のクライアント側ライブラリの互換性をサポートしています。つまり、8.1.6 のクライアント側ライブラリと同じ Oracle ホームで実行中のアプリケーションおよびツールでは、インストール中にこれらのライブラリを 8.1.7 にアップグレードしても、ランタイム・エラーは発生しません。ただし、データベースまたはリスナーによって使用されているクライアント側ライブラリでは、互換性はサポートされていません。Oracle8i リリース 8.1.6 のデータベースまたはリスナーと同じ Oracle ホームで 8.1.6 のクライアント側ライブラリをアップグレードする場合、データベースまたはリスナーも 8.1.7 にアップグレードしないと、リリース 8.1.6 のデータベースまたはリスナーが破損します。古いリリースのデータベースまたはリスナーをそのまま残す場合は、Oracle8i リリース 8.1.7 を新しい Oracle ホームにインストールする必要があります。

システム・トリガーの使用可能および使用禁止の設定

データベースを手動でアップグレードするか、Oracle Data Migration Assistant を使用して自動的にアップグレードする前に、初期化パラメータ・ファイルの `_SYSTEM_TRIG_ENABLED` を `FALSE` に設定する必要があります。一連のアップグレード作業でのデータベースのアップグレードが完了した後、Oracle JVM のアップグレードなど、その他のアップグレード作業を行う前に、初期化パラメータ・ファイルから `_SYSTEM_TRIG_ENABLED` を削除するか、または明示的に `_SYSTEM_TRIG_ENABLED` を `TRUE` に設定する必要があります。

関連項目: アップグレードおよび移行の詳細は、『Oracle8i 移行ガイド』を参照してください。

Heterogeneous Services Agent Control Utility

Heterogeneous Services Agent Control Utility (AGTCTL.EXE) は、リリースを誤って 8.1.0.0.0 とレポートします。このユーティリティのリリースは 8.1.7.0.0 です。

エラー-ORA-00604 を無視: アップグレード時

リリース 8.0.x から 8.1.7 へアップグレードする際に発生する次のエラーは無視してください。エラー・メッセージが表示されますが、アップグレードは問題なく完了しています。8.1.x から 8.1.7 へのアップグレードでは、このエラーは発生しないことに注意してください。

ORA-00604: 再帰 SQL レベル 1 でエラーが発生しました。

8.1.5 から 8.1.6 へ、8.1.6 から 8.1.7 へのアップグレード

過去に Oracle8i リリース 8.1.5 ソフトウェアから Oracle8i リリース 8.1.6 へのアップグレードを同じ Oracle ホームで行っており、今回 8.1.6 ソフトウェアを Oracle8i リリース 8.1.7 にアップグレードする場合、8.1.6 ソフトウェアの削除中にインストール・ランタイム・エラーが発生しますが、これは無視してかまいません。Oracle Universal Installer では、古いソフトウェアを削除した後、新しいソフトウェアをインストールすることで、ソフトウェアのアップグレードを行います。リリース 8.1.6 ソフトウェアの削除中に、リリース 8.1.6 の DLL である OraOLEDB.DLL を登録解除しようとする、失敗します。次のエラー・メッセージが表示されます。

A dynamic link library initialization routine failed.

このエラーが発生するのは、リリース 8.1.5 からリリース 8.1.6 へのアップグレードの際に、%ORACLE_HOME%\BIN にあるファイル OCI.DLL がリリース 8.1.6 に正しくアップグレードされなかったためです。これはリリース 8.1.6 ソフトウェアの削除時に発生するエラーであり、OCI.DLL と OraOLEDB.dll は両方ともリリース 8.1.7 に問題なくアップグレードされているため、このエラーは無視してもかまいません。

注意: Oracle8i リリース 8.1.5 または Oracle8i リリース 8.1.6 から Oracle8i リリース 8.1.7 に直接アップグレードする場合には、このインストール・ランタイム・エラーは発生しません。

サーバー側コンポーネントの部分アップグレード

特定の状況下では、Oracle8i リリース 8.1.5 または Oracle8i リリース 8.1.6 ソフトウェアのすべてではなく一部を Oracle8i リリース 8.1.7 にアップグレードする場合に、現行のセッションで古いソフトウェアのアップグレードを選択していなくても、古いソフトウェアがすべて削除されることがあります。この問題が起こらないように、Oracle Universal Installer の「サマリー」ウィンドウに十分注意してください。たとえば、リリース 8.1.6 の Oracle8i Enterprise Edition (Oracle8i Standard Edition または Oracle8i Personal Edition) の「標準」インストールを実行した後、Oracle Intelligent Agent のみをリリース 8.1.7 にアップグレードする場合、8.1.6 のコンポーネントがすべて削除されます。

注意: 古い Oracle8i データベースまたはリスナーが同じ Oracle ホームにインストールされている場合は特に、このようなサーバー側の部分アップグレードは行わないでください。詳細は、「Required Support Files の互換性」を参照してください。

古いソフトウェアの Oracle ホームに存在する基本機能を保持するには、Oracle ホームにインストールされているすべてのコンポーネントをアップグレードしてください。

ここで述べた問題を起こさずに、特定の Oracle ホームのソフトウェアの一部を部分的にアップグレードすることは可能です。これを行うには、新しいインストール・セッションで、古いソフトウェアのインストール時に選択したものとは異なる最上位コンポーネントを選択する必要があります。前述のシナリオを例にとると、リリース 8.1.6 の Oracle8i Enterprise Edition (Oracle8i Standard Edition または Oracle8i Personal Edition) の「標準」インストールを実行した後、一部のコンポーネントのみをリリース 8.1.7 にアップグレードする場合、Oracle8i Client のいずれかのインストール・タイプを選択して、通常どおりソフトウェアをアップグレードします。この方法でアップグレードを実行すると、古いソフトウェアがすべて削除されることはなく、インストールを選択したコンポーネントのみがアップグレードされます。

システム管理製品

この項では、次の項目について説明します。

- Oracle Database Configuration Assistant
- OEM_MONITOR データベース・ロール
- Enterprise Manager コンソール

Oracle Database Configuration Assistant

Oracle Database Configuration Assistant を使用して、Oracle JVM を含むカスタム・データベースを作成する場合、ご使用のシステムのハードウェア構成によっては、Oracle JVM をデータベースにロードするのに 1 時間以上かかる場合がありますので注意してください。

OEM_MONITOR データベース・ロール

OEM_MONITOR ロールは Oracle Enterprise Manager Diagnostics Pack の "優先接続情報" で指定される任意のデータベース・ユーザーに付与することができ、これは拡張（データベース）イベントの登録時に必要となります。

このロールは、`%ORACLE_HOME%\RDBMS\ADMIN\CATSNMP.SQL` に定義されていてデータベース作成時にカタログ・スクリプトによって作成されます。

OEM_MONITOR ロールに加えて、このデータベース・ユーザーには、一部の拡張イベントを評価するために、監視対象のデータベース内のデフォルト表領域に空き領域が必要です。これがない場合、権限が不十分であるという旨のメッセージが表示されます。

Enterprise Manager コンソール

Enterprise Manager コンソールに Oracle Parallel Server 拡張機能が組み込まれていません。そのため、「データベース」フォルダの下に Parallel Server が表示されません。この問題の症状として、Parallel Server を含むノードの検出後、コンソールの「ネットワーク」ノードの下に「oracle_sysman_ops」フォルダと「ops_sysman_opsinst」フォルダが表示されます。

この問題を回避するには、ファイル OPSCLIENT.PROPERTIES（パッチとして入手可能）の内容を、Oracle Enterprise Manager のプロパティ・ファイル `%ORACLE_HOME%\SYSMAN\CONFIG\OEMCLIENT.PROPERTIES` に追加します。

Windows での Oracle8i ネットワーク、ディレクトリおよびセキュリティの問題

この項では、次の項目について説明します。

- 確認されている問題点、制限および解決策
- Windows 固有の認証（ネイティブ認証）

確認されている問題点、制限および解決策

- オラクル社では通常、Windows NT コンピュータで実行されている Net8 リスナー・サービスは常に 1 つのみとすることをお薦めしています。リスナーと同じバージョン、およびそれ以前のバージョンの複数のデータベースが、この 1 つのリスナーによってサポートされます。Windows NT コンピュータで同時に 2 つの異なる Net8 リスナー・サービスを実行する必要がある場合は、必ず異なる TCP/IP ポート番号をリスニングするように構成してください。

異なる Net8 リスナーに同じ IP アドレスおよびポートを使用する場合、2 番目以降のリスナーがリスニング先を識別できなくなることはなく、この IP アドレスおよびポートがリスニングされます。その結果、Net8 リスナーの動作が予期しないものとなります。これは、Windows NT オペレーティング・システムでの TCP/IP の問題と推測されます。Microsoft 社には報告済です。

- リリース 8.1.7 では、Net8 Assistant を使用してネーム・サーバーを作成した後、TNSNAMES.ORA ファイルのロードが失敗し、次のエラーが返されます。

```
nnl-6, nnl-10, nnc-406
```

この問題を回避するには、コマンド・プロンプトで `namesctl` と入力して、`load_tnsnames` を使用します。

- Net8 Configuration Assistant を使用して、Active Directory に対する Directory Access の構成を行った場合、デフォルトの 24 か国語の一部が Active Directory 表示に組み込まれていないために、Oracle スキーマの生成が失敗することがあります。Net8 Configuration Assistant を実行して Directory Access の構成を行う前に、コマンド・プロンプトで次のように入力し、24 か国語すべての Display Specifiers が組み込まれていることを確認してください。

```
> ldifde -p OneLevel -d cn=DisplaySpecifiers,cn=Configuration,  
domain context -f temp file
```

文字列の意味は、次のとおりです。

domain context は、この Active Directory サーバーのドメイン・コンテキストです。たとえば、dc=acme,dc=com です。

temp file は、出力先のファイルです。

このコマンドで検出されたエントリの数が 24 より少ない場合でも、Net8 Configuration Assistant を使用できます。ただし、Display Specifiers の作成されていない言語についてのみ失敗した場合でも、Oracle スキーマの作成が失敗したというエラーが表示されます。

Windows 固有の認証（ネイティブ認証）

- カレント・ユーザー・データベース・リンクは、Windows 固有の認証ではサポートされていません。
- ユーザーが Windows 2000 コンピュータから Windows 2000 ドメイン・ユーザーとしてログインした場合、NTS アダプタで使用する認証メカニズムは Kerberos です。

その他のすべてのユーザー（ローカル・ユーザー、Windows NT 4.0 ドメイン・ユーザー、Windows 95 ユーザーおよび Windows 98 ユーザー）の場合は、NTS アダプタで使用する認証メカニズムは NTLM です。したがって、スタンドアロンの Windows 2000 または Windows NT 4.0 コンピュータで、認証が NTS に設定されている場合、Windows サービスの「NT LM Security Support Provider」が開始されていることを確認してください。このサービスがスタンドアロンの Windows 2000 または Windows NT 4.0 コンピュータで開始されていないと、NTS 認証は失敗します。この問題が該当するのは、Windows 2000 または Windows NT 4.0 をスタンドアロン・モードで実行している場合のみです。

Active Directory

この項では、次の項目について説明します。

- 確認されている問題点、制限および解決策
- Windows 2000 での使用
- Oracle8i 8.1.7 データベースおよび Active Directory

確認されている問題点、制限および解決策

LDAP を使って Active Directory をサポートする Oracle 機能を使用する場合、ドメイン・コントローラへのアクセスが可能な TCP/IP ホスト名の形式をすべて使用して、Active Directory コンピュータに問題なくアクセスできることを確認してください。たとえば、ドメイン・コントローラのホスト名がドメイン acme.com の server1 であれば、次の ping に成功する必要があります。

```
ping server1.acme.com
ping acme.com
ping server1
```

Active Directory では、実行中の操作に応じてこれらの形式のうち 1 つ以上を使用し、自身に対して照会を発行することがよくあります。これらの形式の中に Active Directory コンピュータへのアクセスに使用できないものがあると、一部の LDAP 操作が失敗することがあります。

Windows 2000 での使用

Windows 2000 または Windows NT で Active Directory を Oracle とともに使用する場合、Windows 2000 ドメインの DNS ドメイン名を ping してください。ping できない場合は、次のタスクのいずれかを実行します。

- Windows 2000 プライマリ・ドメイン・コントローラの IP アドレスを DNS として設定します。
- Windows 2000 ドメインの DNS ドメイン名およびドメイン・コントローラの IP アドレスを HOSTS または LMHOSTS ファイルに追加します。

たとえば、Windows 2000 ドメインが SALES、このドメインの DNS ドメイン名が SALES.ORACLE.COM、ドメイン・コントローラの IP アドレスが 255.255.255.0 であるとし、ます。Windows 2000 コンピュータでは、255.255.255.0 を DNS として設定するか、255.255.255.0 SALES.ORACLE.COM を HOSTS または LMHOSTS ファイルに追加します。

この作業を行わないと、Active Directory の使用時に、次のようなエラーが返されます。

Cannot Chase Referrals

Oracle8i 8.1.7 データベースおよび Active Directory

Windows NT および Windows 2000 では、Oracle データベース・サービスは LocalSystem、あるいは特定のローカルまたはドメイン・ユーザーのセキュリティ・コンテキストで実行されます。Oracle8i リリース 8.1.7 を Active Directory とともに使用する際に、データベース・サービスが LocalSystem のセキュリティ・コンテキストで実行されている場合は、データベース・サービスを実行中のコンピュータ名を手動で追加します。こうすると、Active Directory 内の OracleDBSecurity コンテナ・オブジェクトに対する読取り権限があれば、その OracleDBSecurity コンテナ・オブジェクトの制御エントリにアクセスできます。たとえば、データベース・サービス OracleServiceORCL がコンピュータ MYPC1 の LocalSystem のセキュリティ・コンテキストで実行されている場合、OracleDBSecurity コンテナ・オブジェクトの制御エントリにアクセスするには、OracleDBSecurity オブジェクトへの読取り権限を持つ MYPC1 を追加します。

Oracle Internet Directory

Oracle8i リリース 8.1.7 に含まれる一部の製品はディレクトリ対応のため、Oracle Internet Directory などの LDAP バージョン 3 ディレクトリ・サーバーの利点を活用できます。Oracle8i リリース 8.1.7 を購入すると、Net8、Oracle Advanced Security、Oracle8i およびこれから出荷されるすべてのディレクトリ対応 Oracle 製品とともにのみ使用可能な Oracle Internet Directory for Windows NT リリース 2.1.1 の限定使用バージョンが含まれています。

関連項目: Oracle Internet Directory の詳細は、%ORACLE_HOME%\RELNOTES ディレクトリの README_OID.TXT ファイルにある Oracle Internet Directory のリリース・ノートを参照してください。

Windows NT での Secure Sockets Layer (SSL)

Oracle データベースに接続するときに SSL を使用可能にするには、Oracle サービスとリスナー・サービスを開始するときに Windows NT の「サービス」ダイアログ・ボックスのデフォルトのユーザー・アカウントを使用しないでください。これらのサービスは、Oracle Wallet Manager で作成した Wallet と同じユーザー・アカウント内で開始してください。Oracle サービスとリスナー・サービスがデフォルトのユーザー・アカウント内で開始された場合、SSL は機能せず、リスナーは開始しません。

SSL (HTTPS を除く) のサポートは、Oracle Advanced Security の機能です。Oracle Wallet Manager も Oracle Advanced Security の機能です。

Enterprise JavaBeans

CORBA の一方向通信メッセージは、クライアントが複数の一方向メッセージを作成した後、即時に接続を切断し終了した場合には、確実にサーバーに配信されない可能性があります。これは Windows NT 4.0 SP6 および Lotus セキュリティ・パッチ付きの SP6a 上での Windows Sockets API の不具合によるものです。

一方向通信の発行直後に、たとえば `Thread.sleep()` へのコールを発行して終了しないでください。また、CORBA 仕様には、一方向通信のセマンティクスではメッセージの配信はベストエフォートで `at-most-once` と記述されています。Aurora Object Request Broker (ORB) は、一方向通信の場合でもメッセージの配信を保証していますが、Windows NT 上での配信はこの不具合により保証していない可能性があります。

Oracle Administration Assistant for Windows NT

Net8 のオペレーティング・システム固有の認証がデータベースに対して使用可能でない場合、ユーザーは Oracle Administration Assistant for Windows NT を使用してデータベース・スレッド情報を表示できません。

Microsoft Windows Terminal Server (TSE)

この項では、次の項目について説明します。

- Microsoft Windows Terminal Server の概要
- サポートされる Windows Terminal Server
- Windows Terminal Server でサポートされない Oracle 製品および機能
- Terminal Server でのリスナーの開始

Microsoft Windows Terminal Server の概要

Microsoft Windows Terminal Server は、Windows のシンクライアント Terminal Server で、Windows NT Server における複数同時クライアント・セッションのサポートを追加する製品です。Windows Terminal Server により、Oracle8i for Windows NT データベースのリリース 8.1.7 のユーザーは、オペレーティング・システムのグラフィカル・ユーザー・インタフェース (GUI) を利用できます。

サポートされる Windows Terminal Server

Oracle8i のインストールは、次の Windows Terminal Server でサポートされています。

- Windows NT Server 4.0 Terminal Server
- Windows 2000 Server、Advanced Server および Datacenter Terminal Services

関連項目: Terminal Server の詳細は、Microsoft 社の次の Web サイトを参照してください。

<http://www.microsoft.com>

Windows Terminal Server でサポートされない Oracle 製品および機能

- リモートの Terminal Services Client から、Terminal Server Service を実行中の Windows 2000 または Windows NT 4.0 Terminal Server への Oracle8i サーバー・コンポーネントのインストールは、サポートされていません。この方法で Oracle8i をインストールしようとする、Oracle Data Migration、Oracle Database Configuration Assistant、Oracle Internet Directory Configuration Assistant、Net8 Configuration Assistant、Oracle Workflow Configuration Assistant などの多数のデータベース構成ツールが停止します。構成ツールはすべて、Terminal Services Client ではなく、Terminal Server コンソールから起動してください。
- Bequeath アダプタを使用した接続
- Oracle Applications InterConnect
- Oracle Enterprise Manager
- Oracle FailSafe
- Oracle HTTP Server (powered by Apache)
- Oracle Intelligent Agent
- Oracle Message Broker
- Oracle Parallel Server ユーティリティ - Oracle Object Link Manager および SETLINK.EXE
- Oracle Parallel Server Manager
- Oracle8 JDBC ドライバ

Terminal Server でのリスナーの開始

LSNRCTL START コマンドを Terminal Services Client から実行すると、プロンプトを返さずに停止します。リスナー・サービスは開始されますが、使用できません。回避策として、リスナー・サービスがすでに作成されている場合は、コマンド・プロンプトで NET START コマンドを使用して、リスナー・サービスを開始します。LSNRCTL START コマンドは、Terminal Server コンソールから実行した場合には機能しますので注意してください。

Net8 Configuration Assistant は、Microsoft Terminal Server で Net8 リスナーを開始しようとする
と停止します。インストール中に停止した場合、Net8 Configuration Assistant を停止し、リス
ナー・サービスがすでに作成されているときには、NET START コマンドを使用してリスナ
ー・サービスを開始します。

Oracle Parallel Server

この項では、次の項目について説明します。

- ロー・デバイスおよび SYSTEM 表領域の作成
- Oracle Database Configuration Assistant

ロー・デバイスおよび SYSTEM 表領域の作成

Oracle Parallel Server とともに使用するデータベースを作成する際には、SYSTEM 表領域のサイズを 274MB に設定してください。Oracle Database Configuration Assistant でカスタム・データベースを作成する場合、データベースの作成前に、SYSTEM 表領域のサイズをデフォルトの 260MB から 274MB に変更する必要があります。また、SYSTEM 表領域用に作成するロー・デバイスのサイズは、275MB 以上とする必要があります。この要件は、『Oracle8i Parallel Server セットアップおよび構成ガイド』に記載された、対応するファイル・サイズ要件よりも優先します。

Oracle Database Configuration Assistant

Oracle Database Configuration Assistant で Parallel Server データベースを作成するときに、Windows NT サービスの *OracleServiceSID* が作成されます。このサービスは、*OracleCMService* の後で開始する必要があります。ただし、*OracleServiceSID* の *OracleCMService* への依存性は、Oracle Database Configuration Assistant によっては作成されません。したがって、ノードの再起動時には *OracleCMService* がまだ開始されていないために *OracleServiceSID* は起動に失敗します。この場合、Windows NT のイベント・ログに次のようなアプリケーション・ログが含まれています。

```
error 203; LoadOpsOsd
```

```
2, OPS: Startup routine failed: 0 2 3
```

OracleCMService の開始後に *OracleServiceSID* を開始するには、依存性を追加する必要があります。次のコマンドを入力します。

```
C:¥> CreatDep /s OracleServiceSID /d OracleCMService
```

たとえば、Oracle Database Configuration Assistant で OP1 と OP2 という 2 つのインスタンスを持つ OP というパラレル・サーバーを作成する場合、OP1 が実行中のノードでは、次のように入力します。

```
C:¥> CreatDep /s OracleServiceOP1 /d OracleCMService
```

OP2 が実行中のノードでは、次のように入力します。

```
C:¥> CreatDep /s OracleServiceOP2 /d OracleCMService
```

これにより、*OracleCMService* への依存性が各 *OracleServiceSID* サービスに追加され、サービスの起動順序が正しくなります。

プリコンパイラ

この項では、次の項目について説明します。

- 確認されている問題点、制限および解決策
- Oracle コール・インタフェース
- Pro*C/C++プリコンパイラ
- Oracle XA Library

確認されている問題点、制限および解決策

すべての Windows オペレーティング・システムでファイル名およびディレクトリ名にスペースを使用できますが、Oracle Pro*C/C++および Oracle Pro*COBOL プリコンパイラでは、ファイル名またはディレクトリ名にスペースが含まれているファイルは、プリコンパイルされません。たとえば、次のフォーマットは使用しないでください。

```
proc iname=test one.pc
```

または

```
proc iname=d:¥dir1¥second dir¥sample1.pc
```

Oracle コール・インタフェース

すべてのセッションに対するレジストリ変数を追加する場合、正しいレジストリ・キーは HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥HOMEID です。『Oracle コール・インタフェース for Windows スタート・ガイド リリース 8.1.6』に記載されている HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE は誤りです。

Pro*C/C++プリコンパイラ

- すべてのセッションに対するレジストリ変数を追加する場合、正しいレジストリ・キーは HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥HOMEID です。『Pro*C/C++ for Windows プリコンパイラ・スタート・ガイド リリース 8.1.6』に記載されている HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE は誤りです。
- Pro*C デモのコンパイルに使用する新しいバッチ・ファイル PCMAKE.BAT は、次のディレクトリにあります。

```
%ORACLE_HOME%¥PRECOMP¥DEMO¥PROC
```

Oracle XA Library

ヘッダー・ファイル XA.H は、%ORACLE_HOME%\RDBMS\DEMO ディレクトリにインストールされます。『Oracle コール・インタフェース for Windows スタート・ガイド リリース 8.1.6』および『Pro*C/C++ for Windows プリコンパイラ・スタート・ガイド リリース 8.1.6』には、ファイルが%ORACLE_HOME%\RDBMS\XA ディレクトリにあると記載されていますが、これは誤りです。また、ライブラリ・ファイルの正しい名前は、ORAXA.LIB ではなく、ORAXA8.LIB です。XA および TP モニターの一般情報は、現在次の URL に掲載されています。

<http://www.opengroup.org/publications/catalog/tp.htm>

Microsoft Transaction Server (MTS)

この項では、次の項目について説明します。

- オラクル社の Microsoft Transaction Server に関するドキュメントの訂正
- Oracle Service for Microsoft Transaction Server リソース DLL

オラクル社の Microsoft Transaction Server に関するドキュメントの訂正

『Oracle8 と Microsoft Transaction Server の連携』に、Microsoft Transaction Server は現在 Microsoft Windows NT 4.0 Option Pack の一部として入手可能であると記載されています。しかし、インストールされているバージョンは、Microsoft 管理コンソールのバージョン 1.0 です。このバージョンは、Oracle Services for Microsoft Transaction Server リリース 8.1.6 では機能しますが、リリース 8.1.7 では機能しません。Oracle Services for Microsoft Transaction Server リリース 8.1.7 を使用するには、Microsoft 管理コンソールのバージョン 1.2 を使用する必要があります。Microsoft 管理コンソールは、Microsoft Transaction Server とともに自動的にインストールされます。

Oracle Service for Microsoft Transaction Server リソース DLL

中国語バージョンの Oracle Service for Microsoft Transaction Server リソース DLL には、Oracle8i リリース 8.1.7 と整合性が取れていないものがあります。これは、次の DLL です。

- ORAMTSZHS.DLL
- ORAMMCMTS8ZHS.DLL
- ORAPMSGZHS.DLL
- ORAPSEVNTZHS.DLL

これらのファイルの最新リリースを入手するには、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

Oracle Performance Monitor for Windows NT

Oracle Performance Monitor for Windows NT は、「標準」インストール・オプションではインストールされません。「カスタム」インストール・オプションを使用して Oracle Performance Monitor for Windows NT をインストールする場合、Windows NT の「サービス」ダイアログ・ボックスで OracleHOME_NAMEDataGatherer サービスを使用禁止にする必要があります。Oracle Performance Monitor for Windows NT と Oracle Data Gatherer (Oracle Intelligent Agent のコンポーネント) は、同一コンピュータ上で共存できません。

ORADIM

ORADIM を使用したサービスの削除方法に関する次の指示が、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』から抜けていました。

ORADIM を使用してインスタンスを削除するには、次のコマンドを使用します。

```
ORADIM -DELETE -SID SIDA, SIDB, SIDC, ...
```

```
ORADIM -DELETE -SVRC SVRCA, SVRCB, SVRC, ...
```

文字列の意味は、次のとおりです。

- *SIDA*、*SIDB* および *SIDC* は、削除する SID の値です。
- *SVRCA*、*SVRCB* および *SVRC* は、削除するサービスの値です。

Oracle8i 初期化パラメータ

Windows NT では、次の初期化パラメータがリリース 8.1.7 で導入されました。これらのパラメータは、UNIX プラットフォームではすでに存在します。

- background_core_dump
- core_dump_dest
- shadow_core_dump

関連項目:

- すべての初期化パラメータの説明と、初期化パラメータ値の設定および表示方法は、『Oracle8i リファレンス・マニュアル』を参照してください。
- Windows NT でサポートされない初期化パラメータについては、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の付録 B 「Oracle8i for Windows NT でのデータベース指定」を参照してください。

Oracle8i による Very Large Memory (VLM) 構成のサポート

Oracle8i for Windows NT では、新たに Very Large Memory (VLM) 構成がサポートされています。このサポートにより、これまで Windows NT アプリケーションでは使用可能だった 4GB を超える RAM に Oracle8i からアクセスできるようになりました。

注意:この機能は、Intel Pentium II および Pentium III Xeon 32 ビット・プロセッサを使用した環境のみを対象とします。

中でも、Windows NT 4.0 上の Oracle8i Enterprise Edition (Intel PSE36 ドライバを使用) では、以前のリリースに比べて、割当て可能なデータベース・バッファが大幅に増加しました。詳細は、次のサイトを参照してください。

<http://www.intel.com/ebusiness/server/resources/pentiumii/xeon/esma.pdf>

Windows 2000 では、Oracle8i はオペレーティング・システムに組み込まれた Address Windowing Extensions (AWE) を使用して、4GB を超える RAM にアクセスします。詳細は、Microsoft 社の次の Web サイトを参照してください。

<http://www.microsoft.com/WINDOWS2000/news/fromms/intelpae.asp>

このサポートを利用するには、次の要件を満たしている必要があります。

1. Oracle8i を実行するサーバーに 4GB を超える RAM が搭載されていること。
2. Windows NT 4.0 について:
 - Service Pack 3 以降がインストールされていること。
 - Intel PSE36 ドライバがインストールされており、使用可能な状態にあること。
PSE36 システムの要件およびダウンロード方法の詳細は、次のサイトを参照してください。

<http://support.intel.com/support/performance/pse36/>

3. Windows 2000 では、Oracle8i を実行するユーザー・アカウント (通常はローカル SYSTEM アカウント) に、Windows 2000 の権限である「メモリ内のページのロック」が付与されていること。
4. VLM サポートを使用するデータベース・インスタンスの INIT.ORA ファイルに、`USE_INDIRECT_DATA_BUFFERS=TRUE` が指定されていること。このパラメータが設定されていないと、Oracle8i はこれまでのリリースと同様に動作します。
5. INIT.ORA パラメータ `DB_BLOCK_BUFFERS` および `DB_BLOCK_SIZE` がデータベースに適した値に設定されていること。データベース・バッファの合計バイト数 (`DB_BLOCK_BUFFERS` に `DB_BLOCK_SIZE` を掛けた値) は、以前のリリースでは 3GB までに制限されていましたが、この制限はなくなりましたので注意してください。
6. `VLM_BUFFER_MEMORY` (Windows NT 4.0 の場合) または `AWE_WINDOW_MEMORY` (Windows 2000 の場合) レジストリ・パラメータが、Windows NT レジストリ内の Oracle ホームに該当するキーに作成され、設定されていること。このパラメータはバイト数で指定し、デフォルトは 1GB です。Windows NT 4.0 を使用する場合、このパラメータは、データベース・バッファに使用する非 PSE36 メモリーのサイズを Oracle8i に指示します。Windows 2000 を使用する場合、このパラメータは、3GB のアドレス空間のうち、データベース・バッファ内のマッピング用に確保するサイズを Oracle8i に指示します。どちらの場合も、このメモリーは Oracle8i の 3GB の仮想アドレス空間から確保されるため、その値は 3GB 未満である必要があります。このパラメータの設定値を大きくすると、バッファに使用される Oracle8i アドレス空間が増え、バッファに使用される PSE36 または AWE メモリーが減ります。ただし、PSE36 または AWE バッファへのアクセスには、仮想アドレス領域バッファへのアクセスよりも多少時間がかかるため、データベース操作を制限することなくこのパラメータができるだけ大きな値になるように、チューニングしてください。

たとえば、Oracle8i データベースが 8GB の RAM の搭載された Windows NT 4.0 コンピュータで稼働している場合、PSE36 ドライバによって 4GB の RAM が制御されます。`DB_BLOCK_BUFFERS=2500000` および `DB_BLOCK_SIZE=2048` であれば、合計 5GB のデータベース・バッファを割り当てる必要があります。`VLM_BUFFER_MEMORY` を 1GB に設定すると、1GB のバッファが Oracle8i 仮想アドレス空間から、4GB が PSE36 ドラ

イバから確保されます。VLM_BUFFER_MEMORY を 500MB に設定した場合、PSE36 ドライバでは 4.5GB のメモリーをデータベース・バッファ用に使用できないため、起動時にエラーが発生します。同様に、VLM_BUFFER_MEMORY を 3GB に設定すると、Oracle8i のアドレス空間は Windows NT では 3GB に制限されているため、エラーが発生します。このアドレス空間には、Oracle8i のコード、共有プール、PGA メモリーおよびその他の構造体も保持する必要があります。

一般に、VLM_BUFFER_MEMORY または AWE_WINDOW_MEMORY の設定値が大きいほど、Oracle8i への接続およびメモリー割当てが少なくなります。

VLM_BUFFER_MEMORY または AWE_WINDOW_MEMORY の設定値が小さいほど、パフォーマンスが低下します。

7. これらのパラメータを設定すると、インスタンスで利用できるデータベース・バッファが増加することを除き、Oracle8i データベースをこれまでと同様に起動して動作させることができます。さらに、SGA にキャッシュできる Oracle データ・ブロックが増えるため、ディスク I/O が減少する場合があります。起動時にメモリー不足エラーが発生した場合は、次の点を確認してください。

- PSE36 ドライバがインストールされ、機能していること。
- コンピュータのメモリー・サイズに対して DB_BLOCK_BUFFERS の設定が大きすぎないかどうか。データベースの起動時には、データベース・バッファそのものよりも多くのメモリーが必要とされることに注意してください。各データベース・バッファについて、データベース・バッファ・ヘッダーも Oracle8i の仮想アドレス空間に割り当てられています。2,000,000 のデータベース・バッファを割り当てる場合、これらのバッファ・ヘッダーに必要なメモリーは数百 MB にもなります。DB_BLOCK_BUFFERS および VLM_BUFFER_MEMORY を設定する際には、この点を考慮してください。
- Oracle8i で使用可能なアドレス空間のサイズに対して VLM_BUFFER_MEMORY の設定が大きすぎないかどうか。Windows NT のパフォーマンス モニタの「Process」オブジェクトで、「ORACLE」プロセスの「Virtual Bytes」カウンタを監視します。このカウンタが 3GB に達すると、メモリー不足エラーが発生することがあります。メモリー不足エラーが発生した場合は、DB_BLOCK_BUFFERS または VLM_BUFFER_MEMORY（あるいはその両方）を、データベースが起動できるまで減らしてください。

現在、SQL*Plus for Windows NT には、4GB を超えるバッファが使用されるとデータベースの起動時に誤ったデータベース・バッファ・サイズが表示されるという制限があります。たとえば、5GB のバッファが使用されている場合、SQL*Plus では 1GB が使用されていると間違っ

Oracle HTTP Server

Oracle HTTP Server はインストール時に Secure Socket Layer (SSL) が設定された状態で自動的に起動されます。サーバーのバイナリ名は APACHE.EXE で、%ORACLE_HOME%\APACHE\APACHE にあります。

この項では、次の項目について説明します。

- Oracle HTTP Server の起動および停止
- サーバーが稼働中であることの確認
- デフォルトの Initial Static Page およびその他のステータス・ページ
- ログ・ファイルのチェック
- インストールの最後に Oracle HTTP Server を起動
- サイレント・インストール後に Oracle HTTP Server を起動

Oracle HTTP Server の起動および停止

Oracle HTTP Server は、次の 2 つの方法のいずれかで起動または停止します。

「スタート」メニューから起動または停止:

「スタート」→「プログラム」→「Oracle - *HOME_NAME*」→「Oracle HTTP Server」→「Start|Stop」

「コントロール パネル」の「サービス」ウィンドウから起動または停止:

「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「サービス」→「Oracle*HOME_NAME*HTTP_Server」→「開始|停止」

サーバーが稼働中であることの確認

タスク・マネージャを起動し、2 つの APACHE.EXE プロセスを確認します。APACHE.EXE プロセスがない場合、Oracle HTTP Server は稼働していません。

デフォルトの Initial Static Page およびその他のステータス・ページ

Initial Static Page には、各サーバー・コンポーネントのドキュメントおよびデモへのリンクが表示されます。ServerName は、構成ファイル %ORACLE_HOME%\APACHE\APACHE\CONF\HTTPD.CONF に定義されています。サーバー内のコンポーネントのドキュメントおよびデモを表示するには、次の URL をロードします。

`http://ServerName/`

サーバーステータス URL は、サーバーの現行アクティビティに関する特定の情報を提供します。

`http://ServerName/server-status/`

セキュリティ上の理由により、デフォルトの構成ファイルでは次のステータス・ページが使用禁止になっています。

`http://ServerName/perl-status/`

位置: %ORACLE_HOME%\APACHE\APACHE\CONF\HTTPD.CONF

`http://ServerName/jserv/`

位置: %ORACLE_HOME%\APACHE\JSERV\CONF\JSERV.CONF

これらのページを使用可能にするには、該当する構成ファイルを変更し、サーバーを再起動してください。

ログ・ファイルのチェック

サーバーの問題はすべて、いくつかのログ・ファイルにレポートされます。構成ファイルのログ・レベル・ディレクティブにより、ログ・ファイルに書き込まれる情報量が制御されます。

%ORACLE_HOME%\APACHE\APACHE\LOGS\ERROR_LOG

%ORACLE_HOME%\APACHE\APACHE\LOGS\SSL_ENGINE_LOG

%ORACLE_HOME%\APACHE\JSERV\LOGS\JSERV.LOG

%ORACLE_HOME%\APACHE\JSERV\LOGS\MOD_JSERV.LOG

インストールの最後に Oracle HTTP Server を起動

Oracle8i サーバーのインストールの最後に、Oracle HTTP Server は、専用の Windows NT コンソール・ウィンドウでスタンドアロン・プロセスとして起動されます。このウィンドウを閉じると、HTTP Server は停止します。Oracle HTTP Server を Windows NT のバックグラウンド・サービスとして起動できますが、この操作を問題なく行うには、システムを再起動する必要があります。システムの再起動前に Oracle HTTP Server サービスを開始しようとすると、エラーが表示され、サービスは開始されません。インストール後に Oracle HTTP Server を Windows NT サービスとして開始するには、次の手順を実行します。

(%ORACLE_HOME%が C:\oracle\ora81 の場合)

1. MS-DOS コマンド・プロンプトで、次のディレクトリに移動します。

```
> cd C:\oracle\ora81\Apache\Apache
```

2. MS-DOS コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
> apache -k shutdown
```

3. HTTP Server が停止したら、システムを再起動します。

再起動時に Oracle HTTP Server サービスが自動的に開始されます。他の作業は実行しないでください。

サイレント・インストール後に Oracle HTTP Server を起動

サイレント・インストールを実行した場合、インストールの最後に Oracle HTTP Server が起動されません。サイレント・インストールの完了後に、次の手順で Oracle HTTP Server を起動してください。(%ORACLE_HOME%が C:\oracle\ora81 の場合)

1. MS-DOS コマンド・プロンプトで、次のディレクトリに移動します。

```
> cd C:\oracle\ora81\Apache\Apache
```

2. MS-DOS コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
> apache -k start
```

3. または、システムを再起動すると、再起動時に Oracle HTTP Server サービスが自動的に開始されます。

JDBC ドライバのデフォルトの動作

Oracle8i リリース 8.1.7 では、`ResultSet::getXXXStream()` API のデフォルトの動作は、JDBC 仕様に従うように変更されています。これによって、データベース NULL 値 LONG/LONG RAW に NULL 値を返します。旧バージョンの 8.1.x JDBC ドライバでは、デフォルトの動作として、データベース NULL 値に空のストリームを返していました。8.1.7 ドライバの使用時に、以前の JDBC のデフォルト動作に戻すには、Java プロパティ `jdbc.backward_compatible_to_8.1.6` を使用する必要があります。たとえば、この Java プロパティが仮想マシンの実行時に設定されている場合、次のコマンドを実行します。

```
java -Djdbc.backward_compatible_to_8.1.6 myJavaProgram
```

これによって、8.1.7 の JDBC ドライバは、`ResultSet::getXXXStream()` のコールから空のストリームを返します。

`jdbc.backward_compatible_to_8.1.6` Java プロパティは、8.1.7 の JDBC Thin ドライバおよび OCI ドライバに適用されます。

Oracle Migration Workbench

この項では、次の項目について説明します。

- インストールの問題点
- Oracle Migration Workbench のインストール
- Oracle Migration Workbench の起動
- Oracle Migration Workbench リリース・ノート的位置
- Modal Dialog からヘルプを起動する際の制限

インストールの問題点

移行を問題なく行うには、次の点を考慮してください。

Oracle_Home ディレクトリへのインストール

リリース 1.3.0.0.0 の Migration Workbench には 8.1.7 の依存コンポーネントが含まれているため、8.1.7 の Oracle ホームまたは Migration Workbench のホーム・ディレクトリにしかインストールできません。システムに旧リリースの Oracle がインストールされている場合は、このリリースの Migration Workbench を別の Oracle ホームにインストールする必要があります。その後、インストールされている旧リリースの Oracle を指し示すようにデフォルトの Oracle ホームを切り替え、システムで使用する他のアプリケーションに対して新しい Windows NT クライアントの従属コンポーネントが使用されないようにします。これは、「Oracle Installation Products」プログラム・グループの Oracle Home Selector を使用して行います。この場合、Oracle Universal Installer には次のエラー・メッセージが表示されます。

Oracle Migration Workbench can only be installed into a new ORACLE_HOME or an existing 8.1.7 ORACLE_HOME.

Windows 95/98 から Migration Workbench を起動する場合の問題

Windows 95/98 から Migration Workbench を起動する際に、「Finished - Shortcut To」ダイアログ・ボックスに次のエラー・メッセージが表示されることがあります。

Out of environment space

Out of environment space

Bad command or file name

これらのエラー・メッセージが表示された場合、次の対応策をとってください。

- MS-DOS ダイアログ・ボックスのタイトル・バーを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- 「メモリ」タブを選択します。
- 「環境変数の初期サイズ」を「自動」から「1024」に変更します。
- 「適用」、「OK」の順に選択します。
- Migration Workbench を再起動します。

Sybase のソース・マスター・データベースのロード

Oracle に同梱されている JDK 1.1.7 の Java Runtime Environment (JRE) に不具合のあることが確認されています。この不具合が原因で、Sybase のソース・マスター・データベースのロード中に、Oracle Migration Workbench が停止します。したがって、Sun Microsystems Java Development Kit (JDK) 1.1.8 にアップグレードし、Oracle Migration Workbench を再起動してください。JDK 1.1.8 は、次のサイトからダウンロードします。

<http://java.sun.com/j2se>

この Web サイトで、次のリンクを選択し、ダウンロードの指示に従ってください。

Java Development Kit 1.1.x (JDKTM 1.1.x)

JDK 1.1.x Win32 Release

Download JDK 1.1.8_005 Software for Windows 95/98/2000/NT 4.0 (Intel Platform)

アプリケーションを C:\JDK ディレクトリにインストールします。パスの次のセクションを置き換えて、%OMWB_HOME%\OMWB\BIN ディレクトリにある OMWB.BAT ファイルを変更します。

```
%NT_START% %JRE% -classpath "C:\Program Files\Oracle\jre\1.1.7\lib\rt.jar;  
C:\Program Files\Oracle\jre\1.1.7\lib\il8n.jar;
```

次の内容に置き換えます。

```
c:\jdk\bin\java -classpath "c:\jdk\lib\classes.zip;
```

Oracle Migration Workbench のインストール

Oracle8i リリース 8.1.7 に同梱されている Oracle Universal Installer を使用して、Oracle Migration Workbench をインストールできます。

Oracle Migration Workbench の起動

Windows 95 または Windows 98 を実行している場合、Oracle Migration Workbench を実行する前に、システムを再起動してください。システムを再起動すると、JRE のパスがリセットされます。

Migration Workbench を起動するには、「スタート」→「プログラム」→「Oracle - HOME_NAME」→「Migration Utilities」→「Migration Workbench」を選択します。

Oracle Migration Workbench リリース・ノートの位置

Oracle Migration Workbench リリース 1.3.0 のリリース・ノートを表示するには、製品内で「ヘルプ」→「リリース・ノート」を選択します。

Modal Dialog からヘルプを起動する際の制限

特定の状況下では、Capture Wizard などの Modal Dialog からヘルプを起動すると、ヘルプ内での移動やスクロールができません。回避策として、「ヘルプ」→「目次」を選択してヘルプを起動してください。また、ウィザードまたは Modal Dialog を取り消すと、問題なくヘルプに移動できます。

確認されている問題点、制限および解決策

この項では、次の項目について説明します。

- VOLSIZE パラメータをサポートしないエクスポート・ユーティリティ
- Oracle サービスを実行するためのユーザー権限
- Windows NT 4.0 SP6a を使用している Dell GX110 コンピュータが自動的に再起動
- SYSTEM としてログオンし 開始モード: 自動 に設定した Windows 2000 上の Oracle データベース・サービス

VOLSIZE パラメータをサポートしないエクスポート・ユーティリティ

エクスポート・ユーティリティの VOLSIZE パラメータは、Windows NT ではサポートされません。エクスポート・ユーティリティを VOLSIZE パラメータとともに使用しようとすると、エラーLRM-00101が発生します。次に、例を示します。

```
D:\¥> exp system/manager full=y volsize=100m;
```

LRM-00101: 不明なパラメータ名です。 'volsize'

EXP-00019: パラメータ処理に失敗しました ('EXP HELP=Y' を入力するとヘルプ表示)。

EXP-00000: エラーが発生したため、エクスポートを終了します。

関連項目: エクスポート・ユーティリティの詳細は、『Oracle8i ユーティリティ・ガイド』を参照してください。

Oracle サービスを実行するためのユーザー権限

インストール済の製品に応じて、Windows NT コンピュータの再起動時に多数の Oracle サービスが自動的に開始されます。非システム・アカウントを持つユーザーには、Windows NT コンピュータでサービスを実行するためのローカル管理権限が必要です。

Windows NT 4.0 SP6a を使用している Dell GX110 コンピュータが自動的に再起動

Dell GX110 で Windows NT 4.0 (サービス・パック) SP6a を使用している場合、Oracle Database Creation Assistant または SQL スクリプトによるデータベース作成中に、コンピュータが自動的に再起動されます。この問題は、他のタイプのコンピュータやサービス・パックでは発生しません。この不具合は、Dell 社と Microsoft 社の両方に報告済です。

SYSTEM としてログオンし 開始モード：自動 に設定した Windows 2000 上の Oracle データベース・サービス

Oracle データベース・サービスを Windows 2000 にインストールし、SYSTEM ユーザー (LocalSystem) としてログインして、開始モードを「自動」に設定すると、Oracle データベース・サービスは開始されますが、データベースが自動的に起動しない場合があります。
%ORACLE_HOME%\DATABASE ディレクトリの ORADIM.LOG ファイルに、次のエラー・メッセージが書き込まれます。

ORA-12640: 認証アダプタの初期化に失敗しました。

また、Oracle Enterprise Management Agent、Oracle Enterprise Manager Management Server、Oracle Internet Directory などのサービスも、データベースに接続できないために、同じ理由で失敗することが確認されています。

この問題の回避策は、次のとおりです。

1. SQLNET.ORA から `sqlnet.authentication_services=(NTS)` という行を削除するか、SQLNET.ORA に `sqlnet.authentication_services=(NONE)` と設定します。
2. 特定のユーザーとしてサービスを開始します。この場合リスナーサービスも同様に変更する必要があります。

第 3 章 Oracle Servlet Engine

原典情報: A86590-01 Oracle8i Oracle Servlet Engine Release Notes Release 3 (8.1.7)

この章では、Oracle Servlet Engine 環境の初期設定について説明します。

次の項目について説明します。

- はじめに
- パラメータ・ファイルの変更

はじめに

1. Oracle Servlet Engine を設定するには、セッション・シェルを使用します。セッション・シェルを起動して、Oracle Servlet Engine の Web ドメインを構成するコマンドにアクセスします。

例:

```
> sess_sh -u sys/change_on_install -s jdbc:oracle:oci8:@
```

2. この手順以降は、セッション・シェルで実行します。createservice コマンドで、Web サービスを作成します。サービス・ルート・ディレクトリを定義します。サービス名と JNDI ロケーションを指定してください。マルチドメイン・サービスを作成する場合は、IP アドレスとバーチャル・ホスト名も定義してください。

```
$ createweb service -root <JNDI ロケーション> <Web サービス名>
```

例:

```
$ createweb service -root webdomains webserver
```

3. データベース・リスナーを経由して OSE にアクセスするには、addendpoint コマンドで登録します。

```
$ addendpoint -net8 <Web サービス名> <エンドポイント名>
```

例:

```
$ addendpoint -net8 -timeout 300 webserver endpnet8
```

指定のポート番号でディスパッチャを起動しても、OSE にアクセスできます。
次の例では、ポート番号 8800 のディスパッチャでアクセスします。

例:

```
$ addendpoint -port 8800 -timeout 300 webserver endp8800
```

4. `createwebdomain` コマンドで新しい Web ドメインを作成します。作成される Web ドメインは、このコマンドを実行したスキーマにより所有されます。ドメインに含まれるサブレットは、ドメイン・オーナーとして実行されます。`-docroot` オプションで OSE ファイル・ディレクトリを指定します。

```
$ createwebdomain [-docroot <ファイル・ディレクトリ>] <Web ドメイン名>
```

例:

```
$ createwebdomain -docroot /usr/local/public_html /webdomains
$ exit
```

パラメータ・ファイルの変更

必要に応じたケースを選択し、パラメータ・ファイルを変更します。

ケース 1

指定のポート番号でディスパッチャを起動する場合

初期化パラメータ・ファイル (`init.ora`) に `mts_dispatchers` パラメータを追加します。

```
mts_dispatchers = "(ADDRESS=(PROTOCOL=tcp) (HOST=localhost)¥
(PORT=<ポート番号>)) (DISP=1) (PRE=http://<Web サービス名>)"
```

例:

```
mts_dispatchers = "(ADDRESS=(PROTOCOL=tcp) (HOST=localhost)¥
(PORT=8800)) (DISP=1) (PRE=http://webserver)"
```

ケース 2

データベース・リスナーを経由して OSE にアクセスする場合

1. 初期化パラメータ・ファイル (`init.ora`) に `mts_dispatchers` パラメータを追加します。

```
> mts_dispatchers = "(PROTOCOL=tcp) (PRE=http://<Web サービス名>)"
```

例:

```
mts_dispatchers = "(PROTOCOL=tcp) (PRE=http://webserver)"
```

2. Net8 クライアント用にデフォルトのポート 1521 を使用しない TCP/IP リスナー・アドレスを構成する場合は、`local_listener` パラメータを設定し、`tnsnames.ora` ファイルなどを使用してこのパラメータを解決する必要があります。

```
> local_listener = "local_listener_name"
```

例:

```
local_listener = "listener_orcl"
```

`tnsnames.ora` ファイルにエントリを追加します。

```
> <local_listener_name> =  
>   (ADDRESS_LIST =  
>     (ADDRESS = (PROTOCOL=TCP) (HOST=localhost) (PORT=<ポート番号>))  
>   )  
> # (ポート番号 : TCP/IP リスナーがリスニングしているポート番号)
```

例:

```
listener_orcl =  
  (ADDRESS_LIST =  
    (ADDRESS = (PROTOCOL=TCP) (HOST=localhost) (PORT=7521))  
  )
```

3. `Listener.ora` ファイルにエントリを追加します。

```
> (DESCRIPTION =  
>   (PROTOCOL_STACK =  
>     (PRESENTATION = http://<Web サービス名>  
>     (SERVICE_NAME=localhost)  
>   )  
>   (ADDRESS = (PROTOCOL=TCP) (HOST=localhost) (PORT=<ポート番号>))  
> )  
> # (ポート番号 : HTTP プロトコルをリスニングするポート番号)
```

例:

```
LISTENER =  
  (DESCRIPTION_LIST =  
    (DESCRIPTION =  
      (ADDRESS_LIST =  
        (ADDRESS = (PROTOCOL=TCP) (HOST=localhost) (PORT=7521))  
      )  
    )  
  )  
  (DESCRIPTION =  
    (PROTOCOL_STACK =  
      (PRESENTATION = GIOP)  
      (SESSION = RAW)  
    )  
    (ADDRESS = (PROTOCOL=TCP) (HOST=localhost) (PORT=2481))  
  )  
  (DESCRIPTION =  
    (PROTOCOL_STACK =  
      (PRESENTATION = http://webserver)  
      (SERVICE_NAME = localhost)  
    )  
    (ADDRESS = (PROTOCOL=TCP) (HOST=localhost) (PORT=7700))  
  )  
)
```

第 4 章 Oracle Objects for OLE (OO4O) R8.1.7.3.11 リリース・ノート

原典情報: CD-ROM : ¥ stage¥Components¥oracle.p2k.oo4o¥8.1.7.3.11¥1¥DataFiles¥examples.0.0.jar 内 readme.html

このファイルには、Oracle Objects for OLE R8.1.7.3.11 固有の重要な情報が記述されています。この章では、次の項目について説明します。

- インストール上の注意
- システム要件
- 一般情報および依存コンポーネント
- 新機能
- サンプル・ファイル
- Long/Long Raw 型から BLOB、CLOB または BFILE 型への移行の推奨
- スタート・ガイド
- 再配布可能ファイル
- 確認されている問題

インストール上の注意

Oracle Objects for OLE は、複数 Oracle ホーム対応製品ではありません。インストールは、任意のホームへ1回のみ行ってください。2つ目のホームに OO4O をインストールすると、旧バージョンが使用不能になります。

Required Support Files 8.1.7 は、OO4O 8.1.7.3.11 に必須の依存コンポーネントです。oip8.dll の登録には、十分に新しいバージョンの mfc42.dll (v. 6.00.x) が必要です。Oracle Objects for OLE の Code Wizard コンポーネントをインストールするには、Microsoft Visual Basic 6.0 がご使用のマシンにインストールされている必要があります。VB 6 が OO4O のインストール前にインストールされていなかった場合は、OO4O を再インストールするか、コマンドラインから次のように regsvr32.exe ユーティリティを実行します。

```
- regsvr32.exe oo4ocodewiz.dll  
- regsvr32.exe odbtreeview.ocx  
- regsvr32.exe oo4oaddin.dll
```

これにより、ファイルが%ORACLE_HOME%\bin ディレクトリにインストールされます。

システム要件

- Windows NT 4.0、Windows 2000、Windows 95 または Windows 98 が稼働する Intel ベースの PC。
- 486-50MHz 以上のプロセッサ（Pentium を推奨）。
- 8MB のメモリー（16MB 推奨）。
- OO4O プログラム・ファイル用に 10MB の空きディスク領域。
- 最大のダイナセットと同じサイズのローカル・キャッシュ作成に十分な追加空きディスク領域。オラクル社では、スワップ・パーティションに約 10MB の空きディスク領域を確保することをお勧めします。
- OLE スクリプトが使用可能な 32 ビット・アプリケーション（Visual Basic 4/5/6、Excel 5/7 など）またはサポートされている C++コンパイラ（Microsoft Visual C++ 6.x）。
- ローカル接続または Net8 Client を使用したネットワーク経由の Oracle 7.3 または Oracle8i データベースへのアクセス。

一般情報および依存コンポーネント

このリリースは、Windows NT、Windows 2000、Windows 95 および Windows 98 で動作する、Oracle Objects for OLE の 32 ビット・バージョンです。

Microsoft Visual C++バージョン 6.x 用のクラス・ライブラリが提供されています。このリリースで提供されている C++クラス・ライブラリについては、このドキュメントの「Oracle クラス・ライブラリ」の項を参照してください。

このリリースには、次のものが含まれています。

- Windows NT、Windows 2000、Windows 95 および Windows 98 対応の 32 ビット・イン・プロセス OLE オートメーション・サーバー
- Microsoft Visual C++ 6.x 対応の 32 ビット・クラス・ライブラリ
- Windows NT、Windows 2000、Windows 95 および Windows 98 対応の 32 ビット Oracle データ・コントロール (.OCX)

新機能

- このリリースの OO4O には、Oracle Objects for OLE Code Wizard が同梱されています。このウィザードにより、Oracle PL/SQL および Java ストアド・プロシージャを実行する OO4O コードが生成されます。詳細は、Oracle Objects for OLE Code Wizard のヘルプを参照してください。
- 失われた接続の検出のサポート。この機能は接続プール機能でも内部的に使用され、切断された接続が検出されます。
- アプリケーション・フェイルオーバー通知のサポート。
- Oracle InProcServer および CPP クラス・ライブラリにおける非同期処理のサポート。

これらの新機能およびオブジェクトの詳細は、オンライン・ヘルプおよびサンプル・ファイルを参照してください。旧バージョンに配慮して、既存機能もサポートされています。

サンプル・ファイル

C++クラス・ライブラリおよびスレッド・セーフティ機能の使用法を示すサンプルや、Internet Information Server 環境で OO4O を使用するためのサンプルが追加されています。

C++のサンプルは、%ORACLE_HOME%\OO4O\CPP\WORKBOOK に、IIS のサンプルは %ORACLE_HOME%\OO4O\IIS ディレクトリにあります。

Visual Basic のサンプルは、%ORACLE_HOME%\OO4O\VB ディレクトリにあります。

Long/Long Raw 型から BLOB、CLOB または BFILE 型への移行の推奨

Oracle8i では、BLOB、CLOB および BFILE という新しい型が導入されています。Oracle Objects for OLE では、これらのデータ型の設計により、Long または Long Raw よりもはるかに高速にデータ型にアクセスできます。このため、既存の Long Raw ベースのアプリケーションは、BLOB、CLOB および BFILE ベースに変換することをお勧めします。

可能であれば、新規アプリケーションでは、Long Raw のかわりに BLOB、CLOB および BFILE を使用してください。

この移行は、必要なコード変更が少ないため比較的容易に実行できます。これは、従来の Long および Long Raw 操作に使用されていたメソッドが、BLOB、CLOB および BFILE に対しても同様に使用できるように拡張されたためです。該当するメソッドには、AppendChunk、AppendChunkByte、GetChunk、GetChunkByte、GetChunkByteEx および ReadChunk があります。主なコード変更作業には、NULL BLOB および CLOB を使用前に Empty で更新するという必須作業が含まれます。

注意： 柔軟性を最大限に高めるために、新規アプリケーションでは、これら Chunk メソッドのかわりに通常の BLOB/CLOB/BFILE の Read メソッドおよび Write メソッドを使用してください。

スタート・ガイド

オンライン・ヘルプの「OO4O オートメーション・サーバー・スタート・ガイド」の項を読み、製品とともにインストールされるサンプル・プログラムを試してください。また、オンライン・ヘルプで説明するメソッドの多くにサンプル・コードへのリンクが含まれていますので、ご使用の VB アプリケーションにコードをカット&ペーストしてお試しいただけます。

Visual Basic 6 の場合、メニューから「プロジェクト」→「参照設定」を選択して、oo4o タイプ・ライブラリをロードできます。ライブラリ名は OIP8.TLB です。その後、メニューから「表示」→「オブジェクト・ブラウザ」を選択して、oo4o オブジェクトをブラウズできます。データ・コントロールは、メニューから「プロジェクト」→「コンポーネント」を選択して追加できます。データ・コントロール名は、ORADC.OCX です。

ASP ユーザーは、%ORACLE_HOME%\oo4o\Is\Samples\ASP\ConnPool ディレクトリにあるサンプルをお試しになれます。

C++サンプル・アプリケーションの構築

「リンク」タブの下にあるライブラリ・リストに、ORACLM32.LIB が表示されていることを確認します。このとき、ORACL.H と ORACLM32.LIB がパスにあることを確認してください。必要に応じて、サンプルで指定されている接続文字列とユーザー名を変更します。

インストールのレイアウト

標準インストールの一部として次のディレクトリが作成され、対応するファイルが格納されます。

%ORACLE_HOME%\MSHELP: Oracle Objects のオンライン・ヘルプ

%ORACLE_HOME%\OO4O: SQL スクリプトおよび定数ファイル

%ORACLE_HOME%\OO4O\CPP: ライブラリ、インクルード・ファイル、DLL およびクラス・ライブラリのソース

%ORACLE_HOME%\OO4O\CPP\MFC: ライブラリ、インクルード・ファイルおよび MFC Bound クラス・ライブラリのソース

%ORACLE_HOME%\OO4O\EXCEL\SAMPLES: Excel のサンプル

%ORACLE_HOME%\OO4O\VB\SAMPLES: Visual Basic のサンプル

%ORACLE_HOME%\OO4O\VB\SAMPLES\QT: Visual Basic Quick Tour ガイド

%ORACLE_HOME%\OO4O\IIS\SAMPLES: IIS のサンプル

再配布可能ファイル

エンド・ユーザーのマシンにこのバージョンの Oracle Objects for OLE がインストールされていることが確実でない場合は、アプリケーションとともにいくつかのファイルを再配布する必要があります。これらのファイルの詳細は、オンライン・ヘルプの「OO4O の再配布可能ファイル」を参照してください。

Oracle インストーラでインストールしなかった場合、Oracle データ・コントロール (ORADC.OCX) の機能を有効にするには、レジストリに登録する必要があります。コマンド・プロンプトで regsvr32.exe oradc.ocx を実行すると、この OCX が登録されます。

確認されている問題

- Oracle In-Process Server
- Oracle データ・コントロール
- Oracle クラス・ライブラリ
- IIS/ASP

Oracle In-Process Server

可変幅キャラクタ・セットでの CLOB の使用

OraClob.Offset: 文字数

OraClob.Pollingamount: 文字数

OraClob.CopyFromBFILE

データベースに可変幅キャラクタ・セットがある場合、OraClob.CopyFromBFILE に渡された OraBFILE は、UCS2 キャラクタ・セット内のファイルを参照している必要があります。（シングルスバイト・キャラクタ・セットの場合、BFILE のキャラクタ・セットはデータベースのキャラクタ・セットと同じである必要があります。）

OraClob.Read

このメソッドに対する引数は、次のように表します。

chunksize: 文字数

amount_read: 文字数

OraClob.Write

chunksize: 文字数

amount_written: 文字数

OraClob.CopyToFile

amount: 文字数

offset: 文字数

chunksize: バイト数

ファイルは NLS_LANG 設定と同じ書式になります。

OraClob.CopyFromFile

amount: バイト数
offset: 文字数
chunksize: バイト数

ファイルは NLS_LANG 設定と同じ書式になります。

長さが不明な場合の LOB 書込みでのポーリングの使用

OraLob.Pollingamount = 0 だが OraLob.Write の piecetype が ORALOB_ONE_PIECE でない場合も、ポーリングは発生します。ポーリングは、ORALOB_LAST_PIECE が、Write のコールに引数として送られると終了します。これは、事前に文字総数を計算すると負荷が大きいときに、OraClob.Write を可変幅キャラクタ・セットでコールする場合などに特に役立ちます。

OraParameter 値が空の文字列ではなく NULL のバリエーションを返す

最新の不具合の修正の一部として、OraParameter.Value は NULL 型のバリエーションを返してデータベースの NULL 値に対応するようになりました。従来のケースでは、空の文字列（すなわち不具合）が返されていました。現在は、OraParameter.Value を文字列変数に設定した場合に NULL が返されると、文字列変数を NULL には設定できないため、Visual Basic ではエラーが発生します。かわりに、バリエーションを使用してください。

接頭辞"Db"から始まるメソッドをドキュメントから削除

接頭辞"Db"で始まるメソッド（OraSession.DbOpenDatabase など）は、ドキュメントから削除されています。ただし、下位互換性を考慮し、メソッドそのものは継続してサポートされます。"Db"接頭辞を持たない同じメソッドについても、同様に継続してサポートされます。

RAW にバインドされた OraParameter および OraParamArray でのバイト配列のサポート

これまでは、バインド・パラメータを設定して ORATYPE_RAW を使用するとき、プログラマは RAW 値の 16 進表現を含んだ文字列を渡す必要がありました。バイト配列は使用できませんでした。そこで、このバージョンでは ORATYPE_RAW_BIN データ型が導入されました。これを使用すると、プログラマはバイト配列を IN パラメータに渡し、NULL でない OUT パラメータに対してはバイト配列が返されるようになります。

文字列の場合も同じですが、OUT パラメータが 128 バイトを超える領域を必要とし、入力配列が必要とされる出力サイズより小さい場合は、OraParameter の MinimumSize プロパティを使用する必要があります。OraParameters.AddTable (OraParamArray の場合) にも、ElementSize パラメータが同様の目的で使用されます。

表の列にバインドされている場合の ORATYPE_RAW_BIN バインド・バッファの最大許容サイズは 2000 バイトで、ストアド・プロシージャにバインドされている場合は 32KB です。OraParamArray を使用する配列のバインドでは、ストアド・プロシージャにバインドする場合はどの要素も 4000 バイト以下である必要があります(表の列の場合は 2000 バイト以下)。OraParamArray をストアド・プロシージャに対してバインドする場合、ORATYPE_RAW は使用できません。それには、ORATYPE_RAW_BIN が必要となります。

(これに関連する変更が C++ クラス・ライブラリに加えられました。詳細は、後述する C++ のリリース・ノートを参照してください。)

サンプル・コードは、%ORACLE_HOME%\OO4O¥VB¥RAW ディレクトリにあるサンプルを参照してください。

OraAQ オブジェクトの MonitorStart メソッドは、DCOM のない旧バージョンの Windows 95 ではサポートされない

ご使用の Windows 95 マシンに、DCOM および新しいバージョンの OLE32.DLL と MFC42.dll をインストールしてください。その後、regsvr32.exe を使用して、oip8.dll および oradc.ocx を %ORACLE_HOME%\bin ディレクトリに再登録します。

NCHAR または NVARCHAR2 データ型による ORA-12704 の発生

NCHAR および NVARCHAR2 のデータ型は、このリリースではサポートされていません。これらの型に対して操作を試みると、「キャラクタ・セットが一致しません」というエラーが発生します。

型ライブラリの変更

OO4O のリリース 2.3.x (2.3.4 以前) および OO4O 8.1.3.3.0 では、型ライブラリとの互換性がありませんでしたが、この問題は現行のリリースでは解決されています。OO4O リリース 2.3.x (2.3.4 以前および 8.1.3.3) のアーリー・バインディングを使用するアプリケーションは、再コンパイルする必要があります。

ORADYN_ORAMODE のダイナセットを持つ LOB 列

このリリースでは、ORADYN_ORAMODE オプションで作成されたダイナセットに LOB 列を追加することはできません。

Lob、Object、REF、コレクションの使用済書込み

その他すべての列型では、更新しようとした際にフィールドの値が別のユーザーによって変更されている場合は、「OIP-4119: データは更新されています」というエラーを受け取ります。このエラーは、BLOB および CLOB、Object、REF およびコレクション型では発生せず、データは通常どおりに更新されます。

Windows 95 でのフリー・スレッド化

oo4o を Windows95 のフリー・スレッド環境で使用するには、InProcServer32 キーに、ThreadingModel = "Both" という文字列値を追加します。NT 環境では、これがデフォルトで追加されます。

OpenDatabase の ORADB_NOWAIT オプション

このオプションによる動作は、リリース 2.3 の場合とは大幅に異なります。これは、OraDynaset にのみ適用されるようになりました。したがって、OraSqlStmt オブジェクトまたは ExecuteSQL コールに対してはいかなる影響も及ぼしません。また、このリリースでは行がロックされた場合にのみエラーが返されます（2.3 では、どのような短いデータベース・リソースの競合に対してもエラーが返され、ほとんどの場合に中断していました）。

LONG/LONG RAW 列の ChunkSize

ChunkSize は 65280 バイト以下で、オンライン・ドキュメントに記載されている 64KB ではありません。これは、GetChunk、GetChunkByte、GetChunkByte、GetChunkByteEx および ReadChunk のすべてのチャンク・メソッドにあてはまります。

MoveTo、MoveRel、Movexxxxn の動作

MoveTo:

このメソッドの動作は正常ですが、ドキュメントではその動作についての説明がありません。リフレッシュ間の行番号は静的です。行番号は、ROWID と非常によく似ており、削除後に動的に再割当てされることはありません。そのため、MoveFirst の後に MoveTo 4 を実行すると、行 2 および 3 が削除されているかどうかにかかわらず、同じ行に移動します。したがって、たとえば、リフレッシュ直後などで行が削除されていないことが確実な場合以外は、行番号の値に基づいた計算は行わないでください。つまり、行 1 と行 4 との間に有効な（削除されていない）行がいくつあり、それがどのくらい離れているかは、正確に把握できません。行番号はラベルまたは ID としてのみ機能し、行が削除されている場合、その値は相対的な位置を表しません。

MoveRel、Movexxxxn

これらのメソッドは、行が削除されていると正常に動作しません。 指定したオフセット値を不適切に行番号に追加し、そこへ（あるいは、結果の行が削除されている場合は、次に使用可能な有効行へ）移動してしまいます。 リフレッシュ直後のように行がまったく削除されていないことが確実な場合以外は、これらのメソッドは使用しないでください。 かわりに MoveNext や MovePrev のループを使用しても、同様の結果が得られます。

Find メソッド

- like 演算子は、マルチバイト言語では機能しません。
- ユーザーのスキーマには、表またはシノニム'DUAL'が必要です。
- 日付値は、VB 形式（「コントロール パネル」で指定されている形式）で取得および比較されます。 したがって、デフォルトの Oracle 形式である'DD-MON-YYYY'などの所定外の形式が使用されると、日付の比較は失敗します。
- SQL 関数 TO_CHAR(date, fmt)は、1 つ目の引数がネイティブな Oracle 形式の日付である必要があり、OO4O では文字列日付しか処理できないため、使用できません。
- SQL 関数 TO_DATE は、文字列を日付に変換しますが、前述のように OIP により VB 形式の文字列に変換されてしまうため、比較は失敗します。
- NO_CACHE ダイナセットの FindPrevious および FindLast は機能せず、NoMatch が TRUE に設定されます。

Oracle データ・コントロール

カスタム・コントロール・サポート

Oracle データ・コントロールは、完全に機能する Visual Basic カスタム・コントロール (OCX) です。 Microsoft VB データ・バインディング仕様に準拠したあらゆるデータベース対応パインド・コントロール (OCX) と互換性があります。

次に示すデータ対応コントロールは、Oracle データ・コントロールでテスト済のものです。 また、それぞれについてのコメントも示します。 ここにリストされていないコントロールは、Microsoft VB のデータ・バインディング仕様に準拠していれば、Oracle データ・コントロールと組み合わせて使用できます。

- Microsoft Visual Basic の標準コントロール
- Sheridan Data Widgets
- FarPoint Data Bound グリッド・コントロール
- VC++でのデータ・コントロールの使用

Microsoft Visual Basic の標準コントロール

テスト済バージョン: VB 4.0、5.0 および 6.0

Edit コントロール

確認されている問題はありません。

静的テキスト・コントロール

確認されている問題はありません。

Picture ボックスおよび Image コントロール

Oracle データ・コントロールを介して表示される Long Raw データは読取り専用です。Long Raw に対する追加や更新を行うには、コードを使用する必要があります。詳細は、オンライン・ヘルプの AppendChunk メソッドのサンプル・コードを参照してください。Long Raw は BLOB 列型に移行することをお薦めします。これにより、Oracle データ・コントロールによる書込みが可能となり、その処理速度もはるかに高速になります。

Microsoft OLE コンテナ・コントロール

VB 4.0 では、OLE オブジェクトをアクティブにした後の書込み操作が正常に動作しません。データベースに書き込まれたオブジェクトは破損しています。これは、VB 5.0 および 6.0 では正常に動作します。

Microsoft Data Bound リストボックス・コントロール

ORADC.UpdateRecord には応答しません。かわりに、MoveNext または MovePrevious を使用して強制的に更新を実行してください。

Microsoft Data Bound コンボボックス・コントロール

ORADC.UpdateRecord には応答しません。かわりに、MoveNext または MovePrevious を使用して強制的に更新を実行してください。

Microsoft Data Bound グリッド・コントロール

データ・コントロールの基礎となる `Recordset` が EOF または BOF に移動されると、その状態でユーザーがグリッドを使用しても正しく描画されません。このため、`ORADC1.Recordset` をコードで使用するたびに、BOF および EOF を確認することをお勧めします。実際に移動されていた場合は、`MoveFirst` に続いて `MoveLast` を実行 (EOF の場合) するか、`MoveLast` に続いて `MoveFirst` を実行 (BOF の場合) します。これにより、行が再描画されます。

グリッドの `Scroll` (`DBGRID.Scroll`) メソッドは動作しません。

グリッドの `Refresh` (`DBGRID.Refresh`) メソッドは動作しません。かわりに、`ORADC.Recordset.Refresh` を使用してください。

キーボードの[Del]キーを使用して行を削除すると、現在行が 1 行ではなく 2 行先にジャンプします。回避策として、コード `ORADC.Recordset.Delete` に対応付けられたボタンを使用します。

`MSGRID` ブックマーク (`DBGRID.Bookmark`) と Oracle Objects ブックマーク

(`ORADC.Recordset.Bookmark`) に互換性はありません。`ORADC.Recordset.Bookmark` プロパティを `DBGRID.Bookmark` から取得したブックマークに設定すると、OIP-4121 が発生します。同様に、グリッドの `SelBookmarks` コレクションに `ORADC.Recordset.Bookmarks` からのブックマークを追加しようとする、一部の行が正しく選択されません。

この問題を回避するには、Oracle Objects と `MSGrid` の間でブックマークを共有しないようにします。

つまり、`DBGrid1.Bookmark` から取得したブックマークにのみ、`DBGrid1.Bookmark` プロパティを設定します。また、`ORADC.Recordset.Bookmark` から取得したブックマークにのみ、`ORADC.Recordset.Bookmark` を設定します。

たとえば、

```
DBGrid1.Bookmark = DBGRID.SelBookmarks(0)
```

を、次の式のかわりに使用します。

```
ORADC.Recordset.Bookmark = DBGRID.SelBookmarks(0)
```

MSGRID の SelBookmarks プロパティは ORADC.Recordset.Bookmark では機能しない

ORADC.Recordset.Bookmark プロパティを DBGRID.Bookmark から取得したブックマークに設定すると、OIP-4121 が発生します。同様に、グリッドの SelBookmarks コレクションに ORADC.Recordset.Bookmarks からのブックマークを追加しようとすると、一部の行が正しく選択されません。

この問題を回避するには、Oracle Objects と MSGrid の間でブックマークを共有しないようにします。

たとえば、

```
ORADC.Recordset.Bookmark = DBGRID.SelBookmarks(0)
```

のかわりに、

```
DBGrid1.Bookmark = DBGRID.SelBookmarks(0)
```

を使用します。

Sheridan Data Widgets

テスト済バージョン: 3.12 Build 15

Sheridan Data Bound コンボ・コントロール

OIP-16389 エラーが発生する不具合と、コンボおよびドロップダウンを使用して更新するたびに NULL が挿入される不具合を修正するには、Sheridan 社 (<http://www.shersoft.com/>) から 3.12 Build 15 以降を入手します。その他に確認されている問題はありません。

Sheridan Data Bound ドロップダウン・コントロール

前述のコンボ・ボックスと同じです。

Sheridan Data Bound グリッド・コントロール

データ・コントロールの基礎となる `Recordset` が EOF または BOF に移動されると、その状態でユーザーがグリッドを使用しても正しく描画されません。そこで、`ORADC1.Recordset` をコードで使用するたびに、BOF および EOF を確認することをお勧めします。実際に移動されていた場合は、`MoveFirst` に続いて `MoveLast` を実行 (EOF の場合) するか、`MoveLast` に続いて `MoveFirst` を実行 (BOF の場合) します。

グリッド上に可視行がないとき (実際は 1 ページ以上あるグリッド上の可視行をすべて削除してしまった場合がこれに該当) に削除を行い、続いて空のように見えるページを削除しようとすると、再描画の問題が発生します。通常、ユーザーは見えない行を削除しようとはしないため、この問題は `ORADC.Recordset.Delete` のループがある場合にのみ発生します。対処方法の 1 つとして、ループ内の各削除に、`MovePrevious` に続いて `MoveNext` を追加する方法があります。これにより、`Sheridan` では削除が終了するまでグリッド上に少なくとも 1 行が表示され続けるため、問題を回避できます。もう 1 つの対処方法は、削除後にリフレッシュを行う方法です。

ダイナセットがまだ完全にフェッチされていないときに基礎となるダイナセット

(`ORADC.Recordset.AddNew`) で `AddNew` を実行すると、OIP-4118 エラーが発生します。この問題に対処するには、`MoveLast` を実行して完全フェッチを強制し、`AddNew` をコールします。

前述の問題に関連して、`Sheridan` ではすべての行がフェッチされていないと、最後の行に移動するはずが、移動しなくなってしまうケースがあります。たとえば、すべての行がフェッチされる前に、グリッド (`Grid.MoveLast`) 自体で `MoveLast` をコールするとこれが発生します。この問題に対処するには、基礎となるダイナセット (`ORADC.Recordset.MoveLast`) で `MoveLast` をコールします。

前述の問題に関連して、まだフェッチされていない行がある場合、グリッドの `MoveRecords` メソッドでは、それまでにフェッチされた行の最終行へ移動します。

グリッドの `Refresh` メソッド (`SSDBGRIID1.Refresh`) を使用しても、何も起こりません。かわりに、`ORADC.Recordset.Refresh` を使用してください。

Sheridan Enhanced データ・コントロール

検索は、等しい場合でかつ行が削除されていない場合にのみ機能します。

FarPoint Data Bound グリッド・コントロール

テスト済バージョン: 2.5.020

Long Raw から 118 バイトを引いた値が 32KB の倍数である場合、Long Raw にバインドするとアクセス違反が発生します。Farpoint 社ではこの不具合を確認済で、Spread のメンテナンス・リリースで修正される予定になっています。 修正版の入手方法の詳細は、Farpoint 社にお問い合わせください。

グリッドの最後の行を削除すると、Farpoint では新しい最終行に移動しません。 継続して削除すると、新しい最終行は正常に削除されますが、削除された行はグリッドからは消えません。 これを回避するには、コード中の各削除に MovePrevious および MoveNext を追加するか、削除がすべて終わった後でリフレッシュをコールします。

Oracle クラス・ライブラリ

可変幅キャラクタ・セットでの CLOB の使用

```
void OClob::EnableStreaming(unsigned long totalamount,unsigned long initialoffset) const
```

totalamount: Read 時は文字数で、Write 時はバイト数

initialoffset: 文字数

```
unsigned long OClob::Read(short *status, unsigned char *buffer,unsigned long buffersize,unsigned long offset) const
```

buffersize: ストリーミングが使用可能な場合は文字数、それ以外の場合はバイト数

offset: 文字数

return value: 読み込まれたバイト数

```
unsigned long OClob::Write(short *status, unsigned char *buffer,unsigned long buffersize,unsigned char piectype, unsigned long offset) const
```

buffersize: バイト数

offset: バイト数

return value: 書き込まれた文字数

```
void OClob::CopyToFile(const char *filename, unsigned long amount, unsigned long chunksize,unsigned long offset) const
```

amount: 文字数

chunksize: バイト数

offset: 文字数

ファイルは NLS_LANG 設定と同じ書式になります。

```
void OClob::CopyFromFile(const char *filename, unsigned long amount, unsigned long  
chunksize,unsigned long offset) const
```

amount: バイト数

chunksize: バイト数

offset: 文字数

ファイルは NLS_LANG 設定と同じ書式になります。

OSShutdown()実行後のプログラム終了時のアクセス違反

OSShutdown()をコールした結果プログラムが終了すると、コンパイラが生成したクリーンアップ・コードにより、スタック内の OO4O オブジェクトがすべて削除されます。 OO4O オブジェクトが削除されると、関連付けられた OIP COM オブジェクトで Release()がコールされます。 COM がすでにシャットダウンされている場合、これはアクセス違反の原因となります。 したがって、これらのケースでは、ユーザーは OShutdown()（またはオブジェクトを含む OValue の場合 Clear()）をコールする前に Close()をコールするか、プログラムはいずれにせよ終了するので OShutdown()をコールしないという選択ができます。 OO4O オブジェクトに対して Close()をコールする必要はありません。これは、オブジェクトが削除されたときに自動的に処理されます。 ただし、前述のような特殊なケースの場合は、OSShutdown の前に Close()をコールする必要がありますので注意してください。

例:

```
main()  
{  
    OSession sess;  
    ODatabase db;  
    OValue val;  
    OStartup();  
    db.Open(sess, "exampledb", "scott", "tiger", 0);  
    sess.Close();  
    db.Close();  
  
    oval.Clear(); //OValue にオブジェクトが組み込める場合にのみ必要  
    OShutdown();  
}
```

RAW データ型の追加サポート

RAW データ型のサポートを可能にするメソッドが C++ ライブラリに追加されました。

```
ODynaset:
    oresult GetFieldValue(int index, char *val, unsigned short maxlen,
        unsigned short *outlen) const;
    oresult GetFieldValue(const char *fieldname, char *val, unsigned short
        maxlen, unsigned short *outlen) const;
    oresult SetFieldValue(int index, const char *val, int len);
    oresult SetFieldValue(const char *fieldname, const char *val, int len);

OField:
    oresult GetValue(const char **val, int *len) const;
    oresult SetValue(const char *val, int len);

OParamArray:
    oresult GetValue(const char **val, int *len, int index) const;
    oresult SetValue(const char *val, int len, int index);

OParameter:
    oresult GetValue(const char **val, int *len) const;
    oresult SetValue(const char *val, int len);

OParameterCollection:
    OParameter Add(const char *name, const char *value, int len, int iotype,
        int serverType);
```

サンプル・コードは、%ORACLE_HOME%\OO4O\CPP\WORKBOOK\RAW ディレクトリにあります。

ORACLM32.LIB とリンクしようとするとエラーが発生する

このリリースの C++ クラス・ライブラリには、ORACLM32.LIB が同梱されています。これは、VC++ 6.0 以前のリンカーでは認識されません。

ApartmentThreaded（デフォルト）オプション付きの OStartup

C++クラス・ライブラリから、OStartup_MULTITHREADED オプションなしで OStartup をコールすると、同じユーザー名、パスワードおよび接続別名を持つ接続が共有されます。これにより、リリース 2.3 以前との下位互換性が保証されます。

エラー: CoInitializeEx()が OLE32.DLL で見つかりません。

旧バージョンの Windows 95 でクラス・ライブラリを使用している場合に、MultiThreading オプション付きで OStartup()をコールすると、これと同様のエラーが発生します。この問題を修正するには、NT 4.0 を入手するか、Windows 95 用の DCOM パッチを入手する必要があります。

VC++でのデータ・コントロールの使用

エラーによっては、MFC42.DLL で例外が発生します。たとえば、データ・コントロールを使用して VC++アプリケーションを実行している場合、通常なら OIP エラーが発生するような無効なデータを入力しても、MFC42.DLL で未処理例外が発生します。

IIS/ASP

IIS 4.0

IIS 4.0 で OO4O をインスタンス化するには、<OBJECT>タグを使用する必要があります。

```
<OBJECT RUNAT=Server SCOPE=Application ID=OraSession  
PROGID="OracleInProcServer.XOraSession"></OBJECT>
```

これにより、Application ("OraSession") 構文を使用せずに、OraSession オブジェクトを参照して OraSession オブジェクトにアクセスできます。これは、SCOPE=Application で処理されます。

global.asa サンプル・ファイルは、次のとおりです。

```
<OBJECT RUNAT=Server SCOPE=Application ID=OraSession  
PROGID="OracleInProcServer.XOraSession"></OBJECT>  
  
<SCRIPT LANGUAGE=VBScript RUNAT=Server>  
Sub Application_OnStart  
End Sub  
  
Sub Application_OnEnd  
End Sub  
  
</SCRIPT>
```

ASP での Long/Long Raw 列の読み込み

ASP から Long/Long Raw 列を読み込むには、OraField オブジェクトのメソッド GetChunkByteEx を使用する必要があります。

詳細は、オンライン・ヘルプを参照してください。オラクル社では、かわりに LOB の使用をお勧めします。

このリリースで改善された問題の概要

- 1418974 - データに空白文字列が含まれていると `GetRows` がクラッシュする。
- 1415566 - 接続を共有しているデータ・コントロールがクローズ時にロールバックされる。
- 1411252 - CPP: 2.3 と同様にアパートメント・スレッド・アプリケーションが接続を共有しない。
- 1380950 - `OraParameter` によりメモリー・リークが発生する。
- 1370046 - `OraDynaset.AddNew / Update` 後の最終サーバー・エラーに 1403 が含まれる。
- 1364379 - 表名に"FROM"が含まれているとダイナセットが更新できない。
- 1364313 - 表名が引用符で囲まれているとダイナセットの更新に失敗する。
- 1353095 - マルチバイト - `OraClob.Read` により CLOB データが切り捨てられる。
- 1344141 - マルチバイト - `Clob.CopyToFile` でランタイム・エラーが発生する。
- 1344085 - マルチバイト - `Clob.CopyToFile` でデータが切り捨てられる。
- 1340481 - `OraParamArray` を使用する Oracle データベースに NULL 値を入力できない。
- 1314101 - `OraDynaset.Edit` メソッドでメモリー・リーク。
- 1017692 - VARRAY での切捨てメソッドで要求より 1 つ少なく切り捨てられる。
- 961176 - `CreateAQ` メソッドが失敗時にエラーを返さない。
- 955239 - 作成された表データベース・プールが失敗した場合に正常に最終サーバー・エラーが発生しない。
- 953358 - マルチバイト - `OraClob.Read` により ORA-24812 が発生する。
- <なし> - `Collection` イテレータの使用時にアクセス違反が発生する。
- <なし> - `OraCollection` - ダイナセットが移動されても EOC/BOC がリセットされない。
- <なし> - `OraCollection` 要素を NULL に設定できない。
- <なし> - CPP: `ApartmentThreading` - `OSession` でのトランザクション・メソッドが無視される。

第 5 章 Oracle Provider for OLE DB 8.1.7.0.0

原典情報: CD-ROM : ¥stage¥Components¥oracle.p2k.oledb¥8.1.7.0.0¥1¥DataFiles¥ doc.0.0.jar 内
readme.txt

この章では、Oracle Provider for OLE DB のドキュメントの補足情報を提供します。

重要なインストール情報

OraOLEDB プロバイダは、COM コンポーネントで、複数 Oracle ホームには準拠していません。1 台のマシン上に一度に置く OraOLEDB のバージョンは 1 つに限られます。

マシン上にすでに Oracle Provider for OLE DB がインストールされている場合は、新しいプロバイダをインストールする前に、既存のプロバイダを削除してください。

Microsoft Visual Basic 6.0 の注意

Microsoft ActiveX Data Objects および Microsoft ActiveX Data Objects Recordset のライブラリは、プロジェクト参照として含める必要があります。

Microsoft Visual C++ 6.0 の注意

OraOLEDB.h は、VC++プロジェクト内の関連.cpp ファイルに含める必要があります。また、`#define DBINITCONSTANTS` もプロジェクト内の.cpp ファイルの 1 つに追加する必要があります。

新機能および 8.1.6.1.0 からの改善点

Unicode サポート

OraOLEDB では、リリース 8.1.6.1.0 から、Oracle8i および Oracle8 データベースに対して、Unicode キャラクタ・セットがサポートされるようになりました。ただし、リリース 8.1.6.1.0 では、Unicode のサポートを可能にするために、クライアントのキャラクタ・セットを UTF8 に設定する必要がありました。

リリース 8.1.7.0.0 から、OraOLEDB ではクライアントのキャラクタ・セットを UTF8 に設定する必要がなくなりました。プロバイダでは従来の構成もまだサポートされていますが、設定は不要です。ユーザー全員に必要なのは、データベースのキャラクタ・セットを必ず UTF8 に設定することのみです。クライアントのキャラクタ・セットは、従来どおり、クライアント・マシンのネイティブ・キャラクタ・セットに設定してください。

詳細は、Oracle Provider for OLE DB とともにインストールされているドキュメントを参照してください。

ストアド・プロシージャに対する LOB パラメータ

OraOLEDB では、ストアド・プロシージャに対する LOB パラメータへのアクセスがサポートされるようになりました。このサポートは、ドキュメントならびにこの後で説明する SPPrmsLOB カスタム・プロパティの使用に依存します。

SQL 文に対する NCHAR パラメータ

OraOLEDB では、SQL 文に対する N データ型 (NCHAR、NVARCHAR および NCLOB) パラメータのバインドがサポートされるようになりました。このサポートは、ドキュメントならびにこの後で説明する NDatatype カスタム・プロパティの使用に依存します。

コマンドのカスタム・プロパティ

OraOLEDB では、3つのカスタム・プロパティを持つカスタム・コマンド・プロパティ・セットが提供されるようになりました。これらのプロパティは、余分な処理のオーバーヘッドを必要な場合にのみ制限するため、コンシューマが特定の機能を選択的に使用可能にできるように追加されました。提供されるのは次のプロパティです。

- a. **PLSQLRSet:** このプロパティは、機能的には同じ名前の接続文字列属性と同じです。ストアド・プロシージャから行セット (REF CURSOR) を返されるときには、TRUE に設定します。パフォーマンスを向上させるには、コンシューマで、接続文字列属性ではなく、このプロパティを使用するようにしてください。
- b. **NDatatype:** SQL にバインドされたパラメータのいずれかが Oracle の N データ型 (NCHAR、NVARCHAR または NCLOB) である場合、このプロパティは TRUE に設定します。
- c. **SPPrmsLOB:** ストアド・プロシージャにバインドされたパラメータのいずれかが Oracle の LOB データ型 (CLOB、BLOB または NCLOB) である場合、このプロパティは TRUE に設定します。LOB パラメータは、Oracle8i (8.1.x) データベースに対しては IN、OUT および IN/OUT に設定できますが、Oracle8 (8.0.x) データベースに対しては OUT のみです。 使用する場合は、カスタム・プロパティはすべて、Command.Execute()の実行前に TRUE に設定し、実行後に FALSE に再設定します。ADO は、各 Command.Execute()の実行前に TRUE に設定する必要があることに注意してください。

詳細は、Oracle Provider for OLE DB とともにインストールされているドキュメントを参照してください。

複数行セット

OraOLEDB では、ストアド・プロシージャから複数行セットが返されるようになりました。

行セットを返すパッケージ化されていないストアド・プロシージャまたはファンクション

OraOLEDB では、パッケージ化されていないストアド・プロシージャまたはファンクションから行セットが返されるようになりました (OraOLEDB 8.1.6.0.0 では、パッケージ化されたプロシージャまたはファンクションからのみ、行セットが返されました)。この機能は、すべての Oracle データベース (Oracle8i、Oracle8 および Oracle7) に対してサポートされるようになりました。

ADOX サポート

次の ADOX オブジェクト、コレクション、プロパティおよびメソッドは、OraOLEDB ではサポートされていません。

カタログ: Create、GetObjectOwner および SetObjectOwner の各メソッド

列: Autoincrement、Default、Description の各列プロパティ

グループ: サポートされていません

索引: サポートされていません

キー: サポートされていません

プロシージャ: コマンド・プロパティ、Append および Delete メソッド

表: すべての表プロパティ

ユーザー: サポートされていません

ビュー: コマンド・プロパティ、Append および Delete メソッド

ヒント、制限および確認されている問題

- パフォーマンスを改善するために、LONG 列または LONG RAW 列で ADO メソッド AppendChunk を使用しないでください。かわりに、ADO AddNew または Update メソッドを使用して、LONG 列または LONG RAW 列全体を挿入または更新します。
- ローカルまたはグローバル・トランザクション時には、行セット内のデータの整合性に影響を与える可能性があるため、コマンド・インタフェースを使用して SQL の COMMIT、ROLLBACK または SAVEPOINT を実行しないでください。この明示的トランザクション・モードでの DDL (CREATE TABLE、ALTER VIEW など) の実行にも、同じことが言えます。Oracle の DDL は、データベースに対して暗黙的なコミットを実行するからです。DDL は自動コミット・モードでのみ実効してください。
- OraOLEDB に対するヒント構文として /*+ ... */ を使用します。ヒント構文、--+ ... は現在サポートされていません。
- Trusted Oracle データ型 MLSLABEL は、OraOLEDB ドライバではサポートされていません。
- OraOLEDB では現在 Oracle8i オブジェクトのデータ型はサポートされていません。

- オーバーロードされた PL/SQL ストアド・プロシージャおよびファンクションの場合、PROCEDURE PARAMETERS スキーマ行セットによって、オーバーロードされた最初のプロシージャまたはファンクションについてのみ、パラメータ情報が返されます。これは、OLE DB の仕様には現在のところ、オーバーロードされたプロシージャまたはファンクションに対する準備ができていないためです。
- コマンド・オブジェクトでは、現在、複数行にある LOB を一度に更新するとエラーが発生します。次に、例を示します。

```
UPDATE SomeTable SET LobCol = ? WHERE ...
```

上のスクリプトは、UPDATE 文が表内の複数行に影響を与える場合、エラーになります。この制限は LOB (BLOB または CLOB) に限られ、LONG (LONG または LONG RAW) にはありません。

- 大部分の LOB 書込み (INSERT および UPDATE) 操作には、プロバイダ内で複数の書込み操作が必要になるため、これらの操作のトランザクションを使用可能にすることをお勧めします。トランザクションを使用可能にすると、コンシューマでは、なんらかの故障が発生した場合に、書込み操作全体をロールバックできます。これは、コマンド・オブジェクトまたはレコードセット・オブジェクトから LOB を書き込む際にお勧めします。
- OraOLEDB では、現在、Oracle8i および Oracle8 データベースに対して Unicode 機能がサポートされていますが、Oracle7 に対してはサポートされていません。
- 完全な Unicode サポートを実現するには、データベースのキャラクタ・セットを UTF8 にします。UTF8 に設定しないと、データが失われる可能性があります。
- Oracle データベース・リンクを含む問合せを使用して行セットを作成できるようにするには、接続文字列属性、DistribTx を使用不可にします。このような行セットは、現在読取り専用に限られています。
- 自律型トランザクションのサポートを可能にするには、接続文字列属性、DistribTx は使用不可にします。この機能を使用すると、コンシューマでは COMMIT または ROLLBACK (あるいはその両方) を持つストアド・プロシージャを実行できます。ストアド・プロシージャでのコミットまたはロールバックは慎重に実行するように注意してください。OraOLEDB では、データがクライアント側でローカルにキャッシュされている行セットに対してトランザクション機能を提供するため、オープン行セットによってストアド・プロシージャ内で明示的なコミットまたはロールバックを実行すると、行セットがデータベースと同期しなくなる可能性があります。この場合、すべてのコミットおよびロールバック (中止) は、クライアント側から実行します (con.Commit または con.Abort)。ユーザーがストアド・プロシージャで自律型トランザクションを利用している場合は例外です。これを使用することにより、ストアド・プロシージャ内のトランザクションは、メインのトランザクションから分離され、その部分に限定されたコミットまたは中止が可能になります。自律型トランザクションは、Oracle8i (8.1.5) で初め

て導入されたもので、それより前のリリースの RDBMS では使用できません。
自律型トランザクションの詳細は、『Oracle8i アプリケーション開発者ガイド 基礎編』
および『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

- ストアド・プロシージャに対する LOB パラメータは、Oracle8i (8.1.x) データベース
に対しては IN、OUT および IN/OUT に設定できますが、Oracle8 (8.0.x) データベース
に対しては OUT のみです。
- OraOLEDB では、現在、スキーマ行セットの制限で指定されるオブジェクトの大文字・
小文字の区別は、データベース内とまったく同じにする必要があります。つまり、表
"EMP"にアクセスするために"emp"を渡すことはできません。この問題は、将来のリリ
ースで解決される予定です。
次に、例を示します。

```
Dim restrictions As Variant
...
' Schemarowset contains table EMP owned by SCOTT
restrictions = Array(Empty, "SCOTT", "EMP", Empty)
Set objRst = objCon.OpenSchema(adSchemaTables, restrictions)
...
' Schemarowset created with no rows
restrictions = Array(Empty, "scott", "emp", Empty)
Set objRst = objCon.OpenSchema(adSchemaTables, restrictions)
...
```

第 6 章 Oracle8 ODBC Driver リリース 8.1.7.0.0

原典情報: CD-ROM : ¥stage¥Components¥oracle.p2k.odbc¥8.1.7.0.0¥1¥DataFiles¥Program.0.0.jar
内 ODBCReInotes.wri

説明

Oracle8 ODBC Driver は、Microsoft ODBC (Open Database Connectivity) API を実装する Microsoft Windows 95、Windows 98、Windows NT および Windows 2000 アプリケーションから Oracle データベースへの読み込みおよび書き込みを可能にします。

ODBC 対応のアプリケーションを使用するには、Oracle8 ODBC Driver の他に、次のソフトウェアが必要です。

- Oracle Net8 リリース 8.1.7
- クライアント側のネットワーク・トランスポート
- Oracle Server

新機能

ODBC 8.1.7.0.0

- Oracle8 ODBC Driver の Microsoft ODBC 準拠レベルは 3.51 になりました。
- Oracle8 ODBC Driver は UNICODE をサポートします。UNICODE サポートは、OCI (Oracle コール・インタフェース) によって使用可能となる UNICODE 機能に依存しています。OCI 8.1 によって、SQLBindParameter による UNICODE データのデータベースへの入力と、SQLBindCol もしくは SQLGetData での UNICODE データのデータベースからの取得がサポートされます。
- Microsoft Transaction Server (MTS) サポートを無効にするためのデータソース構成オプションが追加されました。デフォルトでは MTS サポートは有効です。
- ユーザーが期限切れのパスワードでデータベースに接続しようとすると、ODBC ドライバはパスワード変更を要求し、パスワードが変更されてからデータベースに接続します。SQL_DRIVER_NOPROMPT パラメータを指定して SQLDriverConnect で接続を試みると、ドライバはパスワード変更を要求せず、かわりにパスワードが期限切れになったというエラーを表示して、接続試行を終了します。

- Microsoft の ODBC 用再配布可能コンポーネントは、Oracle ODBC Driver インストール時にはインストールされなくなります。再配布可能コンポーネントの最新版は、Microsoft の Universal Data Access WEB サイト (<http://www.microsoft.com/japan/developer/data/default.asp>)から入手することが可能です。
- 今までのバージョンで `sqora.wri` という名前だったファイルは、`ODBCReInotes.wri` という名前に変更されました。

ODBC 8.1.5.4.0

- `SQL_GD_BLOCK (SQL_GETDATA_EXTENSIONS)` サポートの追加
- DSN 用レジストリ中に `Password` エントリが可能になり、ユーザーがパスワードを入力するかわりに、ドライバがこのレジストリを読込んでパスワードを取得することができます。これは Oracle7 ODBC ドライバとの互換のために実装されています。レジストリにパスワードを格納するツールは提供されませんので、ご注意ください。
- `SQL_CLOSE` や `SQL_DROP` パラメータが付いた `SQLFreeStmt` や、`SQLCloseCursor` や、ステートメント・ハンドルに対する `SQLFreeHandle` コールで、OCI カーソルを強制クローズするオプションが可能になりました。このオプションのデフォルトでは、上記の状況では OCI カーソルを強制クローズしません。OCI カーソルを強制クローズするとパフォーマンスに影響しますが、一方で意図的に強制クローズする必要がある場合もありますので、このオプションが追加されました。

ODBC 8.1.5.3.0

- プロシージャ呼出しからの結果セットを戻すインプリメンテーションが拡張されました。カーソル参照パラメータは、プロシージャ呼出しで省略することが可能です。これは他の ODBC の実装と一貫性および互換性を持つようにしたためです。

機能性

Oracle8 ODBC Driver は、Microsoft ODBC バージョン 3.51 仕様に準拠しています。次に示す ODBC 関数はサポートしていません。

- `SQLBulkOperations`

必要なハードウェア

Oracle8 ODBC Driver を使用するには、Windows 2000、Windows NT、Windows 95 または Windows 98 でサポートされるシステム構成が必要です。次の要件も含まれます。

- 最低 16MB のシステム・メモリー
- 最低 3MB の空きディスク領域

必要なソフトウェア

- Microsoft Windows 2000、Windows NT 4.0、Windows 98 または Windows 95 オペレーティング・システム
- Oracle Net8 Client R8.1.7
- Oracle 8.1.7 に付属の Oracle Universal Installer

サーバーに必要なソフトウェア

Oracle8 ODBC Driver を介して ODBC 対応アプリケーションをサポートするために必要なサーバー・ソフトウェアを次に示します。

- Oracle Server 7.3.4.0.0 以上

リリース・ノート

インストール後の処理

Oracle8 ODBC Driver のデータ・ソースを構成するには、Microsoft ODBC データソース・アドミニストレータを使用します。詳細については、Oracle8 ODBC Driver ヘルプ・ファイルの「データ・ソースを構成する」の項を参照してください。

新機能

詳細については、Oracle8 ODBC Driver ヘルプ・ファイルの新機能の説明を参照してください。

データ変換

Oracle8 ODBC Driver は、REAL データ型と DOUBLE データ型の操作および表示について、Microsoft ODBC 3.00 SDK (Software Development Kit) のガイドラインに準拠しています。SQL_DOUBLE と SQL_FLOAT の精度 (使用できる最大桁数) は 15 桁です。

DOUBLE 型値の精度は、Oracle データベースに格納される場合、ODBC で現在サポートされている精度よりもはるかに高くなります。その結果、値の精度が失われることになります。次に例を示します。

Oracle のデフォルト精度の FLOAT 型で定義された次の数があるとします。

```
123.9991029382123
```

この数を Windows プラットフォーム上で変換すると、次のように精度が失われます。

```
123.999102938212
```

精度が失われることにより、異なるアプリケーションでは動作が違ってくる場合があります。Microsoft Access の場合、ユーザーはデータを更新できなくなります。これは、Oracle には 123.9991029382123 という値で存在するのに対し、Microsoft Access には元の値であるにもかかわらず切り捨てられた 123.99910293821 という値で存在するので、Microsoft Access はデータが変更されたと認識するためです。Microsoft Access が 123.99910293821 という切り捨てられた数を選択条件にすると、Oracle データベースには該当する行が存在しないため、行の更新ができません。Oracle データベースには、元の値である 123.9991029382123 が格納されている行しかありません。

Microsoft Query の場合は不正に表示されます。たとえば、次のような倍精度の値を表示するとします。

```
-1.1234000000000000E-001
```

Microsoft Query では次のように表示されます。

```
-1.1234000000000000E-00
```

Microsoft Query では、SQLColAttributes がコールされ、表示サイズ 22 が返されます。ODBC SDK で定義されている倍精度データの表示書式は次のとおりです。

合計長 22 (符号 1、数値 15、小数点 1、文字 E、符号 1、数値 3)

上記の例では、精度に 15 桁ではなく 16 桁の数値があるため、合計で 23 桁の文字列になっています。データが正しく表示されないのはこのためです。

一般的に、ODBC で精度の問題を避けるには、Oracle データベースに格納される DOUBLE データ型の値が『Microsoft ODBC プログラマーズリファレンス & SDK』に記載されている仕様に従っていることを確認します。

SQLDescribeParam

SQLDescribeParam が使用可能となっていますが、Oracle データベースは、入力パラメータに関する情報を返すことはサポートしていません。ODBC ドライバは入力パラメータに対して次の値を返します。(#556749)

```
DataTypePtr = SQL_VARCHAR
ParameterSizePtr = 999
DecimalDigitsPtr = 0
NullablePtr = SQL_NULLABLE
```

Oracle8 ODBC Driver の既知のソフトウェア問題

- データベース・サーバーが Windows NT 上で実行されている場合、SQLSetStmtOption の SQL_QUERY_TIMEOUT は動作しません。
- Windows NT データベース・サーバー上で行われている文の実行をキャンセルする場合、SQLCancel は動作しません。
- "ユーザー名@サービス名"という形式での接続はサポートしていません。